

- 1 議 案 名 令和 2 年度（令和元年度対象）徳島県教育委員会の
点検・評価について
- 2 提 案 理 由 徳島県教育委員会が自らの教育行政の管理・執行状況
について点検・評価し，その結果に関する報告書を
議会に提出し，公表する必要があるため。
- 3 関 係 法 令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条

令和 2 年度徳島県教育行政点検・評価委員会 議事概要

1 開催要領

- (1) 開催日時 令和 2 年 8 月 5 日 (水) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時まで
- (2) 場 所 県庁 1 1 階 審問室
- (3) 出席者

【委員】 4 名出席

奥村英樹会長, 上野ひとみ委員, 東條貴司委員, 三隅友子委員

【県】 桫 教育長, 平井副教育長, 藤本教育次長, 藤田教育次長,
長町教育次長 他

2 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 委員及び事務局職員紹介
- (4) 議 事
 - ①教育委員会の点検・評価 (案) の説明
 - ②質疑及び意見交換
- (5) 閉 会

3 配付資料

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針について
- (2) 取組目標の達成状況 (令和元年度対象)
- (3) 教育委員会の点検・評価 (案)

4 委員からの主な御意見

重点項目 I 地方創生から日本創成へ! 「徳島ならではの」の教育の推進

○キャリア教育

・インターンシップに加え、高校生と企業が協力して企業案内の動画作成を行うなど、高校生と企業が協働する事業を積極的に行えば、企業への理解が深まり、雇用のミスマッチを避けることができるのではないかと。

○個性輝く障がい者の自立を支援

・1人1台端末の施策に加え、さらに、特別支援学校高等部生徒には I C T を購入するための補助もある。これらを活用し、障がいのある子どもたちにとって、より充実した I C T 環境となるよう取組を進めるべき。

○ICTの活用

- ・遠隔授業の実施回数やテレビ会議システム・電子黒板の利用回数が指標となっているが、これらは、今後の教育活動においては普通に行われるべきことである。実施回数・利用回数ではなく、電子黒板等を活用した授業の割合を指標とすべき。
- ・Wi-Fi環境がないなど、オンライン環境のない子どもたちに対する対策が必要である。

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

○確かな学力の育成

- ・「全国学力・学習状況調査」について、全国平均を超えたか否かだけでは教員の努力の成果が見えにくい。これからの取組としての、児童生徒の「読み取る力」「書く力」「伝え合う力」の育成に関し、その力がどう変化していったかが分かるようにすべき。

○心のケア

- ・メンタルヘルスのケアは社会でも大きな課題。スクールカウンセラーの配置校が増えているとのことであるが、生徒・保護者の相談件数が増加しているということからすると、スクールカウンセラーの数の設定を思い切って上げる必要があるのではないか。

○教職員の育成

- ・ICTを活用した授業実践の研修受講者数について、1人1台端末が整備されるとなるとさらに加速していく必要がある。もう少し目標を上げるべきではないか。また、そのサポートとしてICT支援員も必要になるのではないか。
- ・ICT活用力が不十分な教員の把握を行うとともに、ICT活用力が高い教員とそうでない教員がともに学び合い、技能を高め合う関係性を学校の中で構築していく必要がある。

○学校・家庭・地域との協働

- ・学校におけるICT活用力向上については、保護者も巻き込んでみてはどうか。専門的な知識を持った保護者にも参画してもらう方法がある。

重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

○科学の魅力を実感し、世界に挑戦

- ・AI人材の育成についてはオンライン教育とは別であり、これを推進するためには、数学の力が必要である。スーパーサイエンスハイスクール事業等がまさしくそれに該当する。しっかり取組を推進すべき。

○地元企業との協働

- ・企業としても、教育活動について知るべきことが多くある。学校との協働に関しては参画したい企業も多くあるので周知を効果的に行うべき。

【その他全般的な御意見】

- ・ 県教育委員会の会議においては、新しい生活様式を導入した会議方式を積極的に推進していくべき。
- ・ 目標未達成の事業については、未達成の要因が把握できているかが重要である。
- ・ 教育委員会の取組や子どもたちの頑張りについて、保護者にわかりやすい情報提供を心がけてほしい。

令和 2 年度（令和元年度対象）

教育委員会の点検・評価（案）

令和 2 年 8 月

徳島県教育委員会

【目次】

第1章 はじめに	1
1 趣旨	
2 点検・評価の対象	
3 点検・評価の方法	
4 構成	
第2章 教育委員会活動報告	5
1 教育委員会組織	
2 教育委員会の会議等開催状況	
3 その他の活動	
第3章 令和2年度（令和元年度対象）点検・評価項目実績値等一覧表	9
第4章 令和2年度（令和元年度対象）点検・評価概要（重点項目ごと）	19
第5章 令和2年度（令和元年度対象）点検・評価結果	37
重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進	39
重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進	59
重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進	95

第1章 はじめに

1 趣旨

県教育委員会では、とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成を基本方針とし、「徳島ならではの」教育の振興に取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

このため、県教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民の皆様への説明責任を果たすため、今年度も「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象として、令和元年度における「徳島県教育振興計画(第3期)」(平成30年3月22日策定)に基づく主要施策を対象とすることとしています。

「徳島県教育振興計画(第3期)」の主要施策については、前年度分の実施状況の検証及び数値目標の達成状況の点検を、毎年度行います。

3 点検・評価の方法

- (1) 教育行政の諸施策や事務事業の取組状況について、点検・評価を行い、今後の課題や取組の方向性を明らかにします。
- (2) 点検・評価の客観性を確保するため、外部有識者からなる第三者機関「徳島県教育行政・点検評価委員会」において、ご意見・ご助言をいただきます。

○徳島県教育行政点検・評価委員会委員名簿

(50音順, 敬称略)

氏名	役職
上野ひとみ	東光株式会社 総務部長
奥村英樹	四国大学生生活科学部長
佐野勝代	徳島県消費者協会会長
東條貴司	前徳島県高等学校PTA連合会会長
三隅友子	徳島大学教養教育院教授

4 構成

(1) 教育委員会活動報告

教育委員の就任状況や教育委員会の会議の開催状況等について記載しています。

(2) 点検・評価項目実績値等一覧表

「徳島県教育振興計画(第3期)」の3つの重点項目ごとに、重点的に取り組む事業を分類し、表にまとめています。

事業ごとに、目標値、令和元年度の実績値、工程を記載するなど進捗状況を明らかにしています。

(3) 点検・評価結果(重点項目ごと)

3つの重点項目ごとに、令和元年度における主な取組を記載するとともに取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の主な取組と方向性などを示しています。

(4) 点検・評価結果

3つの重点項目に分類された事業ごとに、事業目的と令和元年度における取組状況(進捗状況)を記載するとともに、取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の取組及び方向性などを示しています。

第2章 教育委員会活動報告

若明真乃全真道首經 卷之四

1 教育委員会組織

○委員等の就任状況（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

氏名	平成31年3月31日現在の役職	異動状況
美馬 持仁	教育長	H31.4.1 教育長（2期目）就任
辻 貴博	教育長職務代理者	
藤本 宗子	教育長職務代理者	
小林 信行	委員	
河口 雅子	委員	
菊池 健次	委員	

2 教育委員会の会議等開催状況

原則毎月2回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催した。
また、今後課題となる重要な案件について、事前に理解を深めるため、委員協議会を開催した。

(1) 平成31年度・令和元年度の会議開催状況

定例会：21回 臨時会：4回 委員協議会：12回 計 37回

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定例会		2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	21
臨時会		1		1									2	4
委員協議会			2	2	1	2	2	1		1	1			12
計		3	4	5	3	4	4	3	2	2	2	2	3	37

(2) 平成31年度・令和元年度の議案等の付議状況

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
議案		5	1	4	6	12	1	7	6	3	4	4	18	71
協議事項		2	2	5		2	2	1	8		3	6	2	33
報告事項		4	2	3	6	5	5	5	2	7	1	3	5	48
計		11	5	12	12	19	8	13	16	10	8	13	25	152

3 その他の活動（主なもの）

(1) 会議等への参加 11件（うち総合教育会議が2件）

(2) 総合教育会議 2回

	開催日	議 事 内 容
1回	5月27日	・「徳島教育大綱」（素案）について ・意見交換
2回	7月31日	・「徳島教育大綱」（案）について ・意見交換

(3) 学校視察等の実施 3件

第3章 令和2年度（令和元年度対象）
点検・評価項目実績値等一覧表

(東坡先生詩集) 卷之四 蘇軾詩集
卷之五 蘇軾詩集

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績				
							目標数値 (R1年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進										
①	1	城内中学・高校における公開授業の開催	—	推進 (H29)	推進 (H30)	推進	推進	推進	推進	推進
①	2	本県初の中等教育学校の開校	—	準備 (H29)	準備	準備	準備	開校	推進	推進
①	3	全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞（団体・個人）数	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	5	5	5	5	5
①	4	鳴門渦潮高校のスポーツ科学機器を活用した体力測定人数	人	160人 (H29)	241	248	255	270	285	300
①	5	全国コンクール等での名西高校の入賞（団体・個人）数	団体・個人	61団体・個人 (H29)	115	198	65	70	70	75
①	6	スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数	事例	3事例 (H29)	4	3	3	3	3	3
①	7	SSH合同発表会への参加校数	校	5校 (H29)	7	中止	7	8	9	10
①	8	主要大学（スーパーグローバル大学）進学者数	人	297人 (H28)	290 (H29)	261 (H30)	340	340	340	340
①	9	東京大学、京都大学進学者数	人	26人 (H28)	28 (H29)	17 (H30)	44	44	44	44
①	10	ビッグデータ実証事業における活用者数	人	140人 (H28)	379	402	400	460	530	600
①	11	阿南光高校の開校	—	準備 (H29)	開校	推進	推進	推進	推進	推進
①	12	【R2年度新規指標】 大学・地域等との協働連携事業 件数	件	—	—	—	—	3	4	5
①	13	県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数（累計）	人	10人 (H29)	26	35	25	35	45	55
①	14	私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保	—	支援 (H29)	支援	支援	支援	支援	支援	支援
①	15	公私立高等学校連絡協議会の開催	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	16	児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供した特別支援学校校数	校	5校 (H29)	7	8	8	9	10	11
		【R2年度より成果指標修正】 児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供する等、地域振興・地域貢献活動に取り組んだ特別支援学校校数 （目標値は変更なし）	校	—	—	—	—	9	10	11
①	17	「とくしま特別支援学校技能検定」の受検者数（累計）	人	512 (H29)	1,086	1,626	1,200	1,600	2,000	2,400
①	18	県立特別支援学校高等部卒業生のうち就職を希望する生徒の就職率	%	100 (H29)	100	100	100	100	100	100
①	19	【R2年度新規指標】 テレワーク就労体験に取り組む県立特別支援学校（肢体不自由）数	校	—	—	—	—	3	3	3
①	20	「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合	%	準備 (H29)	20.2	41	40	60	80	100
①	21	研究協力校において作成した自律型学習教材の問題数（累計）	問	3,000 (H29)	3,644	3,893	3,400	3,600	3,800	4,000
		【R2年度より目標値上方修正】						4,000	4,200	4,400
①	22	「自立活動」等の指導が必要な生徒が在籍する高等学校における特別な指導の実施	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	23	特別支援教育に関するe-ラーニング研修支援システム問題にアクセスした件数	件	5,500 (H29)	7,173	6,920	6,200	6,400	6,600	6,800
①	24	「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」と連携した行動改善の事例数（累計）	件	74 (H29)	87	99	85	90	95	100
		【R2年度より目標値上方修正】						110	120	130
①	25	高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制）	%	97.6% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	26	高校生産業教育展における来場者数	人	1,850人 (H29)	1,910	1,952	1,950	2,000	2,050	2,100

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進 項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績	目標数値	目標数値等	目標数値等	目標数値等
							(R1年度)	(R2年度)	(R3年度)	(R4年度)
②	27	学校分散型「チェーンスクール」実施地域数(累計)	地域	6地域 (H29)	6	7	7	8	8	9
②	28	学校一体型「パッケージスクール」実施地域数(累計)	地域	2地域 (H29)	3	3	3	3	4	4
②	29	高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数	回	15回 (H29)	20	23	22	24	26	28
②	30	テレビ会議システムの利用回数	回	550回 (H29)	559	584	575	600	625	650
②	31	【R2年度新規指標】 義務教育段階における学習者用PC端末の整備	—	—	—	—	—	推進	推進	推進
②	32	電子黒板を活用した公開授業の実施回数(累計)	回	5回 (H29)	10	23	20	30	40	50
②	33	高校を拠点とした地方創生の推進	—	—	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	34	「デュアルスクール」の実施回数」モデル化に向けてのモデル試行実施回数(累計)	回	7回 (H29)	11	16	18	24	30	36
		【R2年度より成果指標修正】 「デュアルスクール」の実施回数(累計) (目標数値変更なし)	回	—	—	—	—	24	30	36
③	35	県立学校への防災士資格を有する教職員の配置率	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
③	36	防災人材育成センター等と連携した教職員のスキルアップ	—	推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	37	地域に残された災害記録の普及・啓発	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	38	体育館等におけるトイレの洋式化率	%	28% (H29)	63	90	75	100	100	100
③	39	地域と連携した防災ボランティア活動の推進	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	40	中学・高校生防災士養成数(累計)	人	360人 (H29)	514	605	600	700	800	900
重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進										
①	41	鳴門教育大学との連携	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	42	「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率	—	調査で対象となっている国語・算数(数学)で全国平均正答率以上(H29)	中学校国語A、数学A、Bにおいて全国平均正答率以上	国語・算数(数学)で全国平均正答率を上回っていない	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上
①	43	情報活用能力の育成に関する指導計画の作成	—	—	準備	策定	策定	推進	推進	推進
①	44	プログラミング教育に関する年間指導計画の作成	—	—	準備	策定	策定	推進	推進	推進
①	45	一日10分以上読書(新聞等を含む)をする児童生徒の割合	%	小学校5年生 89% (H29)	90	91	91	92	93	94
			%	中学校2年生 84% (H29)	80	81	86	87	88	89
①	46	自然体験・交流体験等への参加者数	人	813人 (H29)	929	857	900	900	900	900
①	47	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において全国平均を上回る種目数	種目	11種目 (H29)	10	9	17	17	17	17
①	48	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において運動好きの子ども割合が全国平均を上回るカテゴリー数の割合	%	100% (H29)	100	75	100	100	100	100
①	49	ICTを活用した手軽にできる運動のランキング判定システムの参加グループ数	グループ	3,535グループ (H29)	3,835	3,885	3,700	3,800	3,900	4,000

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績				
							目標数値 (R1年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
①	50	小・中学校への栄養教諭の配置人数	人	57人 (H29)	60	63	61	62	63	64
①	51	栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合	%	100% (H29)	100	93.5	100	100	100	100
①	52	学校給食に地場産物を活用する割合	%	35% (H29)	43.8	42.4	35	35	35	35
①	53	生活習慣改善等の健康課題に対する取組を、学校教育計画に位置付け、推進している学校の割合	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	54	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率	—	調査で対象となっている小5男女、中2男女が、全国平均出現率を上回る(H29)	小5男女 中2男女 全国平均出現率以上	小5男女 中2男女 全国平均出現率以上	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下
①	55	薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合	%	100% (H29)	99.3	100	100	100	100	100
①	56	幼稚園等と小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合	%	87% (H29)	96	100	94	96	98	100
①	57	小・中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合	%	77% (H29)	78	77	92	95	97	100
①	58	小・中学校間における教員の人事交流	人	18人 (H29)	19	23	18	18	18	18
①	59	スクールカウンセラーの配置校数（拠点校）	校	78校 (H29)	79	81	80	81	82	83
①	60	スクールソーシャルワーカーの配置人数	人	22人 (H29)	23	26	23	23	24	24
①	61	“あわ”じんけん講座の充実	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	62	人権教育研究指定校数	校	8校 (H29)	8	8	8	8	8	8
①	63	講師派遣による研修等の受講者の満足度	%	90%以上 (H29)	95	97	90以上	90以上	90以上	90以上
①	64	中・高生による人権交流集会参加者の満足度	%	75% (H29)	92	86	75	80	80	85
		【R2年度より目標値上方修正】						86	88	88
①	65	人権教育総合推進地域の指定地域数	地域	2地域 (H29)	2	2	2	2	2	2
①	66	社会教育における人権教育指導者研修会受講者の満足度	%	90%以上 (H29)	98	98	90以上	90以上	90以上	90以上
①	67	命に関する作品募集の応募作品数	点	5,531点 (H29)	5,135	7,554	5,000以上	5,000以上	5,000以上	5,000以上
		【R3年度より目標値上方修正】						5,000以上	5,100以上	5,100以上
①	68	「とくしま教員育成指標」を踏まえた研修受講者の満足度	%	準備 (H29)	98.3	96.7	90以上	90以上	90以上	90以上
①	69	県内外大学における教員採用に係る説明会開催数	回	19回 (H29)	20	24	21	22	23	24
		【R2年度より目標値上方修正】						24	25	25
①	70	リーダーシップ養成研修受講者数（累計）	人	準備 (H29)	143	259	220	330	440	550
①	71	ICTを活用した授業実践の研修受講者数	人	400人 (H29)	444	497	410	420	430	440
①	72	英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数（累計）	人	436人 (H29)	678	946	830	1,080	1,330	1,580
①	73	各県立学校及び市町村教育委員会におけるコンプライアンス研修（要請）の実施回数	回	39回 (H29)	45	56	40	40	40	40
①	74	研修の充実や相談制度の利用促進、きめ細かな復帰支援の実施	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進 項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績				
							目標数値 (R1年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
①	75	公立学校共済組合等との協働により実施する、特定保健指導の推進につながる出前講座等の開催数	回	5	6	6	7	8	9	10
①	76	【R2年度新規指標】 「とくしまの学校における働き方改革プラン」の推進	—	推進 (H30)	—	—	—	推進	推進	推進
②	77	放課後や週末等における体験活動の実施率	%	80% (H29)	91	93	90	95	100	100
②	78	学校サポーターズクラブの登録数	団体	89団体 (H29)	93	98	98	103	108	113
②	79	高校生を対象とした読み聞かせの講習会等への高校生の参加者数	人	85人 (H29)	94	99	94	96	98	100
②	80	学校安全ボランティア（スクールガード）数	人	12,000人以上 (H29)	13,904	13,857	12,000以上	12,000以上	12,000以上	12,000以上
②	81	学校運営協議会制度を導入した学校数 【R2年度より目標値上方修正】	校	16校 (H29)	18	22	18	18 60	20 120	20 240
②	82	定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	83	私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保（再掲：13）	—	支援 (H29)	支援	支援	支援	支援	支援	支援
②	84	道徳の時間の授業参観を実施している学校の割合	%	小学校95% (H29) 中学校81% (H29)	97 89	96 81	100 91	100 92	100 93	100 94
②	85	情報モラルコンテンツ数 (累計)	コン テン ツ	27コン テン ツ (H29)	35	43	43	51	59	67
②	86	自然体験・交流体験等への参加者数（再掲：46）	人	813人 (H29)	929	857	900	900	900	900
②	87	とくしま親なびげーたーの派遣者数	人	85人 (H29)	118	107	100	100	100	100
②	88	社会教育関係者・団体を対象とした研修会への参加者数	人	696人 (H29)	825	937	700以上	700以上	700以上	700以上
②	89	生涯学習情報システムへのアクセス件数 【R2年度より目標値上方修正】	件	99,000件 (H29)	121,143	221,571	101000	120,000 以上 102,000	120,000 以上 103,000	120,000 以上 104,000
②	90	生涯学習情報システムへの人材・指導者、団体サークルの登録件数（累計）	件	990件 (H29)	1,004	1,014	1010	1,020	1,030	1,040
②	91	マナビセンターの利用者及び受講者数	人	52,000人 (H29)	55,146	53,879	52600	52,900	53,200	53,500
②	92	地域の活性化に取り組むリーダーを養成する講座の受講者数	人	680人 (H29)	743	751	740	770	800	830
②	93	サテライトオフィスを活用した講座の受講者数	人	—	26	56	40	60	80	100
②	94	文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数	回	270回 (H29)	333	312	270以上	270以上	270以上	270以上
②	95	文化の森総合公園各文化施設入館者数総計（累計） 【R2年度より目標値上方修正】	人	2,125万人 (H29)	2,250万	2,338万	2,285万	2,365万 2,367万	2,445万 2,450万	2,525万 2,535万
②	96	博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍藏記念博物館の学校への講師派遣回数	回	70回 (H29)	104	89	70以上	70以上	70以上	70以上
③	97	公立小・中・高校及び特別支援学校における、主権者意識を高める教育の充実のための出前講座の実施校数	校	42校 (H29)	44	43	46	48	50	52
③	98	消費者教育研究指定校数 (累計)	校	34校 (H29)	39	45	44	49	54	59
③	99	公立高校におけるエシカルクラブの設置率	%	33% (H29)	66	100	100	100	100	100
③	100	エシカル活動・作品を地域に提供した特別支援学校数	校	5校 (H29)	7	8	8	9	10	11
③	101	「新 学校版環境ISO」認証を取得した学校の割合	%	84.0% (H29)	86.0	86.6	86.5	87.0	87.5	88.0

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績	目標数値	目標数値等	目標数値等	目標数値等
							(R1年度)	(R2年度)	(R3年度)	(R4年度)
③	102	6次産業化商品のプロデュース数（累計）	件	7件 (H28)	10	11	13	16	19	22
		【R2年度より成果指標修正】 地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数（累計）	商品	—	—	—	—	3商品	6商品	9商品
③	103	阿南光高校の開校（再掲：11）	—	準備 (H29)	開校	推進	推進	推進	推進	推進
③	104	【R2年度新規成果指標】 大学・地域等との協働連携事業件数（再掲：12）	—	—	—	—	—	3件	4件	5件
③	105	県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数（累計） （再掲：13）	人	10人 (H29)	26	35	25	35	45	55
③	106	高校生産業教育展における来場者数（再掲：26）	人	1,850人 (H29)	1,910	1,952	1950	2000	2050	2100
重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進										
①	107	「あわ文化検定」の受検者数	人	931人 (H29)	987	784	975	1,000	1,025	1,050
①	108	人形浄瑠璃伝承教室の参加者数（累計）	人	1,658人 (H29)	1,689	1,733	1738	1,778	1,818	1,858
①	109	「ふるさと文化人材バンク」を活用し、あわ文化学習に関する講師を派遣した学校数	校	60校 (H29)	78	80	72	79	86	93
①	110	埋蔵文化財総合センター利用者数	人	9,200人 (H29)	14,325	12,323	9,300	9,300	9,300	9,300
		【R2年度より目標値上方修正】						12,000	12,000	12,000
①	111	史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加者数	人	350人 (H29)	494	495	470	470	470	470
		【R2年度より目標値上方修正】						500	550	600
①	112	国・県指定文化財件数 【R2年度より国に関する 目標値上方修正】	件	国99件 (H29)	101	104	101	102	103	104
				県335件 (H29)	335	333	337	338	339	340
①	113	博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の学校への講師派遣回数（再掲：95）	回	70回 (H29)	104	89	70以上	70以上	70以上	70以上
①	114	阿南光高校の開校 （再掲：11・103）	—	準備 (H29)	開校	推進	推進	推進	推進	推進
①	115	【R2年度新規指標】 大学・地域等との協働連携事業件数（再掲：12・104）	—	—	—	—	—	3	4	5
①	116	高校と大学の情報交流会やフォーラムの開催回数	回	2回 (H29)	2	2	2	2	2	2
①	117	鳴門教育大学との連携（ジュニアドクター発掘・養成講座）	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	118	京都大学による出前授業やオープン授業の実施校数	校	1校 (H29)	1	4	5	7	9	11
①	119	サテライトオフィスを活用した講座の受講者数（再掲：93）	人	—	26	56	40	60	80	100
①	120	スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数（再掲：6）	事例	3事例 (H29)	4	3	3	3	3	3
①	121	6次産業化商品のプロデュース数（累計）（再掲：102）	件	7件 (H28)	10	11	13	16	19	22
		【R2年度より成果指標修正】 地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数（累計） （再掲：102）	商品	—	—	—	—	3	6	9

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年度実績	令和元年度実績				
							目標数値 (R1年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
①	122	高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制） （再掲：25）	%	97.6% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	123	県内外大学における教員採用に係る説明会開催数 【R2年度より目標値上方修正】	回	19回 (H29)	20	24	21	22 24	23 25	24 25
①	124	札所寺院の国史跡追加指定に向けた意見具申 【R2年度より成果指標修正】 札所寺院の国史跡追加指定に向けた文化財調査箇所数（累計）	箇所	—	—	—	—	32	36	40
①	125	「鳴門の渦潮」の世界遺産登録に向けた取組の推進	—	学術調査の実施	調査	調査	調査	提出	推進	推進
①	126	小・中学生向け「鳴門の渦潮学」講座の実施回数（累計）	回	準備 (H29)	5	8	7	10	12	15
①	127	「板東伊藤収容所関係資料」「世界の記憶」登録に向けた取組の推進	—	準備 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	128	小学校英語専科教員の配置人数	人	10人 (H29)	13	14	14	16	16	16
②	129	英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数 （累計）（再掲：72）	人	436人 (H29)	679	946	830	1080	1330	1580
②	130	求められる英語力を有する生徒の割合	%	中学校3年生 英検3級程度以上 47% (H29) 高等学校3年生 英検準2級程度以上 41% (H29)	52 45	49 47	55 55	60 60	62 62	65 65
②	131	児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数 （累計）	人	154人 (H29)	310	543	514	694	874	1,054
②	132	海外の学校等との交流校延べ数 （中学・高校）	校	22校 (H29)	24	22	26	28	30	32
②	133	学校への日本語講師の派遣 【R2年度より成果指標修正】 学校への日本語講師派遣申請者に対する派遣充足率	— %	推進 (H29) —	推進 —	推進 —	推進 —	推進 100%	推進 100%	推進 100%
②	134	国際科学オリンピック講習会の参加者数	人	220人 (H29)	222	236	230	235	240	245
②	135	SSH合同発表会への参加校数 （再掲：7）	校	5校 (H29)	7	中止	7	8	9	10
②	136	鳴門教育大学との連携（ジュニアドクター発掘・養成講座） （再掲：117）	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	137	県高等学校総合体育大会生徒参加率	%	47.2% (H29)	48.6	47.8	50.5	52.0	53.5	55.0
③	138	全国高等学校総合体育大会等の入賞（団体・個人）数	団体・個人	47団体・個人 (H29)	37	40	50	50	50	50
③	139	全国中学校体育大会等の入賞（団体・個人）数	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	7	14	16	17	18
③	140	全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞（団体・個人）数 （再掲：3）	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	5	5	5	5	5

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	令和元年度 実績				
							目標数値 (R1年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
③	141	国民体育大会天皇杯順位	位	46位 (H29)	45	47	30位台	30位台	30位台	30位台
③	142	東京オリンピック・パラリンピック及びデフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者数 (累計)	人	—	—	—	—	—	14	—
③	143	女性アスリート支援セミナーの開催	回	—	8	4	4	4	4	4
③	144	全国コンクール等での名西高校の入賞(団体・個人)数 (再掲:5)	団体・個人	61団体・個人 (H29)	115	198	65	70	70	75
③	145	人形浄瑠璃伝承教室の参加者数 (累計)(再掲:108)	人	1,658人 (H29)	1,689	1,733	1,738	1,778	1,818	1,858
③	146	徳島県中学校総合文化祭の充実	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	147	近畿高等学校総合文化祭の充実	—	徳島大会準備 (H29)	開催	推進	推進	推進	推進	推進
③	148	文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数(再掲:94)	回	270回 (H29)	333	312	270以上	270以上	270以上	270以上
③	149	文化の森総合公園各文化施設入館者数総計(累計) (再掲:95)	人	2,125万人 (H29)	2,250万	2,338万	2,285万	2,367万	2,450万	2,535万

TABLE 1. SUMMARY OF DATA

No.	Year	No. of fish	No. of females	No. of males	No. of immature	No. of adults	No. of total	Length (mm)		Weight (g)		Survival (%)
								Mean	Range	Mean	Range	
1	1954	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
2	1955	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
3	1956	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
4	1957	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
5	1958	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
6	1959	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
7	1960	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
8	1961	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
9	1962	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
10	1963	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
11	1964	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
12	1965	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
13	1966	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
14	1967	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
15	1968	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
16	1969	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
17	1970	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
18	1971	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
19	1972	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
20	1973	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
21	1974	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
22	1975	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
23	1976	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
24	1977	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
25	1978	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
26	1979	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
27	1980	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
28	1981	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
29	1982	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
30	1983	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
31	1984	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
32	1985	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
33	1986	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
34	1987	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
35	1988	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
36	1989	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
37	1990	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
38	1991	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
39	1992	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
40	1993	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
41	1994	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
42	1995	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
43	1996	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
44	1997	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
45	1998	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
46	1999	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
47	2000	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
48	2001	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
49	2002	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
50	2003	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
51	2004	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
52	2005	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
53	2006	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
54	2007	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
55	2008	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
56	2009	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
57	2010	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
58	2011	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
59	2012	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
60	2013	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
61	2014	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
62	2015	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
63	2016	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
64	2017	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
65	2018	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
66	2019	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
67	2020	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
68	2021	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
69	2022	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	
70	2023	100	50	50	10	90	100	10-150	10-150	10-150	100	

第4章 令和2年度（令和元年度対象） 点検・評価概要（重点項目ごと）

(續) 廣東省政府令 粵平字第一〇二號
(廿二年四月廿九日) 粵漢鐵路局 呈請

重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進

推進項目① 個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進

主な取組状況

多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進

- 学力分野のリーディングハイスクールである城ノ内中学・高校では、「学校公開の日」として、10月の第4土曜日に中高全てのクラスにおいて9:00～12:00の3時間、ICTを活用した授業を含む公開授業を実施した。
- 岡山大学と連携し、県立高校（2校）を対象に英単語の習得を目的としたビッグデータを活用したe-ラーニングを実施し、生徒の学習に関するデータを収集、分析した。大学等と連携した「教育ビッグデータ利用検討委員会」において、事業内容等の検証を行うとともに、教育ビッグデータの利活用について検討した。
- 私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会の均等を確保するため、高等学校等就学支援金や奨学のための給付金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。

障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援

- 板野支援学校、国府支援学校、鴨島支援学校、阿南支援学校ひわさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校は、技能検定や授業で身に付けた技術を活用して、お接待活動の中で飲み物の提供や作品の配布を実施した。また、徳島視覚支援学校は、授業で身に付けたマッサージの技術を生かし、巡礼中のお遍路さんにマッサージを実施した。さらに、みなと高等学園は、地域貢献活動として、清掃を主とした奉仕活動を展開した。
- 将来の社会的自立に向けた学習の必要な生徒が在籍する高等学校において、コミュニケーション能力や社会性を育むためのソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた実践を行った。自分の長所や適性など自己理解を深め、身だしなみ・挨拶の仕方などのソーシャルスキルを学ぶとともに、就業体験の実施や就職面接の練習といったキャリア教育の活動を、生徒の特性を踏まえて個に応じて行った。
- ICTを活用した教員用e-ラーニング教材等を研修会の事前・事後学習用の課題として活用した。また、e-ラーニング教材の改善・充実を図った。さらに、各学校における校内研修等で活用してもらえるように広報活動を実施した。

次代を生きぬくキャリア教育の推進

- 「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」（県内企業の会社代表による講演、研究発表等）を開催した。
- 高校生産業教育展について、大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,952名となった。

評価

- 公開授業ではほぼ全ての普通教室でICTを用いた授業が展開され、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業となっていた。学力分野でのリーディングハイスクールとしての成果を広く県内に普及するために、さらに研究を推進し公開授業を継続して実施していくことが必要である。
- e-ラーニング、教育ビッグデータの分析手法を活用したICTによる個に応じた学習により、時間や場所を選ばない基礎的・基本的な学習が提供でき、生徒は効率的に英単語の語彙を身に付けることができた。
- 高等学校等就学支援金等を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「輝く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。
- 生徒と地域がつながる取組をとおして、生徒たちの社会の役に立ちたいという意欲の向上や、地域の方々からの感謝の言葉等により、自己肯定感の高まりが見られた。また、教育計画に位置づけて実践を進めることで、生徒が目的を持って意欲的に学ぶことに繋がった。

- 小学校や中学校からの学びの連続性を確保しつつ、生徒一人一人の教育的ニーズに即した適切な支援が提供できるよう、各高等学校において、引き続き自立活動の内容を取り入れた教育への理解を深めていくことが必要である。また、「通級による指導」の拡大を見据えて、他の高等学校でも活用できるデータベースの作成が求められる。
- 研修の事前事後課題として、e-ラーニングを活用することにより、研修内容の理解が促進された。また、e-ラーニングにおいて障がい特性等の理解や指導方法を学ぶことができ、教員の特別支援教育に関する知識等の専門性が向上した。
- 普通科高校におけるインターンシップの拡大とともに、キャリア・パスポートの積極的な活用により、教育活動全体において組織的・体系的にキャリア教育を一層推進していく必要がある。
- 高校生の学習活動をアピールするという観点から、特に小中学生にキャリア教育の視点で多く参加してもらえるようPR方法を工夫する必要がある。また、時代に即した開催内容（リモートによる参加やSNSでのライブ配信など）も検討する。

今後の主な取組

- 学力分野のリーディングハイスクールとして他校の模範となる授業ができるように、公開授業や研究授業等で支援していくとともに、城ノ内中等教育学校・高校の公開授業を広報して多くの教員の参加を呼びかける。
- 生徒の個別学習状況等について分析し、可視化された成果をフィードバックすることで生徒が意欲を維持しながら学習を継続できるように支援する。また、実証事業の取組で得られた成果を普及し、教育へのビッグデータ活用について広く発信する。
- 引き続き、私立学校の振興と教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減、経営の健全性の向上を支援する。私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、預かり保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援する。また、各校の情報発信の取組の支援も行う。
- 作品の安定的な制作に向け、授業時間の確保等を学校に促していく。また、障がい重度の生徒が活動に参画できるように学校と協議しながら体制作りを進めていく。
- 発達障がい等のある生徒の支援の充実を図るため、徳島県発達障がい教育研究会等の機会を活用して、将来の社会的自立に向けた学習指導内容や取組の有用性を広く発信し、情報共有を行う。「通級による指導」実施校では、専門家によるコンサルテーションを継続し、他の高等学校でも応用が可能な指導の構築に務める。
- 専門性向上に向け、特別支援教育に関するe-ラーニング教材の作成及び既存教材の改善、充実を図る。また、効果的な教材活用に向け、研修等の事前課題や補充課題、事後課題としての位置づけを見直す。
- 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実やキャリア・パスポート活用の推進を図る。
- 高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。また、場所の配置や開催時間の工夫など、小学生・中学生が参加しやすい環境の設定に努める。

主な取組状況

徳島発の小中一貫教育の推進

- 新たに吉野川市立川島中学校・川島小学校・学島中学校をチェーンスクールに指定し、チェーンスクールの実践地域は、7地域となった。小中一貫教育実践地区交流研修会において、その取組の成果を発表した。
- あわ(OUR)教育発表会や、県のホームページ、小中一貫教育実践地区交流研修会において、パッケージスクールの実践地域である木頭小中学校の取組を研究・発表し、あわ教育発表会、等において、県下の学校にその成果を普及した。

全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進

- 「高等学校の多様なニーズに応える遠隔教育推進事業」により、池田高校（本校・辻校・三好校）において、総合教育センター等から大学教授等による遠隔特別講座を実施するとともに、3校間での同時配信も実施することで、ICTを学校間連携に活用する際の効果と課題を検証した。
- 進化する教室イノベーション事業の実施校により、ICT活用に関する実証研究を行い、平成29年度実施校と平成30年度実施校が、意見交換会や情報交換サイトを活用し、得られた成果について、公開授業等で普及に努めた。

二地域居住を加速する学校間移動の実現

- 平成28年度以来、令和元年度末までに、東京と大阪の8家族により計16回実施した。また、名古屋の大型商業施設でのイベント実施（1回）、東京や大阪で県が主催する移住に関するイベントへの参加（5回）など、都市部でのPR活動を行った。

評価

- 吉野川市川島地区において、キャリア教育を軸とした小中の連携・接続が図られている。各地域においては、小中9年間を見通した特色のある教育活動が実践されている。その成果を小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会、県のホームページにおいて、県下の学校及び関係者に広く普及した。
- 同一地域の社会教育施設との連携を密にした、学校・家庭・地域が一体となって取り組む「地域とともにある学校づくり」のさらなる充実・発展に向け、実践地域との連携の促進を図りながら、実証事業を展開するとともに、その成果を県内に広報し、他地域へ普及していく必要がある。
- 大学教授等による専門性が高い講義内容など、都市部と同様の魅力ある特別講座や地域の地理的・文化的特性を生かした講座、キャリア教育に関する講座などを実施したことで、人口減少社会における新しい高校教育のモデルの一つとして活用できる、魅力ある学校づくりにつながった。
- 実施校においては、本事業の様々な取組を通じて得た成果により、ICT活用教育の日常的な実践が定着しつつあるが、事業未実施の学校におけるICT活用教育の推進を加速化させる必要がある。
- 本事業をメディアが紹介したり、これまでのPR活動の成果によって、県外での認知度が上がり、興味を持った方からの問合せが増加している。また、他県の教育委員会等からの質問や視察訪問も多数あった。

今後の主な取組

- 大学教授等の有識者を含む「小中一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会、県ホームページにおいて、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある持続可能な小中一貫教育の確立を目指す。
- 遠隔授業を、人口減少地域における教育の質の維持向上や魅力ある学校づくりに活用するため、引き続き実施回数を増やしていくとともに、講座の内容の更新・充実を図る。また、大学生との交流や学校の垣根を越えた生徒間の協働等へのTV会議システムの活用を図る。
- 本事業で得られた成果をICT活用事例集にまとめ、全ての県立学校で新たに整備する1人1台端末等を活用した授業実践に向けて普及啓発に取り組む。
- 本事業の対象となる家族の新規開拓に向けて、ターゲットに応じたPR活動を行う。また、いろいろなパターンの実施事例を積み重ねることで、市町村教育委員会や学校が行う転校に伴う手続きを簡素化する方法を検討すると共に、より活用しやすいシステムを構築していく。加えて、学校現場の負担軽減を図るため、教員免許状を持っていなくても（教職課程を専攻している大学生など）講師ができるような仕組みについて、検討を行う。

主な取組状況

防災知識の普及・啓発等の推進

- 令和元年度は、県立学校及び市町村立の小・中学校から防災士資格取得に意欲のある教員を募集選考の上、30名が学校防災人材育成講座に参加した。その後、日本防災士機構の防災士資格取得試験を受験し30名全員が合格した。令和元年度までに、79名の防災士資格を取得した教員を養成し、全ての県立学校に配置するとともに、小中学校への拡大を図っている。
- 防災人材育成センターと連携を図り、令和元年5月20日に第1回学校防災研修会、令和2年1月22日に第2回学校防災研修会を開催し、教職員の防災に関する意識の啓発と防災教育に関する指導力の向上を図った。

学校を核とした地域防災力の向上

- 計画にもとづき、体育館等におけるトイレ洋式化の整備を行い、避難所機能の向上を図った。
- 「ふるさと大好き！地域防災推進事業」において、「防災クラブ」を全ての公立高等学校34校（徳島市立高校舎）と公立中学校40校に設置を広げ、地域の幼稚園や小学校との合同避難訓練や避難所運営訓練、文化祭でのパネル展示などの広報活動など、地域と連携した防災ボランティアに取り組みほか、7月に学校間の交流イベントを実施した。

地域防災を担う人材の育成

- 「学校防災人材育成講座」を開催し、令和元年度は中学・高校生91名が「防災士」の資格を取得した。防災士資格を取得した高校生は「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に積極的取り組みなど学校防災の牽引役として活動した。令和元年度までに、605名の防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に取り組んだ。また、7月に「中学生・高校生防災クラブ交流イベント」を開催し、研修を行うと共に他校との連携を図った。

評価

- 人事異動により未配置校になった場合は、優先的に教員防災士を養成する必要がある。加えて、研修等を通じ、防災士の資格を取得した教員の更なるスキルアップに取り組む必要がある。
- 学校防災研修会に参加した教員は、各学校において研修の成果を教職員と共有するとともに、積極的に地域と連携した防災学習や防災活動に取り組むことで、防災教育に係る指導力の向上が図られた。
- 避難所指定校35校のうち、令和元年度に9校において完了した。体育館等におけるトイレの洋式化改修を進めた結果洋式化率は90%となった。
- 各学校の「防災クラブ」が、地域と連携した防災ボランティア活動を推進するための支援が必要である。
- 「防災クラブ」の活動を継続させるとともに、地域の関係機関や自主防災組織との協働を活性化させるため、地域防災のリーダーとなる「中学・高校生防災士」を継続して育成する必要がある。

今後の主な取組

- 県立学校及び市町村立の小・中学校から「教員防災士」の養成に努め、防災人材育成センター等と連携して、防災教育スキルアップ研修等を開催し、スキルアップを図る。また、各校が行っている防災に関する取組事例について情報共有を図る。
- 学校防災研修会に加え、「教員防災士」を対象とした防災教育スキルアップ研修を開催し、教員の災害対応能力を高め、実践的な防災教育に取り組むことにより、災害発生時に児童生徒の命を守り、リーダーシップを取ることでできる力量を持った教員の養成を図る。
- 製品の調達が困難であるなど、やむを得ない事情が考えられるため、引き続き計画的に整備を進め、避難所の強化・機能充実を図る。
- 各学校の特色を生かして、地域と連携しながら防災ボランティア活動を展開するための支援を行う。また、他校の「防災クラブ」と交流を図り、防災活動を全県下に広げるため「高校生防災クラブ交流イベント」「中学校防災クラブ交流イベント」を開催し、地域に根ざした防災活動を推進していく。
- 「チャレンジ防災人材育成推進事業」において、継続して防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を活動の拠点として、地域での防災ボランティア活動に参加することで、学校防災の牽引役、地域防災の若い活力として資格取得で身につけた知識と技能の活用を図り、地域防災の担い手となる人材育成に取り組む。

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

推進項目① 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

主な取組状況

「知徳体」が一体となった成長を支援

- 徳島「未来の学び」創造プロジェクトに基づき、学校訪問を実施し新学習指導要領の周知・徹底、学力向上確認プリントを作成・配布、鳴門教育大学と連携した「授業改善」推進校事業等を通して、各小中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現による、子供たちの確かな学力の育成を支援した。
- 「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会、高校生などの協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ、県内外各地から多くの参加者があった。
- 体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体、指導主事を派遣する「はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）」を県内70の小中学校で実施し、運動の苦手な児童に目を向けた授業を展開することにより、体力・運動能力の向上及び教員の指導力向上を図った。

質の高い幼児教育の推進

- 県内2地域をモデル地域（阿南市・石井町）として幼小連携事業を進め、事業の成果を普及した。文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、アドバイザーによる幼小への訪問指導の中で、幼小連携の具体的な意義について啓発を行った。
- 令和元年度は小学校から中学校へ1名、中学校から小学校へ7名、計8名が新たに人事交流を行い、合計23名が異職種で勤務している。3年間の交流を終えた者は、原則として元の職種に戻るため、小中連携の強化に繋がった。

子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり

- スクールカウンセラーを拠点校81校（中学校72校、高等学校8校、特別支援学校1校）、対象校192校に配置した。また、県立学校等からの要請に応じてスクールカウンセラーを学校等に派遣した。（県立学校等への派遣：10校に168時間）
- 「中・高生による人権交流集会」には450名の参加者があり、講演後の分科会では、「共生社会を実現するために～多様な『性』のあり方から考える～」「インターネットによる人権侵害」「災害時における人権問題」の3テーマで各ブロックの活動の発表や意見交換が行われた。交流集会の午前中はシンガーソングライター堀内佳氏による人権コンサートを開催し、分科会後には各ブロックの報告会も実施した。

未来を拓く教職員の育成

- 地域や学校でリーダーとしての役割を担うことが期待される教員を、市町村立小・中学校は各市町村教育長の推薦、県立学校は学校長の推薦により選出した。全国的な教育の動向、法合リスク管理、リーダーとして必要とされるコミュニケーション能力育成等幅広い視野から知見を得ることにより、県内の教育活動の質の向上を図った。
- プログラミング教育やタブレット活用等に関する研修講座の内容を充実させることにより、授業におけるICT活用について理解とスキルを深めることができた。
- 「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」を継続し、小学校外国語教育を発展・充実させる上での課題や小学校外国語教育に携わる教員の不安要素についてサポートを行った。小学校教員の英語力及び指導力向上に特化した「やってみよう！発音トレーニング&授業改善」を実施し、各基本研修においては模擬授業や演習等を実施するなど、小学校教員の英語力及び指導力の向上と授業改善を図った。

評価

- 各校において、全国学力調査等の結果分析に基づいた授業改善を実施し、基礎・基本における力は定着できている。活用問題への対応では、県教委作成の学力向上確認プリントを活用した取組を行うことができた。また、「対話的な学び」を授業に位置付け、個人の考えを相手に伝える授業場面を計画的に設定することができた。
- 地域の方々との交流の輪が広がり、協力を得るとともに、職員の豊富なアイデアを生かし、体験活動の種類や回数を増やすことで、各体験活動において例年を上回る参加者の増加につなげることができた。年度末には主催事業を2つ中止としたため、目標値まで到達しなかった。

- 令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツが好き」と回答した割合が、中学校2年男子のみ全国平均値を下回ったが、「体育の授業は楽しい」、「体育の授業は将来役に立つ」などの質問項目では全国平均を上回っており、全体としては運動やスポーツ、体育授業に対する良好な意識が形成されている。
- 昨年度と比較して、幼稚園・小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。県「学びのかけ橋」推進事業及び文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の成果が現れていると考えられる。
- 小中交流を実施することで、義務教育の9年間を見通しながら、専門性を生かした教育活動が展開できた。また、教員の資質の向上と小中連携の強化に繋がった。
- 現状の相談時間数では、相談件数が増加する中で、継続的な相談が必要な児童生徒への対応が難しくなっている。そのため、相談時間数の確保及び、県立学校及び教育支援センターへの配置の拡充が必要である。また、スクールカウンセラーの配置拡充に伴う人材確保が困難である。
- 人権交流集会当日は、中学生・高校生・特別支援学校の生徒・教職員・保護者等が多く参加し、各ブロックや全体会で活発に交流ができた。
- 地域や学校を広い視野で捉えた組織的な教育活動を展開し、人材育成に積極的に取り組む教員の育成のための研修となり、受講者の22.4%が、教頭、主幹教諭、指導教諭等に昇任した。
- GIGAスクール構想に伴う、一人一台タブレット端末整備に向け、授業におけるICT活用指導力が今よりもさらに求められることが予想される。
- 学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された外国語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負担軽減も考えながら実施することが必要である。

今後の主な取組

- 学力向上推進員の役割について周知を行うとともに、鳴門教育大学と連携した授業づくり研修会を通して全国学力・学習状況調査の問題を活用した授業改善を実施する。そして、基礎・基本の定着はもとより、「活用問題」への対応も含め、すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善を国語力向上タスクフォースからの提案を活用し、児童・生徒の「読み取る力」「書く力」「伝え合う力」等の育成を図る。
- 参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実した、効果的な事業を実施するとともに、活動内容に教科の授業時数としてカウントできる内容を取り入れていく。
- 「はつらつサポート」を実施において県内プロスポーツ団体の派遣を充実させたり、同一校に複数回指導者を派遣する指導形態の充実改善を進めたりする。それにより学校体育における教師の指導力向上を図ることで体育授業の改善を行い、児童生徒の運動に対する良好な意識をさらに高めることとする。
- 研修会等において、引き続き、就学前教育と小学校との連携を図る意義やカリキュラム編制について協議を行うとともに、モデル地域の取組を周知する。
- 人事交流の趣旨と制度の概要について周知を図り、交流希望者の確保を図る。新任近距離勤務終了者が3年間の小中交流を希望した場合、これをもって遠距離勤務とみなすことで、交流希望者の増加に繋げる。義務勤務者以外の勤務者について、期間の弾力的運用などを進めていく。
- 県立学校の拠点校化、教育支援センターへの配置拡充を図るとともに、スクールソーシャルワーカー等との連携を通して、効果的な教育相談体制の構築に努める。また、職能団体や大学等と連携し、スクールカウンセラーの人材の確保や研修等による資質の向上に取り組む。
- 今年度も引き続き、生徒に自主的な交流事業の周知を図るとともに、生徒の実態に即した人権交流集会で年間3回の実行委員会と生徒部会、中南西の各ブロックで実行委員会と生徒部会を実施し、分科会で研究するテーマを決定する。12月20日開催予定の交流集会では、講演会と各ブロックの報告を実施する方向で計画を進める。
- 研修後の状況やアンケート結果を踏まえ、地域や学校の中心となって活躍する人材の育成のため、演習や協議を設け、学校リーダーとしての意識や力量を体験的に学ぶことができるよう、研修の改善を進める。
- 児童生徒の情報活用能力（プログラミング教育、情報モラル教育を含む）の育成に関する研修内容を充実させるとともに、授業のどの場面でもどのようにICT機器を利用し、それによってどのような効果を上げるか等、具体的な研修内容の改善に取り組む。

- 県内全ての教員が学習指導要領のねらいを踏まえた授業を実施できるように、教科書を活用した授業改善についての研修を実施する。また、地理的・時間的にセンター開催の研修に参加しづらい教員のために、引き続き「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」で英語教育のさらなる充実のためにサポートを行う。

推進項目②

学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進

主な取組状況

地域総ぐるみの子育ての実現

- 子供たちが、学年を越えて学習活動やスポーツ・文化活動に取り組むとともに、令和元年度には介護施設訪問による活動成果発表の実施など、各教室の工夫により新たな展開も図られた。指導者・保護者に対しては、「地域・学校・家庭の連携・協働」に向けた講演会実施のほか、研修会やワークショップに参加いただき、子供がポジティブになれる言葉かけや望ましい行動を増やす手立て等について理解促進を図った。
- 「小学校区又は中学校区」で学校支援に取り組む婦人会、青年団、自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の地域団体の連合組織を「学校サポーターズクラブ」として、令和元年度は新たに5クラブを認証し、認定証とフラッグを授与した。このことにより、累計で24市町村98クラブとなった。
- 海陽町立海陽幼稚園・海南小学校・海部小学校・海陽中学校にコミュニティ・スクールが導入され、県下の22校において、地域とともにある学校づくりの推進が展開されている。

すべての子どもに均等な教育機会の提供

- 本年度は、定時制通信制を合わせて、189名の生徒が定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を活用した。

豊かな心の育成

- 校長会、道徳教育推進教師研修会、教育課程研究集会等の各種研修会において、道徳ノートの工夫や授業参観の実施等、家庭との連携の推進・工夫について、具体例を交えながら説明を行った。
- 情報モラル指導者研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修を行った。1日研修としたためワークショップにおける情報共有の時間が十分に確保できたため、参加者の満足度が高かった。

家庭教育支援の充実

- 県内の幼稚園・学校等23か所においてワークショップを実施し、「とくしま親なびげーたー」107名を派遣した。また、新たに中学生や高校生などを対象とした家庭教育に関する教材を作成した。

生涯にわたって学び続ける環境づくり

- 県内の活動実践事例の報告及び報告をもとにしたワークショップにより、社会教育推進の機運を高め、ネットワークづくりにつながった。また、社会教育ファシリテーターを養成するとともに、学びの循環として養成講座修了生が各研修大会にファシリテーターやボランティアスタッフとして参加した。
- 生涯学習に関する情報をインターネットで提供している。年齢的・身体的条件にかかわらず情報を取得できる「ウェブアクセシビリティ」に配慮しながら、より時代のニーズに即したWebサイトを構築した。
- 「とくしまの恐竜時代」や「とくしまタイムトラベル～過去・現在・未来～」、「美人画の雪月花ー培広庵コレクションを中心に」などを開催するとともに、日本最古級恐竜化石含有層の本格発掘調査を実施し、発見された化石については一般公開を行った。

評価

- 地域人材の発掘やネットワーク化が必要である。また、「新しい生活様式」の下、子供たちが安全安心に活動できる教室づくりを推進する必要がある。
- 制度を周知し、学校を支援する団体同士のネットワークづくりに役立ててもらうことが重要である。
- 学校運営協議会を継続的に推進するための支援メンバーの不足、協議の形骸化、地域連携コーディネーターとなるべき人材の育成、導入に向けての管理職や担当教職員の業務の負担増が課題である。
- 定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を必要とする生徒の増加が見込まれる中で、支援体制を継続する必要がある。

- 研修会等において、道徳科の授業や地域との連携について研修を行った。道徳の教科化に伴い、学校や地域等で行われる研修会が増加した。地域や保護者の関心も高まっている。
- 情報モラルに関する新たな問題は次々と生まれているので、児童生徒の状況や保護者の意識調査の分析に基づき、新たな問題について学習できる教材を準備する必要がある。
- 「とくしま親なびげーたー」を派遣して県内23か所で実施されたワークショップでは、1,064名の保護者や教育関係者などが参加し、保護者間の関係づくりや家庭教育についての意見交換・相互研修を行うことができた。
- 公民館をはじめとした社会教育関係者や社会教育関係団体、NPO法人等の参加があり、多様な活動について、意見・情報の交換を進めたことで、参加者の意識向上が図られた。また、社会教育担当職員の資質向上と情報の共有化が図られた。
- 利便性の高いものとするためにシステムを再構築した結果、アクセス件数を大幅に伸ばすことができた。
- 来館する度に新たな発見ができるような、多様な文化を発信するため、収蔵資料のさらなる活用と、より魅力ある手法の開発が必要であるとともに、感染症拡大防止対策を講じ、安心して利用できる環境を整備することが求められている。

今後の主な取組

- 各事業間の連携を図るとともに、地域の人材や団体が交流し、新たな連携が期待できるような仕組みづくりを目指す。
- 学校を支援している団体やグループ同士のネットワークづくりを促進していく上で、認証制度を活用いただくよう周知するとともに、持続可能な取組を支援する。
- 各市町村教育委員会に対し、意義や具体的な導入の手順等について、引き続き丁寧に説明を行う。また、小中一貫教育推進地域においても、コミュニティ・スクール導入に向けた協議・研究を事業計画の1つとして位置づけ、地域とともにある学校づくりの推進に向けた取組を充実させていく。
- 定時制・通信制の教頭会・副校長会等の機会を捉え、就学困難な生徒の実態状況を情報収集し把握するとともに、この事業の必要性を検証しつつ、支援体制の点検を実施する。
- 道徳授業の充実を図ることはもちろん、各教科等との関連を図るなど、学校教育全体で道徳教育の推進を図る。また、家庭・地域社会との連携をよりいっそう推進するための、研修体制や推進体制のさらなる充実を図る。そのために、各学校における道徳教育の充実のため、研修等を通して、道徳教育推進教師を育成する。
- 全校種を対象にして徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修会を行う。また、授業に活用できるよう、更にコンテンツを追加し内容の充実を図る。
- 県内の各幼稚園・学校・公民館等へ「とくしま親なびげーたー」派遣の周知を継続的に行う。また、中学生や高校生などを対象とした家庭教育に関する教材を用いたワークショップを実施することで、次代の家庭教育を担う若者の育成を図る。
- 県内の社会教育委員、社会教育関係団体の関係者等を対象とした研修会への参加者の拡大と、学生を含む様々な分野・年齢層の団体・個人を対象とした社会教育に関わる人材の育成に努める。
- Webサイトの充実を図るとともに、講座のチラシや一覧表の配布などを行い、広く県民への周知、広報に努める。
- 感染症拡大防止対策を講じ、魅力あるイベントを開催するとともに、新未来型展示の県立博物館グランドオープンに向けた取組を推進することにより、文化・芸術の感動や体験の場を提供し、あわ文化発信拠点として、芸術文化活動の促進に寄与する。

主な取組状況

将来を担う若者への主権者教育の充実

- 市町村選挙管理委員会や大学と連携した出前講座（社会参画の意義や選挙制度について講義、模擬選挙や模擬帳票）を小学校、中学校において13校、高等学校特別支援学校において30校実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校1校、高等学校1校での実施が中止となった。

全国モデルの消費者教育の推進

- 研究校においては、地域とのつながりを意識した教科横断的な消費者教育を展開できた。指導者養成講座や講演・出前授業については、多様な主体と連携し、深化させることができた。ポスター募集では、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、啓発資料としての活用を図ることができた。
- 公立高等学校1校を「エシカル消費」リーディングスクールとして指定した。主な取組として、総合的な学習（探究）の時間を活用したエシカル消費の研究や、外部人材・企業等との連携、取組発表等をおとした普及・啓発等が行われた。
- 各特別支援学校に設置したリサイクル資材の回収ボックスを運用し、リサイクル資材の回収を実施することができた。また、リサイクル資材から作った作品を四国霊場札所でお遍路さんへ配布した。さらには、地元事業所等と連携し、児童生徒のアイデアや地元の特産を生かした新たな商品や製品の開発を行うとともに、啓発リーフレットを作成し、配布した。

未来へつなぐ環境教育の推進

- エコリーダー養成講座の開催やホームページ等による認証取得校の取組状況の発信や県環境・エネルギー教育発表会を開催した。

新たな成長産業を生み出す教育の推進

- 県下3地域において、県東部では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校の3校、県南部では「ゆこう」をテーマに、小松島西高校勝浦校、阿南光高校、富岡東高校の3校、県西部では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校の3校が学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化商品の開発を通して、生産・商品開発・加工・販売について取り組んだ。
- 新野キャンパスのLED植物工場ラボを活用した「LED照明による水耕栽培システム」や「高大連携による中学生のための植物バイオ教室」、校外活動である「植物バイオ技術によるイシマササユリ保護活動」や「徳島大学石井農場施設見学・実習」、宝田キャンパスでの「ドローン操作及び活用講座」等、徳島大学との連携活動を実施した。そして、徳島大学との連携拠点施設「とくしまイノベーションセンター」において、徳島大学生物資源産業学部教授の常駐が決定するとともに、さらなる施設の充実が図られた。また、地域における農業の活性化等を図るため、阿南農業協同組合及び東とくしま農業協同組合との地域活性化連携協定を締結し、地域資源を活用した6次産業化商品開発等にも取り組んだ。
- 林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。林業に関係する高校（学科）においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取組、林業関連産業への就職推進に努めた。

評価

- 出前講座を実施した各学校においては、児童生徒の主権者としての意識の高まりを感じられる感想が多々見られる。高等学校や特別支援学校における出前授業は、講義形式だけではなく様々な形で実施されている。小学校、中学校における主権者教育についても具体的、計画的に実施する必要がある。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育館などでの全校一斉での取組は難しくなっている。
- 幼・小・中・高の接続を意識し、より系統的・体系的な消費者教育を推進していく必要がある。また、講演・出前授業や校内研修等への講師派遣において、多様な主体との連携を一層推進していく必要がある。
- 公立高等学校40校にエシカルクラブが設置されたことにより、高校生に消費者市民としての意識が醸成されるとともに、「エシカル消費」の周知を進めることができた。

- 板野支援学校、国府支援学校、鴨島支援学校、阿南支援学校ひわさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校がお接待活動等に取り組み、児童生徒の作品等を提供することができた。また、阿南支援学校は、竹パウダーを、みなと高等学園ではおはぎを、池田支援学校ではそば粉のクッキーを地域の企業等と連携し作ることができた。
- 新規申請2校、継続申請79校の認証をし、令和元年度末での「新 学校版環境ISO」認証割合が、小・中学校、高等学校、特別支援学校の86.6%となった。
- 県下3地域において、昨年までの連携活動及び商品の試作等を踏まえ、6次産業化商品（県央部：藍の洋菓子、県南部：ゆこうドラ焼き、県西部：アロマスプレー）について、地域の企業等の連携による商品化、県内外での販売実習、市場調査などを行うことで、実践的な6次産業化教育が展開できた。
- 徳島大学との高大連携教育及び地元農業協同組合との連携による6次産業化教育の展開が進められ、2キャンパスを効率的に活用し、特色のある教育を展開するための施設、人材等が整った。
- 継続的に林業関連産業への従事者が確保できるよう様々な機関との連携を深め、効果的な取組を模索していく必要がある。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、課題の再発見に努める。

今後の主な取組

- 主権者教育の出前講座を進めるにあたり、講義型の講座だけではなく、ワークショップや模擬投票等、児童生徒が主体的に参加し、相互に意見を出し合い、主権者意識を高めることができる取組を各学校要望を聞きながら、選挙管理委員会や大学教員と連携し、出前講座の実施を進め、主権者としての意識を高めていきたい。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインや少数での出前授業の開催など、各学校と相談しながら進めたい。
- 引き続き、幼児期からの発達段階に応じた消費者教育の充実・強化に消費者庁や県内大学等と連携し取り組んでいくとともに、各学校のニーズを踏まえた講師派遣ができるよう、とくしま「消費者教育人材バンク」の一層の活用を図る。
- 学校が、「エシカルクラブ」の取組を通して、多様な主体と連携し「エシカル消費」に関する研究・実践を推進することにより、生徒の消費者力の育成を図る。
- 各学校の取組を共有し、既に実施している学校との共同実施を行うなど、学校間の連携を進めることで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供できるようにしていく。
- 令和元年度末で認証期間が終了した52校の継続申請の推進を図るとともに、市町村教育委員会と連携して、小学校・中学校の新規申請を推進する。また、エコリーダー養成講座を通じて、認証が100%である公立高校・特別支援学校の取組の充実を図る。
- 新たな地域資源をテーマとする商品開発の拡充、プロデュース商品の魅力化、生産方法・工程での改善、販路開拓等による事業の拡大・発展を図るため、学校間連携・生徒間協働活動の充実はもちろんのこと、より実践的・体験的な取組となるよう、地域や産業界等と連携を積極的に展開する。
- 徳島大学との連携活動、新野キャンパスにおける徳島大学生物資源産業学部の教員による高大連携講座、産業界や地域との連携による外部人材を活用した、実践的・体験的教育活動等を展開する。
- 継続的に林業関連産業への従事者が確保できるよう様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会の確保に努める。林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、従事者の定着についても検証していく必要がある。

重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

推進項目① 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

主な取組状況

郷土愛を育む教育の推進

- 徳島の伝統文化と文化財を学校で学ぶための教材として作成した「あわ文化テキストブック」を活用するための、教師用指導教材解説集並びにワークシート集を全ての公立中学校の1年生、2年生に配布した。「あわ文化」教育の目標や教育課程への位置づけについて、県下各中学校のあわ文化教育リーダーの先生方で意見交換や情報共有を行った。また、各校であわ文化検定等の「あわ文化に関する教育」を実施した。
- 登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうりり伝承教室を開催し、44名の小中校生が受講した。
- 学校に「ふるさと文化人材バンク」の活用を周知するとともにホームページ等でも活用の周知を図り、年間を通じて「ふるさと文化人材バンク」への追加登録に努めた。

大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大

- 徳島県教育委員会LINE「Go! Tomorrow」を活用した大学生から高校生への情報提供等、大学入学者選抜改革セミナーや高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）」出張講義一覧」を総合教育センターのHPで掲載するなどを行った。
- 鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味を持つ、将来の科学技術者としての人材の発掘・養成を行った。
- 「新未来とくしま講座」（7/14・9/28・11/9・1/11）の全4回、県立総合教育センター（メイン会場）の他に、県立図書館3階集会室をサテライト会場とし、メイン会場の講座の様子を同時中継することで学びの場の提供を行った。

若者による未来志向のアイデアの創出

- 4月に事業説明会を実施し、目的や内容をていねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえるような環境の設定に努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。

「とくしま回帰」の促進

- 「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」（県内企業の会社代表による講演、研究校発表等）を開催した。
- 中四国、近畿の大学を中心に、計24回の教員採用に係る説明会を実施した。

世界遺産登録への挑戦

- 札所寺院の総合調査を2カ寺、遍路道調査を2カ所について実施し、加えて「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会徳島県連絡会議を開催した。
- 「鳴門の渦潮」の文化的側面について、「顕著な普遍的価値」を証明するための学術調査を引き続き実施するとともに、新たに淡路島における文化的調査を開始した。また、これまでの調査結果をもとに「鳴門の渦潮」の「文化的価値のとりまとめ文書」を作成した。
- ICOM(国際博物館会議)京都大会2019におけるブース展示の実施(会場：国立京都国際会館アネックスホール)や「板東俘虜収容所」の世界展の実施(会場：県立博物館)を行った。また、PRパンフレットの作成や出前授業を実施するなど広報活動にも勤めた。

評価

- 令和元年度の受検申込数は817名、受検者数は784名（インフルエンザ等による欠席）であった。あわ文化リーダー研修では、テキストの活用方法や実践事例の共有を行い、今後の授業改善について考える機会となった。
- 登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうりり伝承教室を開催し、44名の小中校生が受講した。

- 学校に「ふるさと文化人材バンク」の活用を周知するとともにホームページ等でも活用の周知を図り、年間を通じて「ふるさと文化人材バンク」への追加登録に努めた。
- 高校と大学の教育内容を円滑に接続するため、情報提供・周知等を行い、高大連携の強化につながった。また、情報交換会では、分科会において具体的な内容の協議を行い、各校の取組への参考となった。
- 鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味を持つ、将来の科学技術者としての人財の発掘・養成を行った。
- 平成30年度は計2回実施したサテライト講座を、本年度は計4回実施したことで、目標値の40人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声が聞かれた。
- 毎年10校程度の応募校で推移している。学科や校種を問わず、県下の多くの学校が応募できるような学校のニーズや社会の情勢に対応していく必要がある。
- 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。
- 説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。
- 国史跡の追加指定のため「札所寺院」や「遍路道」の保護に係る取組を進めていく必要がある。
- これまでの調査結果をもとにした「文化的価値のとりまとめ文書」の作成により、世界遺産登録に向けて「鳴門の渦潮」の価値を示すことができた。
- 特別展示には多くの来場者があったほか、多言語化した広報資材については、ドイツ国内6都市を巡回する巡回展で活用いただくなど、広く県内外に「板東俘虜収容所関係資料」の情報を発信することで、「世界の記憶」登録に向けた気運の醸成が図られた。

今後の主な取組

- 年度当初に実施する「あわ文化教育リーダー研修」において、実践報告や演習等を取り入れ情報共有を行い、新学習指導要領に対応した評価の観点や、テキストブックを活用するためのリーフレットを提示することで、各校で取り組みやすいモデルを見いだし、地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」が展開できるようにするとともに、各市町村教育委員会や各中学校への更なる周知を図る。
- 参加者アンケートでは「伝統文化を身近に感じることはできたか」との設問に対し「特に感じた・感じた」と回答する割合は高かった。引き続き、伝統文化への興味関心を醸成していくため、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、効果的な取組を検討していく必要がある。
- 地域や異年齢者とのつながりを強くし、地域への理解と愛情を深め、ふるさと徳島の魅力を積極的に発信できる人材の育成を図る。「ふるさと文化人材バンク」が学校現場でより一層活用されるよう、各学校の活用例を把握するとともに県内人材等と学校のニーズを把握しながら、新規人材の人材開拓に努める。また文化庁の芸術家派遣事業への活用など幅広く活用を促進する。
- より円滑な接続ができるように、ICTの活用を含めた内容の見直しやSNSの発信の仕方など情報提供等について工夫する。
- 初等中等教育段階から継続的に理数・技術（情報）領域に優れた児童・生徒たちを育成するため、教員の技能を高め児童・生徒を効果的に支援できるように、「ジュニアドクター発掘・養成講座」を研修の場として活用する。
- 本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライト会場を活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。
- 応募ステージや実施分野を見直しするなど、実施要項を検討し、さらに事業説明会を通して学科や校種を問わず広く応募してもらえるような工夫に努める。また、全国規模やコンクールでの入賞数を数値目標に設定し、実施内容や継続性の充実、プレゼンテーション技術の向上、さらには学校のニーズや社会の情勢に対応した魅力的な実施内容へとつなげる。

- 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実やキャリア・パスポート活用の推進を図る。
- 引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるよう大学への働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やす。実施時期にも検討を加え、より効果的なものとなるよう改善を図る。
- 引き続き、札所寺院、遍路道の調査を進め、条件が整った案件から追加指定に向けて意見具申していくとともに、世界遺産登録に向けた研究と議論を深めていく。
- 「世界遺産暫定一覧表」の記載に向け、令和元年度に本県及び兵庫県が作成した「文化的価値」・「自然的価値」のとりまとめ文書に対する国の見解等を踏まえ、「自然遺産」と「文化遺産」の今後の方向性について検討を開始する。
- 令和2年度は、感染症対策を徹底しながら、展示会は県内で実施し、より多くの方に周知啓発でき、自宅や学校で利用可能な、Webによる関連資料の情報提供や、教材開発やマニュアルの作成による周知・広報を継続していく。登録申請については、ユネスコの動向を勘案しながら準備を進める。

推進項目②

世界に羽ばたくグローバル人材の育成

主な取組状況

徳島発、世界を体感できる環境づくり

- 小学校において英語専科教員を14名配置し、37校で指導を行った。英語教育に関する校内研修の中核としての役割を担うとともに、複数校で兼務することで、より多くの児童への質の高い学びの機会を提供することができた。
- 「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標について、小学校に関して、令和2年度からの新学習指導要領全面実施を前に、県教育委員会の作成例や校区の中学校のCAN-DOリストを参考に、初めて全校で設定した。中・高等学校では全校で設定済みであり、各校による公表や達成状況の把握を進めている。中学校では、「世界スタンダード英語4技能育成事業」において授業改善を促し、また高校では指導力向上の研修実施に加えディベートの研修・大会実施の支援を行うことで、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。
- 小学校外国語教育の早期化を受け、新たに小学校3、4年生と保護者を対象にした英語体験活動を実施し、小学校3年生から高校生の児童生徒に、外国人と交流し生きた英語を使う機会を提供した。中学生対象の事業については、悪天候を受けないよう予備日を設けるため年間3回から1回に減じ1回の募集定員を増やし、プログラムを業者委託した。高校生対象の事業は通学型と宿泊型の2つを実施し、参加者のニーズに合わせて選択できるようにした。全ての学習段階において、児童生徒が徳島県の魅力を再発見し、その感動を外国人と共有することを促すような、特色のある内容のプログラムを実施することができた。

科学の魅力を実感し、世界に挑戦

- 国際科学オリンピック講習会を物理、化学、生物、地学の各分野で1回ずつ、数学で2回実施した。科学の甲子園徳島県予選では9校から計23チームが参加した。国際科学オリンピック講習会も、科学の甲子園徳島県予選も若干ではあるが参加数の増加が見られた。参加した生徒は熱心に取り組んでいた。

評価

- 小学校教諭の中に、英語免許等、英語専科教員に求められる所定の資格保有者が少ないことや、小規模校の多い本県では単独校への配置が少なく、英語専科教員の多くが複数校を兼務しており、負担が大きい。
- 中学校においては、英語4技能のバランスのとれた育成に向けて更なる授業改善に取り組むことに課題が残った。また、校種間の連携を深め、連続性・発展性のある「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定することが必要である。
- 中学生対象の「世界に飛び出せ！イングリッシュ・キャンプ事業」について、令和元年度から実施回数を3回から1回に減じたが、応募者が募集定員に満たなかった。今後、募集方法や実施日程等について見直しと改良を図り、より参加者のニーズに応えられるようにする必要がある。

- 平成30年度と同様に、ジュニアドクター受講生の小中学生も一部の講座に参加した。参加人数には若干の増加が見られた。しかし、地学講習会の参加者がここ3年で連続して減少している。参加者に実施したアンケート結果では前向きな回答がほとんどであるので、広報について工夫する必要があると考える。

今後の主な取組

- 小学校教員を目指す者が、英語専科教員に求められる所定の資格を取得するよう、大学等の関係機関に働きかける。また、小学校英語教育の充実を図るため、小学校教員採用審査受審者の資格保有者の増加を目指すとともに、中学校英語教員の小中学校間の人事交流を継続して進め、計画的な英語専科教員の配置を推進する。
- 「CAN-DOリスト」については、中学校では、校区の小学校の形式の学習到達目標を参考に、小中連携を図りながら、新学習指導要領に対応した学習到達目標を改めて設定する。高等学校においても、令和4年度から移行する新学習指導要領に沿った改訂に向けて準備を進め、指導と評価の更なる一体化を目指す。また、4技能指導のPDCAサイクル促進のため、「世界スタンダード英語4技能育成事業」の取組みやその成果を研修会やホームページ等で広く普及し、授業改善につなげる。
- 今年度より本格実施されている小学校3・4年生の外国語活動を見据え、小学校3・4年生向けに新たに英語で外国人と交流し、世界を体感する場を提供するとともに、中学生・高校生向けの内容も改良に向けて検討を進めることを予定している。また、悪天候や異常気象の影響を受けにくい運営を考えていく。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国制限により海外大学生の招へい等が難しいため、県内ALTなど確保できる人材で対応していく。
- 教員の研修会や生徒が参加する講習会等で、これらの講座が高校生の主体的取組を育成する機会としても有効であることを広く周知する。また、新型コロナウイルス感染症への対策を講じて、この講習会が今後も安全に実施できるような方策について検討する。

推進項目③

国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成

主な取組状況

世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

- 「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」において、公立高校24校の45部を指定し、指導者の配置や、指定枠による有力選手の確保、遠征費等の強化費支援や中学生対象の合同練習・講習会等、中学校との連携活動支援を行ったほか、「中学校トップスポーツ競技育成事業」において競技専門部を対象として、中学から高校へ継続して選手を発掘、育成、強化する取り組みを実施した。
- 「中学校トップスポーツ競技育成事業」により、県中体連と連携し、7つの競技専門部（陸上競技、新体操、弓道、柔道、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール）を指定して、強化練習、指導者講習、強化合宿等に係る助成や支援を行った。また「あわスポーツ・ブルーミング戦略事業」により、中体連加盟20競技において、補助金を配分し、強化練習会、指導者講習会等に係る助成を行った。
- 「東京オリンピック・パラリンピック徳島未来創造基金」を活用し、国体入賞に向けた強化を図る「オリンピック・国体チャレンジ事業」、有望選手を指定して育成強化費を助成する「オリンピック・国体選手育成事業」、有力な県内企業及び大学の運動部が行う練習会や遠征等を支援する「企業・大学スポーツ支援事業」、国体順位向上のための備品整備に対し助成する「国体バックアップ事業」、ジュニア世代からの一貫した強化に対し助成する「徳島育ち競技力向上プロジェクト」、スポーツコーディネーターを競技者、指導者、アスレチックトレーナーなどとして活用する「スポーツコーディネーター活用事業」、国体直前強化合宿、メンタルトレーニングなどの医科学サポート、講演会及びトレーナー派遣等を行う「競技スポーツ重点強化対策事業」を実施した。また、「いきいき茨城ゆめ国体2019」終了後、各競技団体に対してヒヤリングを実施し、課題の抽出や分析を行うとともに、強化策の検討を行った。

世界に輝く「あわ文化」の創造・発信

- 平成30年度より、私立中学校2校、道徳部会、総合的学習部会、特別活動部会が中学校文化連盟に加入し組織の拡充を図っている。
- 全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭へ生徒を派遣し、他府県との文化交流や仲間との切磋琢磨を通して貴重な経験や確かな技術を得られた。

評 価

- 全てのNEO徳島トップスポーツ校指定部において、中学校との連携活動を実施し、中学校から高校へ継続した指導の体制強化が図られた。
- 中学校スポーツにおいては、活動主体が各学校の部活動が中心であるため、学校単位の強化だけではなく、高校進学後を視野に入れた競技毎の強化も必要である。全国ベスト16に入っている競技についても更なる競技力の向上が求められる。また、生徒数減少により単独チームで大会出場が困難な競技が増えており、団体競技の強化が課題である。
- 「いきいき茨城ゆめ国体2019」では、本県選手団の獲得点は614点で、9年前（H22年）の千葉国体以来、最も高い点数となったが、天皇杯は47位、皇后杯は45位であった。しかしながら、優勝は、ここ10年で最も多い9種目に上ったのをはじめ、2位が5種目、3位が2種目と、12の競技で入賞総数が37種目となり、個人種目を中心に競技力の向上が進んでいる。
- 第5回徳島県中学校総合文化祭中央大会への来場者数は2,024名であった。また、全国高総文祭、近畿高総文祭への参加率は75%を越え、充実期を迎えている。
- 強豪校が集まる文化のインターハイとも呼ばれる全国大会や近畿高等学校総合文化祭に出場し、日頃の成果を披露するとともに、他府県の高校生との交流が図られた。各部門で優秀な成績を収める生徒もおり、部活動の大きな目標の一つとして取り組んでいる。

今後の主な取組

- NEO徳島トップスポーツ校強化事業において、中学校には無い部活動や、新たな競技を知る機会として、競技団体とトップスポーツ校が連携して中学生対象の講習会や体験会を実施し、競技人口の拡大を図る。
- 引き続き、県中体連競技専門部と連携し、トップスポーツ競技の育成を推進する。（今年度の指定競技：陸上競技、新体操、弓道、柔道、剣道、バスケットボール、ソフトボールの7競技）また、あわスポーツ・ブルーム戦略事業においても、中体連加盟競技に補助金を配分し支援を行う。中体連と連携し、郡市単位で実施している県予選を県下を6ブロック程度に分け実施できるように再編を進め、合同チーム編成の範囲を広げ、団体競技の競技力向上につながる環境整備を進める。
- R2年度から3年間で抜本的な対策を戦略的かつ重点的に展開するため、以下の事業に取り組む。
 - ・団体競技の強化遠征等に対する支援拡充
 - ・実績を残している企業・大学や有望選手に対する支援拡充
 - ・優秀な選手や指導者確保に向けた、県内企業とのマッチング支援やジュニア世代の人材発掘
 - ・接戦を勝ち抜くサポート体制の構築
 - ・本大会を想定した競技備品等の整備ジュニア期から優れた素質を有する競技者を発掘し、一貫指導体制によるトップレベルの競技者育成並びにトップ指導者の養成に努めるとともに、元オリンピック選手等による講習会の開催により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の強化を推進する。
- 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、徳島県中学校文化連盟、徳島県高等学校文化連盟と連携し、中高生の文化芸術に親しむ機会や発表の場を充実させ、文化芸術力を高めるとともに、全国に向けての発信を行う。
- 高等学校や中学校文化連盟と連携し、生徒の活動や成果を広く情報発信することにより、文化活動に取り組む小中学生の裾野拡大を目指し、次代へ繋がる「文化レガシー」として継承していく。



第5章 令和2年度（令和元年度対象）
点検・評価結果

(參照到平況) 與平S 麻谷 第3 條
果 嶺 嶺 嶺 嶺 嶺

徳島県教育振興計画（第3期） 令和元年度 成果指標進捗状況等

重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならでは」の教育の推進

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
1	個性・可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>事業目的</p> <p>学力分野のリーディングハイスクールである城ノ内中学校・高校において取り組んでいる、ICTを活用した授業や、「主体的・対話的で深い学び」の観点に立った授業改善などの成果を、県内の中学・高等学校に広く普及し、質の高い学びの実現を目指します。</p> <p>取組状況（R1年度分）</p> <p>「学校公開の日」として、10月の第4土曜日（中高全）において9:00～12:00の3時間、ICTを活用した授業を含む公開授業を実施した。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> <p>【令和元年度の成果】公開授業ではほぼ全ての普通教室でICTを用いた授業が展開されており、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業となっていた。積極的に取り組む教員が増加するとともに、授業力の向上が見られた。</p> <p>【課題】令和2年度から前期課程で開校する中等教育学校への注目が高まる中、城ノ内高校においても学力分野でのリーディングハイスクールとしての成果を広く県内に普及するために、城ノ内中学・高校において、ICTを用いた授業等の授業力をさらに向上させるとともに、公開授業の参加者を増加させることが必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>学力分野のリーディングハイスクールとして他校の模範となる授業ができるように、公開授業や研究授業等で支援していくとともに、城ノ内中等教育学校・高校の公開授業を広報して参加を呼びかける。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	推進	推進	推進					推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
推進	推進	推進					推進												
2	個性・可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>事業目的</p> <p>併設型中高一貫教育校である城ノ内中学・高校を、令和2年度から本県初の中等教育学校へ移行し、難関大学・学部、スーパーグローバル大学等への進学実績の向上をはじめ、リーディングハイスクールとしての効果を最大限に発揮する教育の推進に取り組みます。</p> <p>取組状況（R1年度分）</p> <p>令和2年度の開校に向け、教育課程の編成や条例・規則等の改正、入学者選抜の実施に向けた準備、広報活動（ホームページ開設・入学者募集説明会等）、教室改修、転学手続の簡素化、開校式・開校式の実施に向けた準備などに取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>準備</td> </tr> </table> <p>【令和元年度の成果】城ノ内中学・高校を本県初の中等教育学校へ移行するための準備を円滑に進めることができた。</p> <p>【課題】切れ目のない効果的な中高一貫教育を展開するため、教育環境の整備が必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>本県初の中等教育学校を開校し、学力分野のリーディングハイスクールの効果を最大限に発揮する教育を推進するため、教育環境の機能向上を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	準備	準備	準備					準備
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
準備	準備	準備					準備												

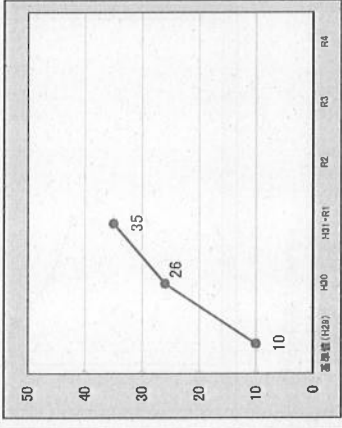
番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																										
3	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校において、充実した施設・設備の活用を層推進するとともに、県外強豪校との対戦・交流や関係機関、大学との連携を密にし、スポーツ拠点校としての機能強化と、更なる競技力向上を図ります。</p> <p>「渦潮スポーツアカデミー推進事業」において</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ユースアスリート科学サポーター事業として、最新の呼気ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県トレーナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的サポートを行い、受講者は248人に達した。 2 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理論に基づいた指導法に関する研修会を1回開催（1回は新型コロナウイルス感染拡大により中止）した。 3 スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目（女子サッカー、男子バスケケット、硬式野球、陸上競技、柔道、女子ラグビー、男女ウエイトリフティング、男子剣道）に対して集中強化を図った。 4 Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チームを招へいし、合同練習等を実施した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：団体・個人)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】県大会レベルでは専攻実技8種目のうち2種目が優勝しており、全国大会では、女子サッカーがインターハイで3位と活躍したほか、陸上競技は前年度から継続して入賞する競技として育成、強化が図られた。</p> <p>【課題】全国大会で入賞した専攻実技の競技は2競技で、残りの入賞3は専攻実技以外の部となっている。全国大会で安定して上位の成績を残し、今後さらに成果を上げるためには、専攻実技8競技の更なる強化が必要であり、指導力スキルアップ事業により、技術面やメンタル面での更なる指導力の向上と、ユースアスリート科学サポーター事業による、個々の選手の競技力の向上が求められる。</p> <p>指導力スキルアップ事業で、科学的理論に基づいた指導法や体力作りに関する研修会を開催し、指導力の向上を図る。また、ユースアスリート科学サポーター事業により、選手の体力面の課題を明らかにし、個々の選手に必要な体力トレーニング指導を行うことで、競技力の向上を図る。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校の充実した設備や測定機器を使い、選手の体力を総合的に判断し、科学的に分析したデータをトレーニングに活用することで県内選手の競技力の向上を図ります。</p> <p>「渦潮スポーツアカデミー推進事業」のユースアスリート科学サポーター事業として、最新の呼気ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県トレーナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的サポートを実施した。257人の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による学校の休業により3月の予定が中止となった。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>160</td> <td>241</td> <td>248</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>97.3%</td> <td>255</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】トップスポーツ指定校をはじめ、県内高校の運動部の選手や指導者に対し、「体力診断」「疲労骨折診断」「鉄分不足診断」「栄養診断」等の診断結果を用いたアドバイスを行うことで、医学的に効果的な指導や練習方法についての意識が高まった。</p> <p>【課題】利用校に固定化の傾向があり、NEO徳島トップスポーツ校指定部45部のうち8部の利用であるため、指定校へ更なる周知が必要である。また、年度内で複数回利用している部は6部で、継続的に体力的課題を把握し、指導や練習に活かすことが求められる。</p> <p>ユースアスリート科学サポーター事業による体力測定や科学的なトレーニング指導を、NEO徳島トップスポーツ校の各部に広げること、診断結果に基づく医学的サポートの効果を多くの指導者や選手に普及させ、競技力の向上を図る。</p>	(単位：団体・個人)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	5	5	5			100.0%	5	(単位：人)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	160	241	248				97.3%	255
(単位：団体・個人)																																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																																						
5	5	5	5			100.0%	5																																						
(単位：人)																																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																																						
160	241	248				97.3%	255																																						
4	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>リーディングハイスクールの充実</p> <p>鳴門渦潮高校を拠点校とした、高度で質の高いスポーツ教育による、本県スポーツ科学の普及・振興</p> <p>鳴門渦潮高校のスポーツ科学機器を活用した体力測定人数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">担当課 体育学校安全課</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>160</td> <td>241</td> <td>248</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	担当課 体育学校安全課					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	160	241	248																												
担当課 体育学校安全課																																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																								
160	241	248																																											

番号	推進項目	実施の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針										
5	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	■リーディングハイスクールの充実 ■名西高校の成果発信による、本県文化芸術の普及・振興 □全国コンクール等での名西高校の入賞(団体・個人)数	文化芸術分野のリーディングハイスクールである名西高校において、芸術を学ぶ生徒の技術力向上を図ります。また、同校と芸術家等との連携を深めるなど多様な文化芸術活動の推進に努め、その成果を県内外に発信します。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>115</td> <td>198</td> <td>304.6%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31	R1	R2	61	115	198	304.6%	65	プロの芸術家や芸術系大学教授等による定期的な講習会を延べ31講座実施し、生徒のスキルアップと、教員の指導力を強化するとともに、地域の施設等での作品の展示会の開催し、地域全体の文化芸術に対する気運を高めた。 令和元年度の全国コンクール等での名西高校の入賞(団体・個人)実績数：音楽0 美術7 書道191 (単位：団体・個人)	【課題】全国大会への出場や入賞、卒業生の活躍など、名西高校芸術科の更なる魅力を県内の中学校へ周知を図る必要がある。
基準値(H29)	H30	H31	R1	R2													
61	115	198	304.6%	65													
6	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	■個性を伸ばす特色ある学校づくり ■特色ある教育活動のレベルアップとグローバル人材の育成 □スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数	大学や企業、研究機関との連携を深化させ、各学校の特色ある教育活動のレベルアップを図り、全国に発信できる徳島ならではの取組を支援するとともに、多くの生徒が多様な学びの機会を全国規模の大会やコンクールへ出場申請をはじめ、HIPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>100.0%</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31	R1	R2	3	4	3	100.0%	3	4月に事業説明会を実施し、目的や内容をていねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえらるよう環境の設定に努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HIPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。 ・全国高校生クリエイティブコンテスト(優秀)・エンカル甲子園2019消費生活官長官特別賞 ・日本防火・防災協会会長賞 (単位：事例)	【令和元年度の成果】合計11校の応募があり、実施校はその取組内容や継続性、プレゼンテーション技術の向上がみられた。また、応募校も専門高校7校のほか、普通科高校2校、特別支援学校2校の応募があった。 【課題】毎年10校程度の応募校で推移している。学科や校種を問わず、県下の多くの学校が応募できるような実施要項とする。また、全国規模の大会やコンクールでの入賞数を数値目標に設定することで、継続性やプレゼンテーション技術の向上、さらには学校のニーズや社会の情勢に対応した魅力的な実施内容へと繋げる。
基準値(H29)	H30	H31	R1	R2													
3	4	3	100.0%	3													

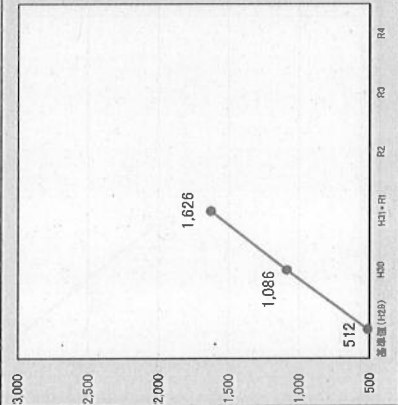
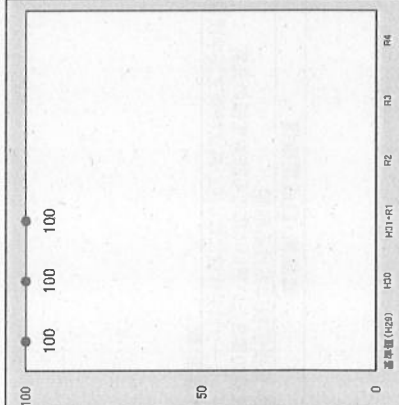
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度分)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
7	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の取組の研究</p> <p>■ SSHの県内各高校への普及</p> <p>□ SSH合同発表会への参加校数</p>	<table border="1"> <caption>取組状況 (R1年度分)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:校)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	7	中止				-	7	<p>SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、理科や数学に重点を置いたテーマを定めて研究に取り組んできた。城南高校、脇町高校、徳島科学技術高校、富岡西高校について、その取組の充実・発展を支援するとともに、研究成果の県内各高校への普及を推進し、国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を目指します。</p> <p>令和元年11月頃から準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休業のため、令和元年度の発表会は中止した。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
5	7	中止				-	7														
8	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■ 将来的に社会の各分野を牽引していく人間力を備えた、「ネクストリーダー」の育成</p> <p>□ 主要大学(スーパーグローバル大学)進学者数</p>	<table border="1"> <caption>取組状況 (R1年度分)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H28)</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>297</td> <td>290</td> <td>261</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>76.8%</td> <td>340</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p>	基準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	達成率(R1)	目標値(R1)	297	290	261				76.8%	340	<p>【令和元年度の成果】平成30年度は新しい試みとして、城東高校のスーパーグローバルハイスクールとしての成果発表を合同で行った。令和元年度はコミュニティアドクター養成講座で学ぶ小中学生も参加する方向で調整を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休業により発表会は中止となりこれらの新しい試みを成果として残すことはできなかった。</p> <p>【課題】少人数で取り組んでいる科学系の部活動がいくつかあるが、それらの部活動が継続できるような支援が必要である。また、理数科を設置している学校の課題研究を活性化するために、SSHの研究成果を普及させる必要がある。加えて、感染症対策を実施しながら発表会を開催する方法について検討する必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】新学習指導要領で示されているように、理数系科目における探究活動は重要であり、授業の中で実施していく必要があることを周知するとともに、SSH生徒合同発表会への参加を促していく。また、感染症対策を実施しながら発表会を開催する方法について全国SSH発表会も参考にしながら検討する。</p>
基準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	達成率(R1)	目標値(R1)														
297	290	261				76.8%	340														
			事業目的		<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>																
			取組状況 (R1年度分)		<p>教科や学問分野について探究する合宿、社会や学校における課題解決を図る会議等を行い、学校の枠を超えて切磋琢磨することを通じ、社会の諸課題に挑戦する高い志を持ち、社会の作り手として各分野を牽引する人材を育成する。</p>																
			評価		<p>ネクスト・リーダー育成プログラムとして、「高校生サミット」「探究ゼミナー」「徳島ワインタンキヤンプ」の3つのプログラムを実施した。「高校生サミット」では6月23日・10月27日に参加生徒36～59名で、ワークショップ等を通して、県や地域の課題解決を考えた。「探究ゼミナー」では7月14日・11月9日・10日に参加生徒36～59名で、県内外スーパーチャーターによる特別講座等を実施、「徳島ワインタンキヤンプ」では12月12日・13日に参加生徒117名で、本県高校卒業の大学生等による座談会、知事・教育長への政策提言等を実施した。</p>																
			今後の取組方針		<p>【令和元年度の成果】参加者は、3つのプログラムを通して、同じ目標に向かって切磋琢磨する同志とつながることによって、目標とする大学への進学のためのモチベーションを維持することができた。</p> <p>【課題】年間プログラムとして実施したが、各学校の行事や部活動などにより、生徒の参加人数がプログラムによって変動があり、グループを編成することが難しかった。</p>																
			今後の取組方針		<p>学問を探究するモチベーションやネットワークをより強固なものにし、成果につなげたい。</p>																

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
9	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■ 得業的に社会の各分野を牽引していく人間力を構築した、「ネクストリーダー」の育成</p> <p>□ 東京大学、京都大学進学者数</p> <table border="1"> <caption>標準値(H28) H29 H30 H31・R1 R2 R3 達成率(R1) 目標値(R1)</caption> <tr> <td>標準値(H28)</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>28</td> <td>17</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>38.6%</td> <td>44</td> </tr> </table> <p>※平成30年度実績の評価</p>	標準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	達成率(R1)	目標値(R1)	26	28	17				38.6%	44	<p>【事業目的】 教科や学問分野について探究する合宿、社会や学校における課題解決を図る会議等を行い、学校の枠を超えて切磋琢磨することを通じ、社会の諸課題に挑戦する高い志を持ち、社会の作り手として各分野を牽引する人材を育成する。</p> <p>【取組状況 (R1年度分)】 ネクスト・リーダー育成プログラムとして、「高校生サミット」「探究セミナー」「徳島ウインターキャンプ」の3つのプログラムを実施した。「高校生サミット」では6月23日・10月27日に参加生徒36～59名で、ワークショップ等を通して、県や地域の課題解決を考えた。「探究セミナー」では7月14日・11月9日・10日に参加生徒36～59名で、県内外サマーインターチャージャーによる特別講座等を実施。「徳島ウインターキャンプ」では12月12日・13日に参加生徒117名で、本県高校卒業の大学生等による座談会、知事・教育長への政策提言等を実施した。</p> <p>【評価】 【令和元年度の成果】 参加者は、3つのプログラムを通して、同じ目標に向かって切磋琢磨する同志とつながることによって、目標とする大学への進学のためのモチベーションを維持することができた。</p> <p>【課題】 年間プログラムとして実施したが、各学校の行事や部活動などにより、生徒の参加人数がプログラムによって変動があり、グループを編成することが難しかった。</p> <p>【今後の取組方針】 学問を探究するモチベーションやネットワークをより強固なものにし、成果につなげたい。</p>		
標準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	達成率(R1)	目標値(R1)															
26	28	17				38.6%	44															
10	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■ ビッグデータ等を活用したICTによる個に応じた学習の推進による、学習活動の充実</p> <p>□ ビッグデータ実証事業における活用者数</p> <table border="1"> <caption>標準値(H28) H29 H30 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(R1) 目標値(R1)</caption> <tr> <td>標準値(H28)</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>140</td> <td>379</td> <td>402</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.5%</td> <td>400</td> </tr> </table>	標準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	140	379	402					100.5%	400	<p>【事業目的】 児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、変化の激しい社会をよりよく生きる資質・能力を育成するため、ビッグデータ等を活用したICTによる個に応じた学習を推進し、学習活動の充実に努めます。</p> <p>【取組状況 (R1年度分)】 1. 岡山大学と連携し、県立高校(2校)を対象に英単語の習得を目的としたビッグデータを活用したeラーニングを実施し、生徒の学習に関するデータを収集・分析した。 2. 大学等と連携した「教育ビッグデータ利用検討委員会」において、事業内容等の検証を行うとともに、教育ビッグデータの利活用について検討した。</p> <p>【評価】 【令和元年度の成果】 eラーニング、教育ビッグデータの分析手法を活用したICTによる個に応じた学習により、時間や場所を選ばない基礎的・基本的な学習が提供でき、生徒は効率的に英単語の語彙を身に付けることができた。</p> <p>【課題】 生徒が意欲を持って学習を継続できるように、実証校への働きかけが必要である。また、実証事業の効果や教育ビッグデータ活用の今後の方向性について広く発信する必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】 生徒の個別学習状況等について分析し、可視化された成果をフィードバックすることで生徒が意欲を維持しながら学習を継続できるように支援する。また、実証事業の取組で得られた成果を普及し、教育へのビッグデータ活用について広く発信する。</p>
標準値(H28)	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
140	379	402					100.5%	400														

番号	推進項目	推進の方向性	施策・成果指標 個性を伸ばす特色ある学校づくり ■農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校の開設 □阿南光高校の開設	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
11	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり ■阿南光高校新キャンパスにおける徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発や商 □天字・地域等との協働連携専門条件教</p>	<p>事業目的</p> <p>取組状況(R1年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	<p>平成30年4月に、農工商が一体化した特色ある教育を推進する阿南光高校を開設し、時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に引き続き取り組みます。</p> <p>新野キャンパスのLED植物工場ラボを活用した「LED照明による水耕栽培システム」や「高大連携による中学生のための植物バイオ教室」、校外活動である「植物バイオ技術によるイシマササユリ保護活動」や「徳島大学石井農場施設見学・実習」、宝田キャンパスでの「ドローン操作及び活用講座」等、徳島大学との連携活動を実施した。そして、徳島大学との連携拠点施設「とくしまイノベーションセンター」において、徳島大学生物資源産学部の常駐が決定するとともに、さらなる施設の実設の充実が図られた。また、地域における農業の活性化等を図るため、阿南農業協同組合及び東とくしま農業協同組合との地域活性化連携協定を締結し、地域資源を活用した6次産業化商品開発等にも取り組んだ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>開校</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】徳島大学との高大連携教育及び地元農業協同組合との連携による6次産業化教育の展開が進められ、2キャンパスを効率的に活用し、特色のある教育を展開するための施設、人材等が整った。</p> <p>【課題】徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座の構築、及び、地域、産業界との連携内容・方法を踏まえ、地域の拠点として、新野キャンパスの活用を推進する必要がある。</p> <p>徳島大学との連携活動、新野キャンパスにおける徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座、産業界や地域との連携による外部人材を活用した、実践的・体験的教育活動等を展開する。</p>	基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	準備	開校	—	—	—	—	—	—	開校
基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
準備	開校	—	—	—	—	—	—	開校															
12	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり ■阿南光高校新キャンパスにおける徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発や商 □天字・地域等との協働連携専門条件教</p>	<p>事業目的</p> <p>今後の取組方針</p>	<p>令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>専門的な知識や技術を身に付け、地域や産業界に求められる人材を育成するため、阿南光高校新野キャンパスにおいて、徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発、商品開発等に取り組みます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R2)</th> <th>目標値(R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	—	—	—	—	3	4	5	—	推進
基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)															
—	—	—	—	3	4	5	—	推進															

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
13	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開</p> <p>□県立高校卒業生のうち、林業関連従事者数(累計)</p>  <p>担当課 学校教育部</p> <p>■施策・□成果指標</p>	<p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	<p>時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創出に取り組みます。さらに地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開に向けて取り組めます。</p> <p>○ 林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。</p> <p>○ 林業に関係する高校(学科)においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取り組み、林業関連産業への就職推進に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="462 470 526 1209"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>26</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】継続的な取組によって、新規に9名が林業関連従事者となった。</p> <p>【課題】継続的に林業関連産業への従事者が確保できるような様々な機関との連携を深め、効果的な取組を模索していく必要がある。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、課題の再発見に努める。</p> <p>継続的に林業関連産業への従事者が確保できるような様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会を確保に努める。林業に関する学校を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、従事者の定着についても検証し、安定的な人材確保に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	10	26	35				140.0%	25
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
10	26	35				140.0%	25														
14	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>私立学校の振興</p> <p>■私立学校の健全運営と魅力ある学校づくりの支援</p> <p>□私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保</p>	<p>事業目的</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	<p>私立学校では、コミュニケーションを重視した幼児期からの英語教育や難関大学への進学に重点を置いたトップレベルの学力養成のためのキャリア教育、優れた指導者の採用と有資格者の獲得による多様な教育サービスの高めるとともに、多様なニーズに対応するための特色ある教育に引き取り組みます。多様な教育サービスの選択肢を提供するため、私立学校の魅力ある学校づくりを支援するとともに、本県私立学校の認知度を高めるための、特色ある教育内容の紹介など、各学校のホームページ等による情報発信の取組についても支援します。</p> <p>私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会の均等を確保するため、高等学校等就学支援金の給付金のための給付金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。</p> <table border="1" data-bbox="1037 470 1101 1209"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支援</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】高等学校等就学支援金等を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「輝く私立学校推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に對する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。</p> <p>【課題】今後も事務の円滑な遂行により、公私間格差是正等を図る取組が必要である。</p> <p>引き続き、私立学校の振興と教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減、経営の健全性の向上を支援する。私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、預かり保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援する。また、各校の情報発信の取組の支援も行う。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	支援	支援	支援					支援
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
支援	支援	支援					支援														

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度 分)	評価	今後の取組方針																				
15	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	■私立学校の振興 ■私立学校の健全運営と魅力ある学校づくりの支援 □公私立高等学校連絡協議会の開催	事業目的 共有や意見交換を活発に行うことにより連携を強化し、県内高校教育の充実、振興を図ります。	取組状況 (R1年度 分)	公私立高等学校連絡協議会等を開催し、公立・私立の関係者が情報共有、意見交換を行う等、連携強化に努めた。また、公立高等学校の入学説明会において、私立高等学校の入学説明や取組を紹介した。 ・幹事会 7月25日 ・協議会 8月29日	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 公私立高等学校連絡協議会において、公立・私立の関係者が情報共有、意見交換を行うことにより連携を強化し、県内高校教育の充実、振興を図ります。 公私立高等学校連絡協議会等を開催し、公立・私立の関係者が情報共有、意見交換を行う等、連携強化に努めた。また、公立高等学校の入学説明会において、私立高等学校の入学説明や取組を紹介した。 ・幹事会 7月25日 ・協議会 8月29日																				
						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	(単位：校)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	推進	推進	推進					推進
(単位：校)																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
推進	推進	推進					推進																				
						【令和元年度の成果】8月に「公私立高等学校連絡協議会」を開催し、公立・私立の関係者が情報共有、意見交換を行い、公立・私立の関係者がそれぞれの現況や課題について協議することにより、意思疎通、相互理解が図られた。 【課題】公私立高等学校連絡協議会をより効果あるものとするため、協議会開催前の幹事会のあり方について調整が必要である。																					
						本県高校教育の一層の充実、振興を図るため、公立高等学校連絡協議会等を開催し、公立学校・私立学校の関係者が公私立間にある様々な問題について協議し、相互理解と連絡調整を図る。また、公立学校間で機能分担、連携を強化するため、幹事会において、ある程度具体的に公私連携推進策の検討を行い、連携強化の基盤整備を進めていく。																					
16	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性類く自立を支援	■特別支援学校における取組 ■特別支援学校の強みを生かした教育の推進 □児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供した特別支援学校数 □児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供した特別支援学校数 (令和2年度より「児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供する等、地域振興・地域貢献活動」に取り組んだ特別支援学校数」に修正)	事業目的 特別支援学校の児童生徒が学校近隣を中心とした地域の活動に参加するなど、障がいの種別や程度に関わらず一人ひとりが主役となり、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けるため、特別支援学校ならではの強みを生かした教育を推進します。	取組状況 (R1年度 分)	特別支援学校、国府支援学校、鳴島支援学校、阿南支援学校ひわさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校は、技能検定や授業で身に付けた技術を活用して、お昼時活動の中で飲み物の提供や作品の配布を実施した。また、徳島視覚支援学校は、授業で身に付けたマッサーの技術を生かし、巡礼中のお湯路さんマッサーを実施した。さらに、みなと高等学校は、地域貢献活動として、清掃を主とした奉仕活動を展開した。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 特別支援学校の児童生徒が学校近隣を中心とした地域の活動に参加するなど、障がいの種別や程度に関わらず一人ひとりが主役となり、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けるため、特別支援学校ならではの強みを生かした教育を推進します。																				
						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	(単位：校)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	7	8				100.0%	8
(単位：校)																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
5	7	8				100.0%	8																				
						【令和元年度の成果】生徒と地域がつながる取組をとおして、生徒たちの社会の役に立ちたいという意欲の向上や、地域の方々からの感謝の言葉等により、自己肯定感の高まりが見られた。また、教育計画に位置づけて実践を進めることで、生徒が目的を持って意欲的に学ぶことに繋がった。																					
						【課題】配布する作品を安定的に制作する必要がある。 作品の安定的な制作に向け、授業時間の確保等を学校に促していく。また、障がいがある重度の生徒が活動に参画できるように学校と協議しながら体制作りを進めていく。																					
						今後の取組方針 担当課 特別支援教育課																					

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度 分)	評価	今後の取組方針																	
17	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性豊く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>特別支援学校における取組 ■ 生徒の働きたい思いに応える就労支援の充実 □ 「とくしま特別支援学校技能検定」の受検者数(累計)</p>  <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>取組状況 (R1年度 分)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>512</td> <td>1,086</td> <td>1,626</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>135.5%</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	512	1,086	1,626				135.5%	1,200	特別支援学校の幼稚部から高等部にわたって幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、福祉的就労が想定される生徒の作業学習等をはじめ、特別支援学校高等部生徒の働きたい思いに応える就労支援をさらに充実します。	「とくしま特別支援学校技能検定」として、ビルメンテナンス（自在ぼりき、テール拭き、ダスターロス、モップ）、接客（喫茶サービス：基礎編、応用編）、介護（シーツ回収、シーツセット）、ICT（ワープロ入力）、流通（商品化）の5分野10種目の実施を行いました。また、今後の受検者数増加に対応できるように審査員認定教員の養成を行い、各学校で検定の実施を目指した体制構築に取り組みました。	【令和元年度の成果】5分野10種目で、20回の検定を実施し、延べ540名の生徒が受検して全員が級認定を受けた。受検した生徒には技能の習得とともに自信や意欲の向上が見られた。また、審査員認定教員の養成では、主査9名、副査19名を認定し、検定の審査員等を務めた。	【課題】検定種目の増加により開催場所や日程調整が難しくなってきたことから、より多くの生徒が技能検定を受検できる体制構築に向け、検定実施に係る事務手続きや運営に関する手続の簡素化、更なる審査員認定教員の養成が求められる。	各校で開催できるように、専門家とともに技能検定の審査が可能な審査員認定教員をさらに育成する。各校で開催しやすいように運営要項の提出を廃止するなど事務手続き等を簡素化する。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																	
512	1,086	1,626				135.5%	1,200																	
18	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性豊く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>特別支援学校における取組 □ 県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職を希望する生徒の就職率</p>  <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>取組状況 (R1年度 分)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	100	100				100.0%	100	特別支援学校の幼稚部から高等部にわたって幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、福祉的就労が想定される生徒の作業学習等をはじめ、特別支援学校高等部生徒の働きたい思いに応える就労支援をさらに充実します。	特別支援学校ゆめチャレンジフェスティバルの開催、特別支援学校の生徒等の就労支援に関する協定を生かした就業体験を実施した。また、進路指導主事及び就職支援アドバイザーによる就業体験先の開拓を実施し、生徒の就業体験等の拡充に繋がった。	【令和元年度の成果】これらの取組を実践することで、障がいがある生徒の働く意欲が向上した。また、取組を企業等に積極的にアピールすることで、障がいのある生徒の雇用に関し理解が促進され、特別支援学校3年生の就労や、2年生の就業体験に繋がった。	【課題】生徒の実態に合わせた就職先や就業体験受入れ先企業の開拓が必要である。また、就労に向けた生徒の技術の向上や態度の育成が求められる。	生徒の就業意欲を高めるために、生徒一人一人に合わせた進路学習等に取り組み。さらには、協定締結企業等と連携し、就業体験の機会を拡大する。また、生徒の適性に合わせた就業体験ができるように、進路指導担当者等と協力しながら職場開拓等を進め、就業体験先の確保に務める。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																	
100	100	100				100.0%	100																	

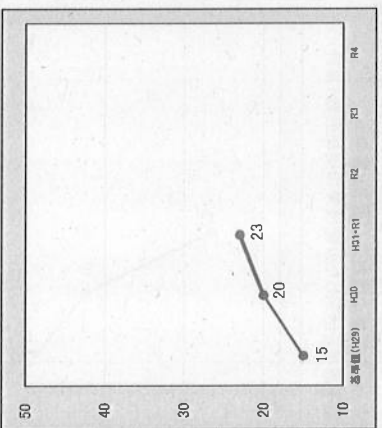
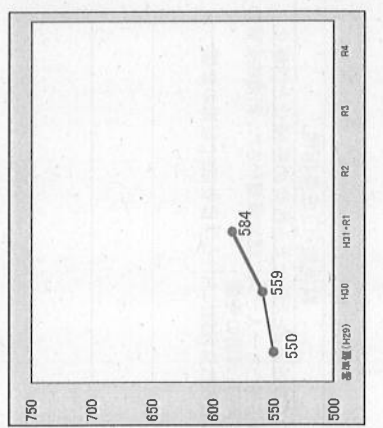
番号	推進項目	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
19	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>特別支援学校における取組</p> <p>■ 生徒の働きたい想いに応える就労支援の充実</p> <p>□ テレワーク就労体験に取り組み県立特別支援学校(肢体不自由)数</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>特別支援学校の幼稚部から高等部まで幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、福祉的就労が想定される生徒の作業学習等をはじめ、特別支援学校高等部生徒の働きたい想いに応える就労支援をさらに充実します。</p> <table border="1"> <caption>(単位:校)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R2)</th> <th>目標値(R2)</th> <th>推進</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	推進	—	—	—	3	3	3			
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	推進												
—	—	—	3	3	3															
20	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>担当課 特別支援教育課</p> <p>■ 施策・口成果指標</p> <p>幼・小・中・高等学校における特別支援教育</p> <p>■ 「ポジティブな行動支援」の考え方の浸透</p> <p>□ 「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的</p> <p>幼・小・中学校において、子どもたちの望ましい行動をほめて育てるとともに、問題行動を未然に防ぐ「ポジティブな行動支援」の考え方の浸透を図り、各園・学校全体でその取組を推進します。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>ポジティブな行動支援の考え方の浸透を図るため、「基礎セミナー」、「実践セミナー」、「特別支援教育コーディネーター研修2年目」、「指導主事による要請訪問」等を活用した研修及び「小・中学校教育課程研究協議会」等において研修を実施した。また、発達障がい教育・自立促進アドバイザーチームと連携したコンサルテーション等において研修を実施した。さらには、ポジティブな行動支援を実践している学校については、指導主事等が実践のサポートを実施した。</p> <table border="1"> <caption>(単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>20.2</td> <td>41.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.5%</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】ポジティブな行動支援の考え方が浸透し、実践を行う学校が増えた。また、ポジティブな行動支援を学校全体で取り組むために、県教育委員会にサポート依頼があり、共に取り組む学校も増えた。</p> <p>【課題】「ポジティブな行動支援」の考え方が浸透し始め、研修の申込みや実践サポートを申し出てくる学校が多くなったため、効率的なサポート体制の構築が必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>実践校の拡大や実践力向上に向けて、スタートアップセミナー及びスキルアップセミナーを新たに実施する。また、特別支援学校の特別支援教育巡回相談員と協力し、実践校サポートの充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	準備	20.2	41.0				102.5%	40		
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
準備	20.2	41.0				102.5%	40													

番号	21	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>幼・小・中・高等学校における特別支援教育 ■ 一人ひとりの学習上につまづきに応じた自律型学習教材の作成と活用の推進 □ 研究協力校において作成した自律型学習教材の問題数 (累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>3,000</td> <td>3,644</td> <td>3,893</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td>114.5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>3,400</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	基準値	3,000	3,644	3,893				達成率			114.5%				目標値			3,400				<p>事業目的</p> <p>小・中学校の通常の学級に在籍する発達障がいを含めた、学びにくさのある児童生徒の学習を支援するため、一人ひとりの学習上につまづきに応じた自律型学習教材を作成し、活用を推進します。</p> <p>自律型学習教材作成研修会を実施した。研修会の中で、児童の誤答分析を行い、どのようなステップの問題を作成すれば正答に導けるのかを考え、問題案を作成した。その後、協力校児童の解答結果をさらに分析することにより問題の改善を行い、「たすのこな・ひくのかな」の問題を完成させ、249問をホームページに公開した。</p> <p>【令和元年度の成果】小学校1年生の「たすのこな・ひくのかな」の問題を児童が実施することで、単元内容の理解が進んだ。また、誤答分析を実施し、教材を改善することで、学びにくさのある児童の学習の助けとなる補助教材を作成できた。</p> <p>【課題】問題実施後の分析・改善作業等に時間がかかると、完成までの期間が長くなる。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>
年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4																										
基準値	3,000	3,644	3,893																													
達成率			114.5%																													
目標値			3,400																													
番号	22	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>幼・小・中・高等学校における特別支援教育 ■ 高等学校における、得來の社会的自立に向けた学習内容(自立活動等)を取り入れた教育の推進 □「自立活動」等の指導が必要な生徒が在籍する高等学校における特別な指導の実施</p>	<p>事業目的</p> <p>障がいによる困難を克服し、個性豊く自立を支援</p> <p>個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>高等学校に在籍する、発達障がい等の生徒の支援の充実を図るため、得來の社会的自立に向けた学習指導内容(自立活動等)を取り入れた教育を推進します。</p> <p>得來の社会的自立に向けた学習が必要な生徒の在籍する高等学校において、コミュニケーション能力や社会性を育むためのソーシャルスキル・トレーニングや就職面接の練習といったキャリア教育を取り入れた実践を行った。「通級による指導」の実施校においては、専門家によるコンサルテーションを実施した。</p> <p>【令和元年度の成果】「通級による指導」の実施校や特別支援教育支援員配置校を中心に、得來の社会的自立に向けた学習が必要な生徒の在籍する高等学校II校において、自立活動等の内容を取り入れた実践を行った。実践校では、関係機関や専門家と連携し、支援の充実が見られた。</p> <p>【課題】小学校や中学校からの学びの連続性を確保しつつ、生徒一人一人の教育的ニーズに即した適切な支援が提供できるように、各高等学校において、引き続き自立活動の内容を取り入れた教育への理解を深めていく必要がある。また、「通級による指導」の拡大を見据えて、他の高等学校でも活用できるデータベースの作成が求められる。</p> <p>発達障がい等の生徒の支援の充実を図るため、徳島県発達障がい教育研究会等の機会を活用して、得來の社会的自立に向けた学習指導内容や取組の有用性を広く発信し、情報共有を行う。「通級による指導」の実施校では、専門家によるコンサルテーションを継続し、他の高等学校でも応用が可能な指導の構築に努める。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>																											

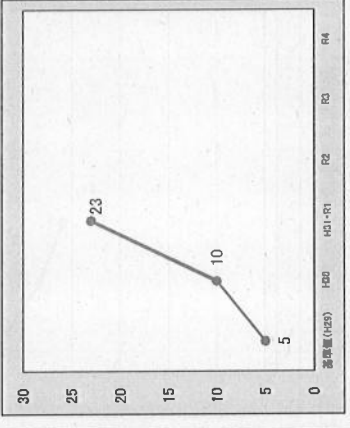
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
23	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>インクルーシブな教育体制の強化 ■ ICTを活用した教員用eラーニングを活用した、教員の特別支援教育に関する専門性の向上 □ 特別支援教育に関するeラーニング研修支援システム問題にアクセスした件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,500</td> <td>7,173</td> <td>6,920</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>111.6%</td> <td>6,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】研修の事前事後課題として、eラーニングを活用することにより、研修内容の理解が促進された。また、eラーニングにおいて障がい特性等の理解や指導方法を学ぶことができ、教員の特別支援教育に関する知識等の専門性が向上した。</p> <p>【課題】研修会の事前課題・事後課題として設定しているが、改善が十分できていないeラーニング問題がある。また、研修課題の位置づけについて見直すことも必要である。</p> <p>専門性向上に向け、特別支援教育に関するeラーニング教材の作成及び既存教材の改善、充実を図る。また、効果的な教材活用に向け、研修等の事前課題や補充課題、事後課題としての位置づけを見直す。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>既存の教員研修に加えて、ICTを活用した教員用eラーニング教材等を活用し、教員の特別支援教育に関する専門性の向上を図ります。</p> <p>研修会の事前・事後学習用の課題として活用した。また、eラーニング教材の改善・充実を図った。さらに、各学校における校内研修等で活用してもらえよう広報活動を実施した。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5,500	7,173	6,920				111.6%	6,200
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
5,500	7,173	6,920				111.6%	6,200												
24	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>インクルーシブな教育体制の強化 ■ 学歴経験者等と連携した、特別支援学校教員の専門性の向上 □ 「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」と連携した行動改善の事例数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74</td> <td>87</td> <td>99</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>116.5%</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】校内担当リダーの研修会を実施することで、研修体制の構築が図られ、アドバイザーの指導や助言を共有し取り組むことができた。また、各学校の実践成果を特別支援教育実践研究報告会において県内外に発信することができた。</p> <p>【課題】教職員の専門性向上を図るために、コンサルテーション当日の研修会の内容を充実させることが必要である。</p> <p>特別支援学校のセンター的機能の充実を図るため、学識経験者等と連携し、特別支援学校教員の専門性向上に取り組みます。</p> <p>大学教員等からなる本県で独自に設置した発達障がい教育・自立促進アドバイザーチームと連携し、相談と評価をセットにした事例研究に年間2回取り組んだ。客観的評価による授業改善を取り入れた「学校コンサルテーション(徳島スタイル)」として、特別支援学校6校で実施した。また、専門性の向上を図るための研修体制の構築を図るため、校内担当リダー研修会を実施した。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>特別支援学校のセンター的機能の充実を図るため、学識経験者等と連携し、特別支援学校教員の専門性向上に取り組みます。</p> <p>大学教員等からなる本県で独自に設置した発達障がい教育・自立促進アドバイザーチームと連携し、相談と評価をセットにした事例研究に年間2回取り組んだ。客観的評価による授業改善を取り入れた「学校コンサルテーション(徳島スタイル)」として、特別支援学校6校で実施した。また、専門性の向上を図るための研修体制の構築を図るため、校内担当リダー研修会を実施した。</p> <p>【令和元年度の成果】校内担当リダーの研修会を実施することで、研修体制の構築が図られ、アドバイザーの指導や助言を共有し取り組むことができた。また、各学校の実践成果を特別支援教育実践研究報告会において県内外に発信することができた。</p> <p>【課題】教職員の専門性向上を図るために、コンサルテーション当日の研修会の内容を充実させることが必要である。</p> <p>学校コンサルテーション当日の研修会で活用するテンプレート等を作成する。また、効率的に話し合いを進めるために、専門性の高い教員等を各グループに配置するなど、実践校と協力しながら実施する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	74	87	99				116.5%	85
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
74	87	99				116.5%	85												

番号	25	推進項目	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	実施の方向性	次代を生きぬくキャリア教育の推進	専業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針	<p>生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップの実施をはじめ、組織的・体系的なキャリア教育を推進し、学校での教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成に取り組めます。</p> <p>「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」(県内企業の会社代表による講演、研究発表等)を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値(H29)</th> <th colspan="5">H30</th> <th colspan="5">H31・R1</th> <th colspan="5">R2</th> <th colspan="5">R3</th> <th colspan="5">R4</th> <th colspan="5">達成率(R1)</th> <th colspan="5">目標値(R1)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31・R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>達成率(R1)</th><th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.6</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100.0%</td><td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。</p> <p>【課題】普通科高校におけるインターンシップの拡大とともに、キャリア・パスポートの積極的な活用により、教育活動全体において組織的・体系的なキャリア教育を一層推進していく必要がある。</p> <p>各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実やキャリア・パスポート活用の推進を図る。</p>	基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(R1)					目標値(R1)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	97.6	100	100	100	100	100	100.0%	100
基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(R1)					目標値(R1)																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																																																								
97.6	100	100	100	100	100	100.0%	100																																																								
番号	26	推進項目	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	実施の方向性	次代を生きぬくキャリア教育の推進	専業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針	<p>職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各学科や学校独自の特色ある教育活動について、日頃の学習の成果と、今後の徳島県産業界を支える人材育成を目指す、学校独自の特色ある取組と産業界の魅力を広げ県民にアピールします。</p> <p>多くの集客数が期待できるため、昨年度に引き続き、大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。</p> <p>また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業界教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,952名となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値(H29)</th> <th colspan="5">H30</th> <th colspan="5">H31・R1</th> <th colspan="5">R2</th> <th colspan="5">R3</th> <th colspan="5">R4</th> <th colspan="5">達成率(R1)</th> <th colspan="5">目標値(R1)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31・R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>達成率(R1)</th><th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,850</td><td>1,910</td><td>1,952</td><td>1,952</td><td>1,952</td><td>1,952</td><td>100.1%</td><td>1,950</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】会場を大型ショッピングモールとし、TV、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業界教育振興会の企業各社にも依頼し広報に努めた結果入場者数は1,952名と増加した。また、小学生、中学生の参加者も昨年度より多く感じられた。</p> <p>【課題】高校生の学習活動をアピールするという観点から、特に小中学生にキャリア教育の視点で多く参加してもらえようPR方法を工夫する必要がある。また、時代に即した開催内容(リモートによる参加やSNSでのライブ配信など)も検討する。</p> <p>高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。</p> <p>場所の配置や開催時間の工夫など、小学生・中学生が参加しやすい環境の設定に努める。</p>	基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(R1)					目標値(R1)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	1,850	1,910	1,952	1,952	1,952	1,952	100.1%	1,950
基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(R1)					目標値(R1)																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																																																								
1,850	1,910	1,952	1,952	1,952	1,952	100.1%	1,950																																																								

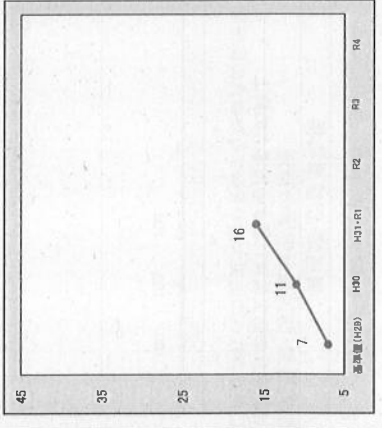
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
27	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	徳島発の中小一貫教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>徳島モデルの中小一貫教育 ■ 小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの中小一貫教育の全県展開 □ 学校分散型「チェーンスクール」実施地域数</p> <table border="1"> <caption>基礎値(H29) 目標値(R1)</caption> <thead> <tr> <th>基礎値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】吉野川市川島地区において、キャリア教育を軸とした小中の連携・接続が図られている。各地域においては、小中9年間を見通した特色のある教育活動が実践されている。その成果を中小一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会、県のホームページにおいて、県下の学校及び関係者に広く普及した。</p> <p>【課題】効果的な小中連携・接続に係る教職員の打合せ時間及び合同研修会の確保を図ることや、教職員の異動等があっても、児童生徒の資質・能力の育成を目指す小中のつながりのある教育活動を行うための組織を構築していく必要がある。</p> <p>大学教授等の有識者を含む「中小一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会、県のホームページにおいて、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある持続可能な中小一貫教育の確立を目指す。</p>	基礎値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	6	6	7				100.0%	7
基礎値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
6	6	7				100.0%	7												
28	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	徳島発の中小一貫教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>徳島モデルの中小一貫教育 ■ 小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの中小一貫教育の全県展開 □ 学校一体型「パッケージスクール」実施地域数</p> <table border="1"> <caption>基礎値(H29) 目標値(R1)</caption> <thead> <tr> <th>基礎値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】木頭小中学校では、「ふるさと学習」等、9年間で育成をめざす資質・能力を明確にした取組が実践されている。また、小中の教員によるティームテイングでの指導の質の向上や、授業回数が増えたことで、連携を重視した教育活動に対して、教職員の意識の向上がみられる。</p> <p>【課題】同一地域の社会教育施設との連携を密にした、学校・家庭・地域が一体となって取り組む「地域ととも」にある学校づくりのさらなる充実・発展に向け、実践地域との連携の促進を図りながら、実証事業を展開するとともに、その成果を県内に広報し、他地域へ普及していく必要がある。</p> <p>大学教授等の有識者を含む「中小一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会、県のホームページにおいて、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある持続可能な中小一貫教育の確立を目指す。</p>	基礎値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	2	3	3				100.0%	3
基礎値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
2	3	3				100.0%	3												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
29	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化</p> <p>■ テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等の推進</p> <p>□ 高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数</p>  <p>担当課 教育創造課</p>	<p>事業目的</p> <p>過疎・少子化の進行により小規模化が進む高校において、多様な教育活動、魅力的な授業の展開を維持し、生徒の学習ニーズに対応した授業を実施する方策として、ICT（TV会議システム）を活用した徳島ならではの遠隔授業の実施体制を構築します。</p> <p>取組状況 (R1年度 分)</p> <p>「高等学校の多様なニーズに応える遠隔教育推進事業」により、池田高校（本校・辻校・三好校）において、総合教育センター等から大学教授等による遠隔特別講座を実施するとともに、3校間での同時配信も実施することで、ICTを学校間連携に活用する際の効果と課題を検証した。</p> <table border="1" data-bbox="462 470 542 1209"> <thead> <tr> <th colspan="6">（単位：回）</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15</td> <td>20</td> <td>23</td> <td></td> <td></td> <td>22</td> </tr> <tr> <td colspan="6">達成率(R1) 104.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】大学教授等による専門性が高い講義内容など、都市部と同様の魅力ある特別講座や地域の地理的・文化的特性を生かした講座、キャリア教育に関する講座などを実施したことで、人口減少社会における新しい高校教育のモデルの一つとして活用でき、魅力ある学校づくりにつながった。</p> <p>【課題】遠隔授業をより効果的に行うため、生徒の興味関心や理解度を講座の内容に反映させるとともに、様々な学習形態に対応するための研究や授業補助者のスキル向上を図る必要がある。また、TV会議システムやそのノウハウの応用の可能性を検討する必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>遠隔授業を、人口減少地域における教育の維持向上や魅力ある学校づくりに活用するため、引き続き実施回数を増やしていくとともに、講座の内容の更新・充実を図る。また、大学生との交流や学校の垣根を越えた生徒間の協働等へのTV会議システムの活用を図る。</p>	（単位：回）						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	15	20	23			22	達成率(R1) 104.5%					
（単位：回）																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
15	20	23			22																						
達成率(R1) 104.5%																											
30	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化</p> <p>■ テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等の推進</p> <p>□ テレビ会議システムの利用回数</p>  <p>担当課 総合教育センター</p>	<p>事業目的</p> <p>テレビ会議システム等の遠隔システムを活用した遠隔指導・授業など、ICTを効果的に活用した教育活動や研修等の充実を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度 分)</p> <p>テレビ会議システムによる公立学校での遠隔授業や交流学習、研修、会議等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業（海部高校、池田高校の本・分校） ・各種会議（県立高校の家庭クラブ総会、那賀地域の中・高連絡会議） ・県教委事務局コンプライアンス・人権研修（県庁・総合教育センター・文化の森） <table border="1" data-bbox="1037 470 1117 1209"> <thead> <tr> <th colspan="6">（単位：回）</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>550</td> <td>559</td> <td>584</td> <td></td> <td></td> <td>575</td> </tr> <tr> <td colspan="6">達成率(R1) 101.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】遠隔地にある大学や中・高等学校間の交流・連携が図られるとともに、校務の効率化を実現することができた。</p> <p>【課題】学校等に対するテレビ会議システム活用の一層の普及・啓発を図るとともに、効果的で効率的な活用事例について周知する必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>整備される児童生徒1人1台の端末による遠隔授業、研修、会議など多様なテレビ会議システムの活用方法を紹介、広報するとともに、テレビ会議システムの有効な活用方法を検証し、遠隔地にある学校等での多様な学習や校務の効率化を支援する。</p>	（単位：回）						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	550	559	584			575	達成率(R1) 101.6%					
（単位：回）																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
550	559	584			575																						
達成率(R1) 101.6%																											

番号 31	推進項目 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり 推進の方向性 全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進	実施の方向性 ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化 ■子供たち一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の整備 □義務教育段階における学習者用PC端末の整備	事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針 令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象) 児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、創造性を育む学習活動の充実のために必要なICT環境の整備を推進します。 <table border="1" data-bbox="558 470 638 1209"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R2)</td> <td>目標値(R2)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	—	—	—	推進	推進	推進	—	推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)												
—	—	—	推進	推進	推進	—	推進												
番号 32	推進項目 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり 推進の方向性 全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進	実施の方向性 ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化 ■タブレット端末や電子黒板等のICT活用に関する実証研究とその効果の検証及び普及・啓発 □電子黒板を活用した公開授業の実施回数(累計)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 教科等でのICT活用教育を推進するため、タブレット端末や電子黒板等のICT活用に関する実証研究を行い、その効果の検証及び普及・啓発により、教育の多様化と効率化を図ります。 【令和元年度の成果】授業改善のためにICTが日常的に活用されており、教員からは、ICT活用により、平成29年度実施校と平成30年度実施校が、意見交換会や情報交換サイトを活用し、得られた成果について、公開授業等で普及に努めた。 <table border="1" data-bbox="973 470 1053 1209"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>23</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>115.0%</td> <td>20</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	10	23	—	—	—	115.0%	20
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
5	10	23	—	—	—	115.0%	20												



番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針																		
33	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>豊かな資源を生かした教育プログラムの確立</p> <p>■ 県内外から生徒が集う学校づくり</p> <p>□ 高校を拠点とした地方創生の推進</p>	<p>事業目的</p> <p>人口減少が急速に進む地域の高校において、その魅力化や活性化を通じて地域の新たな活力を創出するため、豊かな資源を活かした教育プログラムを確立し、地域を挙げて、地元はもとより県内外から生徒が集う学校づくりを進めます。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>「ふるさと創生拠点ハイスクールの推進事業」により、海部高校をモデルに、大学、地元自治体、地域関係者等との連携による体験体感を重視した教育活動の実施、特別非常勤講師（英語）の配置、オンライン英会話などによるグローバル教育の推進などを行うとともに、東京、名古屋、大阪、福岡における進学説明会への参加などによる魅力化の広報を行った。また、海部高校魅力化推進協議会を設置し、事業の効果と課題等の検証を行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値 (H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率 (R1)</th> <th>目標値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】各分野のプロフェッショナルや大学教授、地域の人材を活用した特別講座の実施、ICT環境等を活用したグローバル教育により、魅力的な教育プログラムを展開した。また、学校、地元自治体、地域関係者が連携し、県外からの入学生の受入体制を整備した。</p> <p>【課題】地域の魅力を生かした教育プログラムの開発を継続して推進し、その成果を効果的にPRするとともに、県外からの入学生の受入体制を充実させることで、県内外からの生徒募集を積極的に進める必要がある。</p>	基準値 (H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率 (R1)	目標値 (R1)	—	—	推進	推進					推進	<p>評価</p> <p>アンケートによって中学生のニーズや魅力化事業の認知度を調査することで、取組内容のさらなる充実化を図るとともに、より効果的なPR方法を検討し、県内外からの生徒募集を積極的に進める。また、春休舎を増設し、県外からの入学生の受入体制の充実を図る。</p>	<p>今後の取組方針</p> <p>区域外就学制度を活用した短期間の転校を認める形での「デュアルスクール」の実施事例を積み上げ、その成果と課題を検証し、課題解決のための方策を検討します。</p>
基準値 (H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率 (R1)	目標値 (R1)																
—	—	推進	推進					推進																
34	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>「新しい学校のかたち」の制度化</p> <p>■ 地方と都市、双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する「デュアルスクール」の推進</p> <p>□ 「デュアルスクール」の実施回数「モデル化」に向けてのモデル試行実施回数(累計)</p> <p>(令和2年度より「デュアルスクール」の実施回数(累計)」に修正)</p>	<p>事業目的</p> <p>平成28年度以来、令和元年度末までに、東京と大阪の8家族により計16回実施した。また、名古屋の大型商業施設でのイベント実施(1回)、東京や大阪で県が主催する移住に関するイベントへの参加(5回)など、都市部でのPR活動を行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値 (H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率 (R1)</th> <th>目標値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>11</td> <td>16</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>88.9%</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】本事業をメディアが紹介したり、これまでのPR活動の成果によって、県外での認知度が高まり、興味を持った方からの問合せが増加している。また、他県の教育委員会等からの質問や視察訪問も多数あった。</p> <p>【課題】災害等によるやむを得ない事情により、実施に至らない事例があった。また、受入れ側と家族とのスケジュールの都合が合わない事例もあった。手続が煩雑であるため、よりスムーズに時間をかけずに希望者を受け入れる環境づくりが必要である。加えて、デュアルスクールの期間中の学校現場の負担軽減を図るために派遣する講師の確保が困難となっている。</p>	基準値 (H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率 (R1)	目標値 (R1)	7	11	16					88.9%	18	<p>評価</p> <p>本事業の対象となる家族の新規開拓に向けて、ターゲットに応じたPR活動を行う。また、いろいろなパターンの実施事例を積み重ねることで、市町村教育委員会や学校が行う転校に伴う手続きを簡素化する方法を検討すると共に、より活用しやすいシステムを構築していく。加えて、学校現場の負担軽減を図るため、教員免許状を持っていないくても(教職課程を専攻している大学生など)講師ができてよくなる仕組みについて、検討を行う。</p>	<p>今後の取組方針</p> <p>区域外就学制度を活用した短期間の転校を認める形での「デュアルスクール」の実施事例を積み上げ、その成果と課題を検証し、課題解決のための方策を検討します。</p>
基準値 (H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率 (R1)	目標値 (R1)																
7	11	16					88.9%	18																



番号	35	推進項目	災害を迎え撃つ防災教育の推進	推進の方向性	防災知識の普及・啓発等の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>防災啓発・防災生涯学習の推進 ■教職員の防災教育に関する指導力の向上 □県立学校への防災士資格を有する教職員の配置率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	100	100	100			100.0%	100	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>【事業目的】 教員の災害対応能力を高め、児童生徒の命を守るための体制を整備し、地域とのコミュニケーションの向上を図ります。災害発生時にリーダーシップを発揮できる人材として養成し、災害時の学校防災力の向上を図ります。</p> <p>【取組状況(R1年度分)】 令和元年度は、県立学校及び市町村立の小・中学校から防災士資格取得に意欲のある教員を募集選考の上、30名が学校防災人材育成講座に参加した。その後、日本防災士機構の防災士資格取得試験を受験し30名全員が合格した。令和元年度までに、79名の防災士資格を取得した教員を養成し、全ての県立学校に配置するとともに、小中学校への拡大を図っている。</p> <p>【評価】 【令和元年度の成果】防災士の資格を取得した教員は、「防災クラブ」の活動において指導的な役割を果たし、地域と連携した防災活動に積極的に取り組むことで、学校の防災力の向上が図られた。</p> <p>【課題】人事異動により未配置校になった場合に、優先的に教員防災士を養成する必要がある。加えて、研修等を通じ、防災士の資格を取得した教員の更なるスキルアップに取り組む必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】 県立学校及び市町村立の小・中学校から「教員防災士」の養成に努め、防災人材育成センター等と連携して、防災教育スキルアップ研修等を開催し、スキルアップを図る。また、各校が行っている防災に関する取組事例について情報共有を図る。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																
100	100	100	100			100.0%	100																
番号	36	推進項目	災害を迎え撃つ防災教育の推進	推進の方向性	防災知識の普及・啓発等の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>防災啓発・防災生涯学習の推進 ■教職員の防災教育に関する指導力の向上 □防災人材育成センター等と連携した教職員のスキルアップ</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>【事業目的】 教職員の防災に関する意識を啓発し、防災教育に関する指導力の向上を図るため、防災教育・防災管理に関する教職員の研修会を実施します。</p> <p>【取組状況(R1年度分)】 防災人材育成センターと連携を図り、令和元年5月20日に第1回学校防災研修会、令和2年1月22日に第2回学校防災研修会を開催し、教職員の防災に関する意識の啓発と防災教育に関する指導力の向上を図った。</p> <p>【評価】 【令和元年度の成果】学校防災研修会に参加した教員は、各学校において研修の成果を教職員と共有するとともに、積極的に地域と連携した防災学習や防災活動に取り組むことで、防災教育に係る指導力の向上が図られた。</p> <p>【課題】「教員防災士」の養成と併せ、更なる災害対応能力の向上と、より実践的な防災教育に取り組むために、継続したスキルアップが必要である。</p> <p>【今後の取組方針】 学校防災研修会に加え、「教員防災士」を対象とした防災教育スキルアップ研修を開催し、教員の災害対応能力を高め、実践的な防災教育に取り組むことにより、災害発生時に児童生徒の命を守り、リーダーシップを取ることでできる力量を持った教員の養成を図る。</p>																

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針																						
37	災害を迎え撃つ防災教育の推進	防災知識の普及・啓発等の推進	■ 施策・口成果指標 災害記録の普及・啓発による防災意識の向上 ■国登録記念物「南海地震徳島県津波碑」等の災害記録の普及・啓発による、防災意識の向上 □地域に残された災害記録の普及・啓発	国登録記念物「南海地震徳島県津波碑」をはじめ、地域に残された災害を記録する史跡について、その歴史的価値や教訓を普及・啓発することにより地域の防災意識の向上を図り、また、市町村と連携しながら後世へ継承していきまます。 地震津波碑説明版を16箇所に設置するとともに、「レキシールとくしま」ホームページにおいて石碑の4K映像や3D映像を公開し、地震津波碑の内容を紹介した。	【令和元年度の成果】石碑の横に現代語訳した説明版を設置し、見学者に内容がわかりやすくした。また、レキシールとくしまホームページ上に地震津波碑の解説ページを作成し、それぞれの石碑の写真や内容、場所を掲載し、全国に発信した。 【課題】地元が主体となって活用を図っていくことが重要であるため、関係各市町への啓発、支援、連携が必要である。	地震津波碑が地元の文化財として保存され、防災教育等に活用されるよう、関係市町との連携し、その協力的なも確保方法や活用方法のあり方を検討する。																						
			事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：一)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	(単位：一)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	準備	推進	推進					推進			
(単位：一)																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																					
準備	推進	推進					推進																					
38	災害を迎え撃つ防災教育の推進	学校の避難所機能の強化 ■中核的な避難所としての県立学校の施設整備 □体育館等におけるトイレの洋式化率	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針	県立学校が中核的な避難所として機能するよう、非構造材の耐震化をはじめ、ライフラインの確保に向けた太陽光発電装置や自家発電装置等の設置を推進し、すべての県立学校において避難所機能を確認します。さらに、県立学校に整備した無線LAN環境を、災害時の通信手段として活用することにより、学校の避難所機能を強化します。 令和元年度は、体育館トイレ洋式化(9校)の整備を行った。 (平成30年度は、衛星携帯電話33校、太陽光パネル付きLED照明灯(3校)、体育館天井落下防止対策(1校)、地震時解除装置付き鍵ボックス(3校)、屋外トイレ改築等(2校)及び体育館トイレ洋式化(24校)の整備を行った。)	【令和元年度の成果】避難所指定校35校のうち、令和元年度に9校において完了した。体育館等におけるトイレの洋式化改修を進めた結果洋式化率は90%となった。 【課題】製品の調達が困難であるなど、やむを得ない事情が考えられるため、引き続き計画的に整備を進める必要がある。	学校を核とした地域防災力の向上	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>63</td> <td>90</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>120.0%</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	(単位：%)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	28	63	90				120.0%	75
(単位：%)																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																					
28	63	90				120.0%	75																					
			事業目的																									
			取組状況 (R1年度分)																									
			評価																									
			今後の取組方針																									

担当課 施設整備課

番号	推薦項目	推薦の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
39	個性がひらく特別支援教育の推進	学校を核とした地震防災力の向上	<p>■施策・□成果指標</p> <p>地域防災を担う人材の育成 ■すべての県立中学・高校に設置した防災クラブの活動の推進 □地域と連携した防災ボランティア活動の推進</p> <p>【令和元年度の成果】 地域や学校の状況に応じた取組みが更に進み、将来の防災の担い手の育成と防災力の向上が図られた。</p> <p>【課題】 各学校の「防災クラブ」が、地域と連携した防災ボランティア活動を推進するための支援が必要である。</p> <p>各学校の特色を生かして、地域と連携しながら防災ボランティア活動を展開するための支援を行う。また、他校の「防災クラブ」と交流を図り、防災活動を全県下に広げるため「高校生防災クラブ交流イベント」 「中学校防災クラブ交流イベント」を開催し、地域に根ざした防災活動を推進していく。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>防災士資格を取得した中学・高校生（県立中学）を拠点として、防災クラブを活動拠点として学校防災の牽引役として活動する中で、地域の実情に応じた防災訓練や防災ボランティアに取り組みることにより、地域防災の担い手となる人材として育成します。</p> <p>「学校防災人材育成講座」を開催し、令和元年度は中学・高校生91名が「防災士」の資格を取得した。防災士資格を取得した高校生は「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に積極的取り組みなど学校防災の牽引役として活動した。令和元年度までに、605名の防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に取り組んだ。また、7月に「中学生・高校生防災クラブ交流イベント」を開催し、研修を行うとともに他校との連携を図った。</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>360</td> <td>514</td> <td>605</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.8%</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】 防災士資格を取得した中学・高校生が、防災クラブの活動等を通じて、地域や学校の状況に応じた取組みを行うことで、将来の防災の担い手として育成が図られた。</p> <p>【課題】 「防災クラブ」の活動を継続させるとともに、地域の関係機関や自主防災組織との協働を活性化させるため、地域防災のリーダーとなる「中学・高校生防災士」を継続して育成する必要がある。</p> <p>「チャレンジ防災人材育成推進事業」において、継続して防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を活動の拠点として、地域での防災ボランティア活動に参加することで、学校防災の牽引役、地域防災の若い活力として資格取得で身につけた知識と技能の活用を図り、地域防災の担い手となる人材育成に取り組む。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	360	514	605				100.8%	600
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
360	514	605				100.8%	600												
40	個性がひらく特別支援教育の推進	学校を核とした地震防災力の向上	<p>■施策・□成果指標</p> <p>地域防災を担う人材の育成 ■中学・高校生の防災士資格取得の支援による、児童生徒の防災対応能力の向上 □中学・高校生防災士養成数(累計)</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>360</td> <td>514</td> <td>605</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	360	514	605							
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4														
360	514	605																	

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

番号	推進項目	児童の方向性	成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
41	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■施策・□成果指標 本県教育の充実・発展 ■鳴門教育大学との連携協定に基づく取組による、本県教育の充実・発展 □鳴門教育大学との連携	鳴門教育大学と締結した連携協定に基づき、子どもたちの確かな学力の育成や問題行動等防止、教員の人材育成等について協議を深め、より一層の連携協力体制を構築し、本県教育の充実・発展に取り組めます。	<p>○教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員養成指標を踏まえた主幹教諭・指導教諭研修プログラムの開発に取り組んだ。 ・研修の単位化による科目履修制度を活用した専修免許状取得プログラムの検討を行った。 ・鳴門教育大学大学院・教職大学院への教員の派遣のあり方についての検討を行った。 <p>○確かな学力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業改善」推進校への学校訪問において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について具体的な指導助言をいただいた。 ・児童生徒の問題行動等の防止について ・公立学校生徒指導主任研修会、公立中等学校生徒指導主事研修会、公立高等学校及び特別支援学校生徒指導主事研修会などの様々な会議での意見や、事業実施に係る指導・助言をいただいた。 <p style="text-align: right;">(単位：一)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">基準値(H29)</th> <th style="width: 10%;">H30</th> <th style="width: 10%;">H31・R1</th> <th style="width: 10%;">R2</th> <th style="width: 10%;">R3</th> <th style="width: 10%;">R4</th> <th style="width: 10%;">達成率(R1)</th> <th style="width: 10%;">目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】各部会における連携の推進により、各学校における学力向上や生徒指導力の向上、教員研修の在り方等について、教員の意識や学校力の向上において、改善が図られた。</p> <p>【課題】教員の人材育成については、より教育現場の課題意識を踏まえた研修となるよう、共通認識を図りながら連携を強化していく必要がある。また、学力向上については、各指定校の取組を他校に広げていくための工夫が求められる。さらに、問題行動防止については、各学校が抱える多様な課題に対する効果的な対策のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>それぞれの部会において、各学校が抱える課題と取組内容、取組の効果を明確にしつつ、学校と大学双方が主体的に協業を進めることで連携強化を図っていく。その中で、効果的な事業展開を推進し、本県教育の更なる充実につなげていく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進	推進														
			担当課 教育政策課	事業目的 取組状況(R1年度分)	評価 今後の取組方針																

番号	42	推進 項目	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	施策の 方向性	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>■ 確かな学力の育成</p> <p>■ 学力向上推進員を中心とした児童生徒の学力向上と情報発信</p> <p>□ 「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率</p>	<p>事業目的</p> <p>全国学力・学習状況調査や徳島県学力ステータスアッププログラムの結果分析から明らかとなった本県の課題等を踏まえ、大学や市町村教育委員会とも連携・協力を図りながら、学校訪問や教員研修等の機会を捉えて、各学校の授業改善や家庭学習の充実を支援することにより、学力向上、学習状況改善に取り組みます。</p> <p>徳島「未来の学び」創造プロジェクトに基づき、学校訪問を実施し新学習指導要領の周知・徹底、学力向上確認プリントを作成・配布、鳴門教育大学と連携した「授業改善」推進事業等を通して、各小中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現による、子供たちの確かな学力の育成を支援した。</p>	<p>取組状況 (R1年度 分)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>国語・算数(数学)で全国平均正答率以上</td> <td>中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上</td> <td>国語・算数(数学)で全国平均正答率を上回っていない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>国語・算数(数学)で全国平均正答率以上</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上	国語・算数(数学)で全国平均正答率を上回っていない					国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	<p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】各校において、全国学力調査等の結果分析に基づいた授業改善を実施し、基礎・基本における力は定着できていた。活用問題への対応では、県教委作成の学力向上確認プリントを活用した取組を行うことができた。また、「対話的な学び」を授業に位置付け、個人の考えを相手に伝える授業場面を計画的に設定することができた。</p> <p>【課題】「知識」と「活用」に関する問題が一体化となり、活用問題の中で、特に、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くことや与えられた情報を整理し内容を捉えることに課題があることが分かった。また、「対話的な学び」を計画的に行っているが、「書く力」と合わせた授業改善の取組を行うことが必要である。</p> <p>学力向上推進員の役割について周知を行うとともに、鳴門教育大学と連携した授業づくり研修会を通して全国学力・学習状況調査の問題を活用した授業改善を実施する。そして、基礎・基本の定着はもとより、「活用問題」への対応も含め、すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善を国語力向上タスクフォースからの提案を活用し、児童・生徒の「読み取る力」「書く力」「伝え合う力」等の育成を図る。</p>	<p>今後の 取組方針</p> <p>担当課 学校教育課</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																			
国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上	国語・算数(数学)で全国平均正答率を上回っていない					国語・算数(数学)で全国平均正答率以上																			

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針
43	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 確かな学力の育成 ■ 発達段階に応じた指導計画の作成 □ 情報活用能力の育成に関する指導計画の作成	事業目的 新学習指導要領の実施に向けて、各学校教育で求められる能力や教育内容を明確化し、各学校で発達段階に応じた指導計画を作成します。 新学習指導要領の実施に向けて、小学校における情報活用能力年間指導計画について検討を策定した。	取組状況 (R1年度分)	すべて児童生徒に求められる情報活用能力の育成に向け、各学校段階で求められる能力や教育内容を明確化し、各学校で発達段階に応じた指導計画を作成します。 新学習指導要領の実施に向けて、小学校における情報活用能力年間指導計画について検討を策定した。
				評価		【令和元年度の成果】 県内の小中高特別支援学校において情報活用能力の一つである情報モラル教育の年間指導計画を作成し、小学校プログラミング教育の年間指導計画とあわせて情報活用能力の育成を図る指導計画を作成することができた。 【課題】 児童生徒の学習者用パソコンの整備促進とともに、ICTを効果的に活用した学習を推進し、プログラミング教育や情報モラル教育を効果的に習得し、系統的に情報活用能力を育成するために、校種間における指導計画の連携を図る必要がある。 児童生徒の情報活用能力育成における好事例を普及・啓発するとともに、小学校と中学校が連携した情報活用能力の育成に関する指導計画の作成を図る。
44	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 確かな学力の育成 ■ プログラミング教育の組織的・体系的な推進 □ プログラミング教育に関する年間指導計画の作成	事業目的 新学習指導要領の実施に向けて、年間指導計画例の作成、教員研修（特別研修3日、希望研修2日、受託研修2回、要請訪問研修19回）、研究指定校（鳴門市里浦小学校、小松島市南小松島小学校、東みよし町足代小学校）での実証研究等に取り組んだ。	取組状況 (R1年度分)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」などを育むプログラミング教育を、小・中・高等学校を通じて、組織的・系統的に推進するため、教科等の学習との関連付けを行いながら発達段階に応じて位置付けるように全体計画・指導計画を作成し、学校全体でプログラミング教育を推進します。 新学習指導要領の実施に向けて、年間指導計画例の作成、教員研修（特別研修3日、希望研修2日、受託研修2回、要請訪問研修19回）、研究指定校（鳴門市里浦小学校、小松島市南小松島小学校、東みよし町足代小学校）での実証研究等に取り組んだ。
				評価		【令和元年度の成果】 総合教育センターでプログラミング教育の年間指導計画例を作成するとともに、公立全小学校のプログラミング教育推進者を対象に研修を実施し、研修受講者の伝達研修により全教職員が研修を受講でき、指導力向上が図れた。また、研究指定校では各教科等における指導事例を数多く創出することができた。 【課題】 教科の学びを豊かにするプログラミング教育の活用に関する実証研究で得られた好事例を普及し、更なる事例の創出を図ることが必要である。また、本年度の実施状況をもとに年間指導計画の見直しを図る必要がある。 各学校で策定した年間指導計画に基づいてプログラミング教育を推進する。また、研究指定校を中心に小学校と中学校間の指導の連続性や、企業や大学等と連携したプログラミング教育について新たな指導事例の創出に取り組む。

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
45	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>各園・学校や関係団体等の、読書環境を整える工夫などの情報提供により、子どもたちの主体的な参加を促す読書活動の取組を推進し、関係者・団体間のネットワークづくりを支援します。また、地域の読み聞かせ団体等の協力を得て、学校における読書活動を充実させるとともに、ブックリストの普及や学校図書館の貸出冊数の増加に努めることで、家庭での読書活動につながる取組を充実させ、子ども読書生活の充実を推進します。</p> <p>保護者や地域との連携を図るなど、様々な工夫を凝らした「読み聞かせ」に取り組んでいる園・学校が多数見られた。新聞形式での「図書館だより」や新聞記事を活用した話し合い活動など、新聞記事を活用した取組が見られた。</p> <p>(単位：％)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89</td> <td>90</td> <td>91</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101.1%</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>84</td> <td>80</td> <td>81</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>95.3%</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】小学5年生の1日10分以上読書をする児童の割合は9割に達している。読書時間が10分未満児童の割合は、順調に減少している。学校による家庭読書につながる取組の充実がみられる。</p> <p>【課題】中学2年生の1日10分未満の読書時間の生徒が2割いるので、学校図書館の機能を強化し、学校において児童生徒が本に触れる教育活動を充実させ、家庭読書へとつながる子供の読書生活化を図ることが課題である。</p> <p>書評対戦(ピプリアトル)による「おすすめの本」を紹介し合う活動やペア読書など多様な読書活動を取り入れ読書に能動的に関わることでできる機会を設定する。新聞記事をまとめた話し合い活動をしたりする活動の推進を図る。家庭読書につながる取組を充実させ、読書の質的な向上と他の読書活動の取組との連携を図り、読書の生活化を推進していく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	89	90	91				101.1%	90	84	80	81				95.3%	85
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
89	90	91				101.1%	90																				
84	80	81				95.3%	85																				
46	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>県立半岐少年自然の家を子供たちの体験活動の拠点として、地域の自然や文化活動を生かした自然体験・交流体験・環境学習等を実施し、達成感や成功体験を得ることにより、連帯感や自己肯定感を育む取組を推進します。</p> <p>「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会、高校生などの協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ、県内外各地から多くの参加者があった。</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>813</td> <td>929</td> <td>857</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>95.2%</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】地域の方々との交流の輪が広がり、協力を得るとともに、職員豊富なアイデアを生かして、体験活動の種類や回数を増やすことで、各体験活動において例年を上回る参加者の増加につながることができた。年度末には主催事業を2つ中止としたため、目標値まで到達しなかった。</p> <p>【課題】体験活動の日程や内容等の見直しを常に行い、地域の住民や自治体の意見をくみ取り、連携して改善を図っていくことが重要である。また、学習指導要領の改訂や新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊体験学習の実施校の減少や活動時間の短縮が危惧される。</p> <p>参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実した、効果的な事業を実施するとともに、活動内容に教科の授業時間としてカウントできる内容を取り入れていく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	813	929	857				95.2%	900								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
813	929	857				95.2%	900																				

番号 推進 項目	施策の 方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
47 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成 「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・口成果指標 健やかな体の育成 ■ 児童生徒の体力・運動能力の向上 □ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均を上回る種目数	<p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」をもとに、県内小・中学生の体力・運動能力に関する基礎資料を収集するとともに、改善に向けた具体的な方策を検討することにより、「学校体育の充実」「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」を柱とした事業の充実改善を図り、子どもの体力・運動能力を向上します。</p> <p>学校教育の充実として、全ての学校で「体力向上計画」を策定し、各校の課題に応じた取組を推進するとともに、低年齢期からの「体力アップ運動」の継続的な実施を図った。また、「はつらつササポート」として、小学校の体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体を派遣し、運動の苦手を児童に目を向けた授業を展開することにより、体力向上及び教員の指導力向上を図った。</p> <p>運動習慣の確立のため、パソコンを使ったランキングシステムを活用して、運動習慣が確立できていない児童生徒も友達や家族と手軽に継続して取り組むことができ、種目を提供する「Newキッズ&ジュニアわんぱくランキング」や、「プラス1000歩チャレンジ」として歩数計を活用し運動量の可視化（見える化）により子供が自分の運動習慣を知り、その改善ができるよう体力向上の取組を支援した。</p> <p>さらに、望ましい生活習慣の形成のため、「さわやかササポート」として専門性の高い大学教員等を幼稚園、小・中学校のPTA・学校行事等に派遣し、運動好きの園児、児童生徒の育成や、生活習慣の基礎形成を目指す。保護者への啓発、教員の指導力向上を図った。</p> <p>これらの取り組みについては、「子どもの体力・運動能力向上対策委員会」を2回開催し、大学やPTA等、様々な立場から意見をいただき、事業の充実改善を図った。</p> <p>(単位：種目)</p> <table border="1" data-bbox="829 470 893 1209"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>52.9%</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、握力(小5女、中2男女)と反復横とび(小5男女、中2男)で全国平均値より良い記録となり、筋力と敏捷性に関する体力の向上が図られた。しかし、中学校2年男子において、順位が過去最高の28位(H26と同位)となった一方、体力合計得点は、小学校男女、中学校男女すべてで低下し、体力・運動能力向上に一端上げ止まりの状況が見られる。</p> <p>【課題】全身持久力の参考となる「20mシャトルラン」や「持久走」の平均値については、小学校、中学校とともに全国平均値との差が顕著である。筋持久力の参考となる「上体起こし」の平均値については、中学生において全国平均値との差が顕著であり、更なる取組が必要である。</p> <p>すべての小中学校が自校の体力課題を分析し、課題に応じた「体力向上計画」を作成・実行することにより、体力向上に向けた取組を徹底する。特に、過去に全国平均値を上回ったことが多い「ボール投げ」や「立ち幅跳び」等の種目については、指導者講習会において効果的な指導方法やテストの測定方法について伝達講習を行うことで記録の安定的向上を図る。また、今後継続して「わんぱくランキング」等の取組を行うとともに「はつらつササポート」の実施を充実させ、小学校の体力課題に対応した授業改善を進めることで体力の底上げを図り、全国平均を上回る種目数の増加を目指す。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	11	10	9				52.9%	17
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)											
11	10	9				52.9%	17											
事業目的	取組状況 (R1年度 分)	評価																
今後の 取組方針	今後の 取組方針	今後の 取組方針																

担当課 体育学校安全課

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
48	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 健やかな体の育成 ■ 児童生徒の体力・運動能力の向上 □「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、運動好きの子どもの割合が全国平均を上回るカテゴリー数の割合(カテゴリー数:小学5年生の男女、中学2年生の男女の計4) 	事業目的 取組状況(R1年度分)	小学校の体育授業の充実を図り、運動好きの子どもの割合を増やすことにより、運動やスポーツに対する良好な意識を基礎とした体力・運動能力の向上を表現し、子どもが豊かなスポーツライフを形成できる教育を支援します。 体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体、指導者を派遣する「はつらつサポート(学校体育指導者派遣事業)」を県内70の小中学校で実施し、運動の苦手を克服する「はつらつサポート」により、体力・運動能力の向上及び教員の指導力向上を図った。 (単位:%) <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>75</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>75.0%</td> <td>100</td> </tr> </table> 【令和元年度の成果】令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツが好き」と回答した割合が、中学校2年男子のみ全国平均値を下回ったが、「体育の授業は楽しい」、「体育の授業は将来役に立つ」などの質問項目では全国平均を上回っており、全体としては運動やスポーツ、体育授業に対する良好な意識が形成されている。 【課題】「はつらつサポート」事業の実施により学校からの指導者派遣の希望が増加している反面、派遣が単発的な授業支援であるため、根本的な授業改善に結び付いていないことが課題となっている。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	100	75				75.0%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
100	100	75				75.0%	100														
49	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 健やかな体の育成 ■ 児童生徒の体力・運動能力の向上 □ICTを活用した手軽にできる運動のランキング判定システムへの参加グループ数 	事業目的 取組状況(R1年度分)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 事業目的 パソコンを使って、学校や家庭でランキングを確認しながら、友達や家族と一緒に楽しみながら繰り返して挑戦できる運動プログラム「ICTによるランキングシステム」を活用することにより、学校や家庭における運動習慣の確立を支援します。 取組状況(R1年度分) 教員の研修会等でランキングシステムの普及を促すとともに、提供した運動プログラムによる「キッズわんぱくランキング大会」を1月に開催し、取組が顕著な団体や学校を表彰するなど、家庭への運動習慣確立の啓発を行った。また、歩数計を貸与することによりランキング種目「ファミリーチャレンジ歩き道」への参加を増やすとともに、運動量の可視化を図り、子供たちが自分の運動習慣を知り、その改善ができるように支援した。 (単位:グループ) <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>3,535</td> <td>3,835</td> <td>3,885</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>105.0%</td> <td>3,700</td> </tr> </table> 【令和元年度の成果】令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、運動やスポーツ、体育授業に対して、小学校5年男女、中学校2年男女ともに良好な意識がうかがえる一方で、「体育の授業以外での1週間の総運動時間」が、小学校5年男女、中学校2年男女すべてで減少しており、体育の授業以外での運動時間の確保が図られていない状況が見られる。 【課題】「1週間の総運動時間が0分」の児童生徒の割合が、前年度より減少したものの、「体育の授業以外での1週間の総運動時間」が全国・県平均値ともに小学校5年男女、中学校2年男女すべてで低下しており、運動時間の確保が図られていない状況が見られることから、更なる事業の周知が必要である。 研修会等の機会を通じて「わんぱくランキング」の周知を図るとともに「はつらつサポート(学校体育指導者派遣事業)」で学校訪問した際にHPや運動プログラムの紹介を教員だけでなく、児童に直接行うことにより参加グループ数の増加を図る。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	3,535	3,835	3,885				105.0%	3,700
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
3,535	3,835	3,885				105.0%	3,700														

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																
50	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>■施策・□感應指標</p> <p>学校における食育の推進 ■発達段階に応じた望ましい食習慣の形成のための、栄養教諭の配置拡充 □小・中学校への栄養教諭の配置人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57</td> <td>60</td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.3%</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】栄養教諭を複数配置した市町が拡大したことで、一層の食育の推進と指導の充実が図られた。</p> <p>【課題】年度ごとに志願者数に変動が見られ、栄養教諭免許とともに、栄養士や管理栄養士の資格を持った者が多く、他の職との獲得競争が激しい。そのため一定以上の資質を持った志願者の確保が難しい面がある。給食管理と食育指導を両立させねばならず、また、複数校で食育指導を実施する場合もあり、業務的な負担が大きい。</p> <p>優秀な人材を確保するために栄養教諭を養成する大学を訪問し、志願者確保のために栄養教諭の魅力について広く広報に努める。当面は栄養教諭特別選考（任用替え）も併用する。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>栄養教諭等が各校の食育リーダーと連携、協力し、学校給食を生きた教材として活用しながら、すべての小・中学校において食に関する指導を積極的に実施します。また、学校を核として、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等とも連携し、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。</p> <p>平成28年度実施の採用候補者選考審査から栄養教諭の新規採用を開始し、令和元年度は3名を新規採用する（志願者は23名）とともに、栄養教諭特別選考（任用替え）により2名を任用した。これにより、63名の栄養教諭を県内小中学校に配置し、8市5町（H30：8市2町）には複数配置を行った。</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57</td> <td>60</td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.3%</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】栄養教諭を複数配置した市町が拡大したことで、一層の食育の推進と指導の充実が図られた。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	57	60	63				103.3%	61	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	57	60	63				103.3%	61
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																												
57	60	63				103.3%	61																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																												
57	60	63				103.3%	61																												
51	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>■施策・□成果指標</p> <p>学校における食育の推進 ■発達段階に応じた望ましい食習慣の形成のための、栄養教諭の配置拡充 □栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>93.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>93.5%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】食に関する授業を実施するほか、給食の時間における指導や個別的な相談指導等でも専門性を生かした取組を進め、教員や子供たちの食に対する意識が高まった。</p> <p>【課題】単独調理場が少なく、学校給食施設のセンター化が進むことで、栄養教諭・学校栄養職員が未配置校に赴いて授業をする機会が増えている。担当校数が増えると、授業時間だけでなく、担任等との打合せのための時間も増えるため、栄養教諭・学校栄養職員の負担が大きくなっている。管理職をはじめとする教職員の共通理解が不可欠である。</p> <p>栄養教諭の配置拡大を図るとともに、栄養教諭が未配置校に赴いて指導しやすいう学校食育推進体制を整備するよう市町村に働きかける。令和元年度は、コロナウイルス感染症対策のため、栄養教諭・学校栄養職員がすべての担当校に出向けない場合もあることから、各市町村の実態に合わせて、内容の見直しや、インターネットでの配信、動画データの配布等の検討も提案する。学校ごとに、「食育推進パワーアップ作戦」実施状況調査を行う。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>栄養教諭等が各校の食育リーダーと連携、協力し、学校給食を生きた教材として活用しながら、すべての小・中学校において食に関する指導を積極的に実施します。また、学校を核として、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等とも連携し、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。</p> <p>県内全ての小中学校で小学校3学年・中学校2学年に対し、栄養教諭・学校栄養職員が担任と食育の授業を行う「食育推進パワーアップ作戦」をそれぞれの学校や地域の実態に応じて実施した。なお、3月の臨時休業により、予定していた授業が実施できなかつたため、100%を達成できなかった。</p> <p>（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>93.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>93.5%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】食に関する授業を実施するほか、給食の時間における指導や個別的な相談指導等でも専門性を生かした取組を進め、教員や子供たちの食に対する意識が高まった。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	100	93.5				93.5%	100	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	100	93.5				93.5%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																												
100	100	93.5				93.5%	100																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																												
100	100	93.5				93.5%	100																												

番号	推進項目	進捗の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針																							
52	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 学校における食育の推進 ■ 地元食材を使った学校給食を生きた教材とした、食に関する指導の充実 □ 学校給食に地場産物を活用する割合	<table border="1"> <caption>地場産物活用割合 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(R1)</td> <td></td> <td>121.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値(R1)</td> <td></td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	H30	H31・R1	R2	R3	R4	基準値(H29)	35					達成率(R1)		121.1%				目標値(R1)		35				事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 学校給食に県産の安全・安心な食材を活用することにより、感謝の心や郷土愛を育むとともに、野菜がおいしいと感じられるような献立作成に取り組めます。また、野菜採取の大切さについての理解を深め、野菜摂取をはじめとする望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。 栄養教諭・学校栄養職員研修会等で、地域の食材を用いた「学校給食用レシピ&調理技術マニュアル集」等の活用を働きかけるとともに、学校給食を生きた教材として食に関する指導に生かした事例を取上げ、地場産物活用に対する意識を高めた。 【令和元年度の成果】 各調理場で積極的に地場産物を活用することができ、国の目標値30%を大きく上回った。また、地場産物を献立に取り入れることで、給食の時間を中心に、地場産物を食に関する指導に生かすことができた。 【課題】 地場産物は時期により価格の変動が大きくなり、コスト面で積極的な活用が困難な場合がある。また、学校給食を生きた教材とするため、食に関する指導の全体計画を反映する必要がある。 関係部局や生産者団体と連携をとりながら、地域の実態や各調理場の食数に応じた安定的な地場産物供給体制の整備を進める。また、食品ロス削減にもつながるよう、規格外品の積極的な活用を進めていく。ただし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業により、保管している発注済みの食材の使用を最優先し、可能な範囲で地場産物活用を行いつながら、地場産物供給体制の維持を図る。また、栄養教諭・学校栄養職員を対象に、食に関する指導の全体計画に関する研修を実施する。
年度	H30	H31・R1	R2	R3	R4																								
基準値(H29)	35																												
達成率(R1)		121.1%																											
目標値(R1)		35																											
53	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	■ 施策・□ 成果指標 学校保健の充実 ■ 肥満対策、肥満予防及び生活習慣改善 □ 生活習慣改善等の健康課題に対する取組を、学校教員計画に位置付け、推進している学校の割合	<table border="1"> <caption>生活習慣改善等の健康課題に対する取組を、学校教員計画に位置付け、推進している学校の割合 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(R1)</td> <td></td> <td>100.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値(R1)</td> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	H30	H31・R1	R2	R3	R4	基準値(H29)	100					達成率(R1)		100.0%				目標値(R1)		100				事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 「元気なあわわっ子憲章」ともと、子供たちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携し、子供たちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組み、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。 県内全ての学校において、児童生徒自らが健康課題に取り組む「生活習慣改善プロジェクト」を実施するとともに、小学校では児童の健康増進を目指す「体力アップ100日作戦」、中学校・高等学校では、生徒自身が目標を決めて取り組む「健康力アップ30日作戦」を推進し、自分の生活習慣を見直す機会を促した。また、学校や地域に専門家を派遣し、実情に応じた取組を支援するとともに、生活習慣改善や健康管理等に関する協議会、対策会議、研修会、講演会を実施した。 【令和元年度の成果】 県内全ての学校が生活習慣改善のための取組を計画することができた。また、他校の取組を参考にし、各校の新たな取組に活用できるように優れた取組についてまとめた冊子を作成し、配付周知した。 【課題】 「学校保健統計調査」において徳島県の肥満傾向の出現率は依然として高く、各学校において「生活習慣改善プロジェクト」等の対策を実施しているが、肥満、生活習慣病には、運動不足、食生活や睡眠などの基本的な生活習慣が大きく影響している。学校だけで取り組むのではなく、地域や保護者、医療機関との情報共有・取組が必要である。 継続して「生活習慣改善プロジェクト」を実施しながら、徳島県医師会との連携のもと、専門的な医療につなげ、専門的な指導を受けることができるよう、肥満・尿糖の二次検診システムの利用を推進する。またその結果等については医師、教育委員会、学校による「小児習慣病対策協議会」で情報共有を行う。また、学校で実施する、児童生徒、教職員、保護者を対象とした研修に専門医等を派遣する。
年度	H30	H31・R1	R2	R3	R4																								
基準値(H29)	100																												
達成率(R1)		100.0%																											
目標値(R1)		100																											

番号	推進項目	施策の方向性	<p style="text-align: center;">「知徳体」が一体となった成長を支援</p> <p style="text-align: center;">確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p>	<p style="text-align: center;">■ 施策・□ 成果指標</p> <p>学校保健の充実 ■ 肥満対策、肥満予防及び生活習慣改善 □ 「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」において、肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率(小学校5年生・中学校2年生)</p>	<p style="text-align: center;">事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>学校、家庭及び学校医、医師会等の関係機関と連携し、「肥満健康管理システム」による二次検診の受診を勧めるとともに、個々に応じた指導を行い、肥満対策、肥満予防及び生活習慣の改善に取り組みます。</p> <p>徳島県医師会との連携による「肥満健康管理システム」を活用した肥満二次検診の受診については、プライベートに見地を元に対策を検討した。</p> <p>県内全ての学校において、児童生徒徒自らが健康課題に取り組み「生活習慣改善プロジェクト」を実施するとともに、小学校では児童の健康増進を目指す「体力アップ100日作戦」、中学校・高等学校では、生徒自身が目標を決めて取り組み「健康力アップ30日作戦」を推進し、自分の生活習慣を見直す機会を促した。さらに、家庭での健康づくりを支援する「元気なあわっ子道場」を県南部(1泊2日)と県西部(日帰り)の2箇所で開催した。</p>																							
事業目的	<p>取組状況(R1年度分)</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>全国平均出現率以下</td> </tr> <tr> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>全国平均出現率以下</td> </tr> </table> <p>(単位：%)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下	<p>【令和元年度の成果】令和元年度の「全国体力・運動能力・運動習慣調査」の結果、肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率は小学校5年生男子：13.7%、女子10.1%、中学校2年生男子：11.7%、女子8.7%であり、ともに全国の出現率を上回っていた。悉皆調査である徳島県保健統計による肥満児童生徒のうち、肥満度50%以上の高度肥満児童の出現率は平成30年度：1.01%、令和元年度：1.05%と増加した。</p> <p>【課題】全国的にみて、本県の子どもの肥満傾向児童の出現率は依然として高い状態であり、肥満、生活習慣病には、運動不足、食生活や睡眠などの基本的な生活習慣が大きく影響している。学校だけで取り組むのではなく、地域や保護者、医療機関との情報共有・取組が必要である。</p>	<p>今後の取組方針</p>	<p>継続して「生活習慣改善プロジェクト」を実施しながら、徳島県医師会との連携のもと、専門的な医療につなげ、専門的な指導を受けることができるよう、肥満・尿糖の二次検診システムの利用を推進する。またその結果等については医師、教育委員会、学校による「小児習慣病対策会議」で情報共有を行う。また、学校で実施する児童生徒、教職員、保護者を対象とした研修に専門医等を派遣する。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																						
全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下																						
全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下																						
評価	<p>担当課 体育学校安全課</p>																												

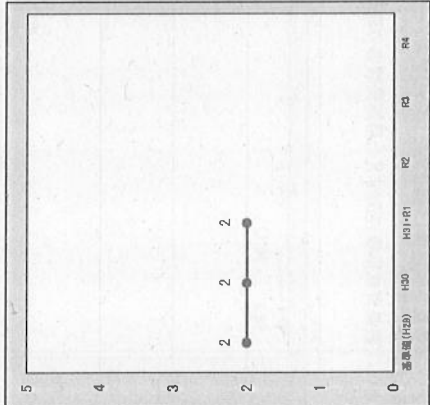
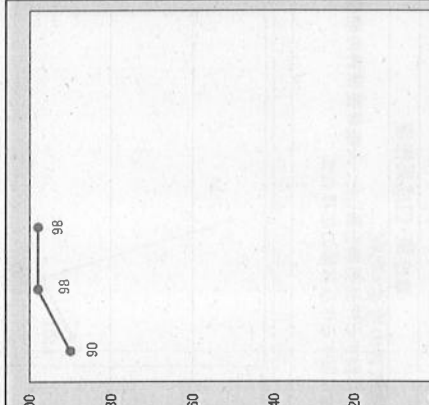
番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
55	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校保健の充実 ■ 警察、医師会、学校薬剤師等の関係機関と連携し、薬物乱用防止教室を開催する中、高等学校の割合</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室は、全ての中学校、高等学校で、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室を実施することで、児童生徒が自ら望ましい行動選択ができる意識の醸成が図られた。</p> <p>【課題】 青少年へのスマートフォン等の急速な普及等もあり、インターネットが身近なものとなりつつある。関係機関等と連携し、児童生徒を取り巻く状況を捉えた取組を推進する必要がある。</p> <p>「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」が年間計画に位置付けられ、学校の教育活動全体を通じて指導が行われよう充実を図る。また、学校薬剤師や警察関係等と連携を図りながら、専門家による講義を実施するなど薬物乱用防止取組の充実を図る。指導者の育成と指導力の向上を図る。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>県内すべての乳幼児が養育環境に関わらず、生涯にわたる人格形成の基礎を築く高い幼児教育・保育を提供するため「認定こども園」の設置促進、保育教諭、幼稚園教諭及び保育士に対する研修の充実など必要な環境整備に取り組みとともに、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながる発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図ります。</p> <p>県内2地域をモデル地域（阿南市・石井町）として幼小連携事業を進め、事業の成果を普及した。文科省「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、アドバイザーによる幼小への訪問指導の中で、幼小連携の具体的な意義について啓蒙を行った。</p> <p>【令和元年度の成果】 昨年度と比較して、幼稚園・小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。県「学びのかけ橋」推進事業及び文科省「幼児教育の推進体制構築事業」の成果が現れていると考えられる。</p> <p>【課題】 教職員の異動等があっても、継続的に幼小連携を行うための組織体制づくり及びスタートプログラムを含めた教育課程の編成を進めていく必要がある。</p> <p>研修会等において、引き続き、就学前教育と小学校との連携を図る意義やカリキュラム編制について協議を行うとともに、モデル地域の取組を周知する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>99.3</td> <td>100</td> <td>100.0%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	100	99.3	100	100.0%	100	100	100.0%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
100	99.3	100	100.0%	100	100	100.0%	100												
56	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	質の高い幼児教育の推進	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>質の高い幼児教育の推進 ■ 幼稚園等と小学校の連携のあり方の研究と成果普及 ■ 幼稚園等と小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合</p> <p>県内2地域をモデル地域（阿南市・石井町）として幼小連携事業を進め、事業の成果を普及した。文科省「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、アドバイザーによる幼小への訪問指導の中で、幼小連携の具体的な意義について啓蒙を行った。</p> <p>【令和元年度の成果】 昨年度と比較して、幼稚園・小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。県「学びのかけ橋」推進事業及び文科省「幼児教育の推進体制構築事業」の成果が現れていると考えられる。</p> <p>【課題】 教職員の異動等があっても、継続的に幼小連携を行うための組織体制づくり及びスタートプログラムを含めた教育課程の編成を進めていく必要がある。</p> <p>研修会等において、引き続き、就学前教育と小学校との連携を図る意義やカリキュラム編制について協議を行うとともに、モデル地域の取組を周知する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87</td> <td>96</td> <td>100</td> <td>106.4%</td> <td>94</td> <td>94</td> <td>106.4%</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	87	96	100	106.4%	94	94	106.4%	94
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
87	96	100	106.4%	94	94	106.4%	94												

番号	推進項目	施策・口成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
57	児童の発達性 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成 質の高い幼児教育の推進	■ 施策・口成果指標 質の高い幼児教育の推進 ■ 小・中学校の円滑なつながりと学力向上を図るための、小中一貫教育についての研究と成果普及 ■ 小・中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修を行う割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77</td> <td>78</td> <td>77</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>83.7%</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	77	78	77				83.7%	92	事業目的 小・中学校のより円滑なつながりと学力向上を図るため、小・中学校の教員間において情報交換等の会議を実施し、小中一貫教育について研究を進め、その成果を普及します。 取組状況 (R1年度分) あわ(OUR)教育発表会において、小中一貫教育の実践校である佐那河内小中学校、明神小・瀬戸中学校の取組を発表し、県下の学校に、その成果について普及した。 評価 【令和元年度の成果】1%ではあるが、昨年度と比較して、小中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が減少している。平成27年度では、その割合が70%であったので、このことから小中の一貫なつながりの重要性が浸透し、着実に成果が現れていると考えられる。 【課題】各中学校区においては、元々進級時での連絡会や、各部会での情報交換会があるので、それを元にして、より一層小中の一貫なつながりのある取組へと発展する体制づくりが必要である。 今後の取組方針 小中一貫教育(徳島モデル)推進事業との連携を図り、実践地域において小中の中より円滑なつながりについでの実証研究を推進するとともに、持続可能な小中の連携の仕方や、その成果について、あわ(OUR)教育発表会等を通して、他地域へも普及していく。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
77	78	77				83.7%	92												
58	児童の発達性 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成 質の高い幼児教育の推進	■ 施策・口成果指標 小中学校のより円滑なつながりと学力向上 ■ 小・中学校における教員の安定した人事交流 ■ 小・中学校間の教員間の人事交流 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18</td> <td>19</td> <td>23</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>127.8%</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	18	19	23				127.8%	18	事業目的 小・中学校の教員が相互交流などを通して児童生徒の理解を深める取組の継続を推奨するとともに、その成果の普及に取り組みます。中1ギャップの解消を目指したカリキュラムに対する理解の促進も図ります。 取組状況 (R1年度分) 令和元年度は小学校から中学校へ1名、中学校から小学校へ7名、計8名が新たに人事交流を行い、合計23名が異校種で勤務している。3年間の交流を終えた者は、原則として元の校種に戻るため、小中連携の強化に繋がった。 評価 【令和元年度の成果】小中交流を実施することで、義務教育の9年間を見通しながら、専門性を生かした教育活動が展開できた。また、教員の資質の向上と小中連携の強化に繋がった。 【課題】小中交流の希望者が少なく、教科的な偏りも見られる。義務勤務以外の小中交流者を増やす制度の構築が必要である。 今後の取組方針 人事交流の趣旨と制度の概要について周知を図り、交流希望者の確保を図る。新任近距離勤務終了者が3年間の小中交流を希望した場合、これをもって遠距離勤務とみなすことで、交流希望者の増加に繋げる。義務勤務者以外の勤務者について、期間の弾力的運用などを進めていく。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
18	19	23				127.8%	18												

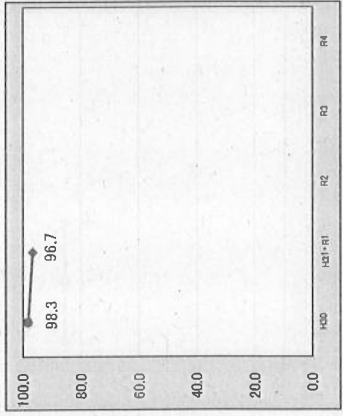
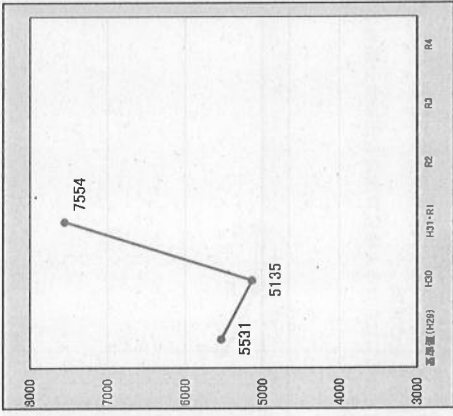
番号	推進 項目	施策の 方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
59	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教育相談体制の充実</p> <p>■ スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実</p> <p>□ スクールカウンセラーの配置校数(拠点校)</p> <p>(単位:校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78</td> <td>79</td> <td>81</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101.3%</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】従来の相談活動に加え、教員と連携した心理に関する授業や職員研修に心の専門家と連携して参画するなど、いじめ・不登校等の予防教育を実施することができた。また、学校等の実態に応じて相談時間を設定するなど、スクールカウンセラーの効率的な活用に取り組むことができた。</p> <p>【課題】現状の相談時間数では、相談件数が増加する中で、継続的な相談が必要な児童生徒への対応が難しくなっている。そのため、相談時間数の確保並びに、県立学校及び教育支援センターへの配置の拡充が必要である。また、スクールカウンセラーの配置拡充に伴う人材確保が困難である。</p> <p>県立学校の拠点校化、教育支援センターへの配置拡充を図るとともに、スクールソーシャルワーカー等との連携を通して、効果的な教育相談体制の構築に努める。また、職能団体や大学等と連携し、スクールカウンセラーの人材の確保や研修等による資質の向上に取り組む。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	78	79	81				101.3%	80
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
78	79	81				101.3%	80												
60	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教育相談体制の充実</p> <p>■ 児童生徒や保護者への支援、関係機関との連携等のためのスクールソーシャルワーカーの配置拡充</p> <p>□ スクールソーシャルワーカーの配置人数</p> <p>(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22</td> <td>23</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>113.0%</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】スクールソーシャルワーカーを配置した20市町教育委員会では、生徒指導上の諸課題に迅速に対応するとともに、継続した支援を行うことができた。また、学校等からの要請により、小学校1校、高等学校1校、特別支援学校3校に延べ6回派遣し、学校等に指導助言を行い、課題解決につなげることができた。</p> <p>【課題】相談件数が増加する中、市町村教育委員会への配置や公立学校等への派遣を拡充する必要がある。また、拡充に伴うスクールソーシャルワーカーの確保が困難である。生徒指導上の諸課題が複雑化・多様化する中、他の専門家や関係機関との連携による支援体制の整備が必要である。</p> <p>県内の全ての市町村教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置拡充するとともに、スクールカウンセラー等との連携による支援体制を強化するため、外部の専門家による連絡協議会を開催する。また、福祉関係機関の協力のもと、スクールソーシャルワーカーの人材確保を図るとともに、資質の向上のための研修会を実施する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	22	23	26				113.0%	23
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
22	23	26				113.0%	23												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																												
61	確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>事業目的</p> <p>ライフステージに応じた人権研修「あわ」じんけん講座」を充実させるとともに、人権教育指導用ハンドブックを活用した人権教育を進め、いじめや差別の解消に資する指導内容や指導方法の工夫・改善に取り組んでいます。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>「あわ」じんけん講座 1実践力向上講座 (8年目の教員) 幼 (7月30日)、小(7月29日)、中 (7月22日)、高・特 (7月22日) 2指導力充実講座 (10年経験者) 3希望研修 (8月9日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位: 校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】従来の基本研修や職務研修と「あわ」じんけん講座」を関連させることで、教職員の人権教育の成果が向上している。受講者のニーズに合わせた研修内容の充実を更に図るとともに、総合教育センター等との連携を密にし、研修機会を更に確保していく必要がある。</p> <p>評価</p> <p>全国的に教員の世代交代が進んでいるため、今後もライフステージに応じた人権教育の研修を継続して行い、教職員の研修力の向上に努めていく。教職員へのアンケート調査を行うことにより、困っていることや課題を把握し、ライフステージの課題に応じた研修内容・指導方法の改善・充実を図る。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>「自尊感情」や「まわりの人を大切にすることや態度」、「互いのちがいを多様性を認めることができる」の育成が、学校での人権教育に期待されていることから、人権教育研究指定校での研究発表や人権教育主宰研修会等を効果的に活用して情報共有し、実践的な研究の中で、いじめの未然防止や差別の解消に取り組めます。</p> <p>1 研究指定校の指定 ○県指定 (土成中央認定こども園、辻幼稚園、名西高等学校、みなと高等学校) ○文部科学省指定 (柿原小学校、堀江北小学校、土成中学校)</p> <p>2 研究発表会の開催 11月1日 (石井中学校)、10月23日 (土成中央認定こども園)、11月8日 (柿原小学校)、 11月20日 (名西高等学校)</p> <p>3 ホームページ等での情報発信</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位: 校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】研究指定校においては、実践研究を深め、指導内容や指導方法の改善・充実を図るとともに、教職員の人権意識の高揚やPTA研修の充実にもつながった。研究発表会の開催、人権教育課のホームページ上での情報発信等により、研究の成果を広く県内各園・校に普及し、人権教育の充実を図ることができた。</p> <p>評価</p> <p>【課題】研究指定校の人権教育を更に充実させていくために、研修内容の充実や、きめ細かな支援が必要である。支援の方法や研究成果の普及について、更に工夫改善を行っていく必要がある。</p> <p>研究指定校において、地域の実情や新たな人権課題に応じた研究を進めていくために授業研究や研修方法を工夫し、限られた時間で効果的な研修ができるよう支援を努める。また、幅広い年代の教員が研究発表会に参加できるように工夫したり、研修会や要請訪問等様々な機会を捉えてその研究成果を広めたりし、人権教育の充実を図っていく。</p>	(単位: 校)				基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)	推進	推進	推進	推進	(単位: 校)				基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)	8	8	8	100.0%				8
(単位: 校)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)																												
推進	推進	推進	推進																												
(単位: 校)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)																												
8	8	8	100.0%																												
			8																												
62	確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>事業目的</p> <p>人権教育の推進・充実 ■「あわ」人権学習ハンドブックを活用した教職員研修の充実 □「あわ」じんけん講座の充実</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位: 校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】研究指定校においては、実践研究を深め、指導内容や指導方法の改善・充実を図るとともに、教職員の人権意識の高揚やPTA研修の充実にもつながった。研究発表会の開催、人権教育課のホームページ上での情報発信等により、研究の成果を広く県内各園・校に普及し、人権教育の充実を図ることができた。</p> <p>評価</p> <p>【課題】研究指定校の人権教育を更に充実させていくために、研修内容の充実や、きめ細かな支援が必要である。支援の方法や研究成果の普及について、更に工夫改善を行っていく必要がある。</p> <p>研究指定校において、地域の実情や新たな人権課題に応じた研究を進めていくために授業研究や研修方法を工夫し、限られた時間で効果的な研修ができるよう支援を努める。また、幅広い年代の教員が研究発表会に参加できるように工夫したり、研修会や要請訪問等様々な機会を捉えてその研究成果を広めたりし、人権教育の充実を図っていく。</p>	(単位: 校)				基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)	8	8	8	100.0%				8												
(単位: 校)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	目標値(R1)																												
8	8	8	100.0%																												
			8																												

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度 分)	評価	今後の取組方針																
63	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	■施策・□成果指標 人権教育の推進・充実 ■様々な人権課題に対応した講師派遣による、教員の 人権意識の高揚と指導力向上 □講師派遣による研修等の受講者の満足度	事業目的 学校教育における人権教育を推進するため、様々な人権課題に対応した講師を派遣し、教員の人権意識の高揚と指導力向上を図ります。	37名の徳島県人権教育指導員を委嘱し、各学校及び市町村教育委員会が主催する研修会等において、個別人権課題や普遍的な視点についての指導助言を行った。様々な人権課題や今日的な課題に対応できるようにするために、指導員の選考を行い、推進方針に掲げる全ての個別人権課題に加えて普遍的な観点からも指導できる体制を整えた。	【令和元年度の成果】豊かな知識や経験を有する人権教育指導員を校内研修会等の講師として派遣し、人権に関する知識・理解を深め、指導力や実践力の向上を図ることができた。 【課題】研修等の受講者の満足度は97%と高く、十分な事業成果を上げているが、派遣先の学校等の偏りがあることから、当事業の更なる周知が必要である。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 今後とも、幅広い研修の要望に応えられる体制を整えるところと、研修会やホームページ等を活用して当事業の更なる周知に努めていく。また、人権教育指導員の連絡会において今日的な課題等についての研修会や情報交換を行い、指導員の指導力の向上を図っていく。																
			<table border="1"> <caption>(単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>95</td> <td>97</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>107.8%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	90	95	97				107.8%	90				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																
90	95	97				107.8%	90																
64	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	■施策・□成果指標 人権教育の推進・充実 ■様々な人権問題解決の実践力を身に付けたリーダークラスの育成 □中・高校生による人権交流集英会参加者の満足度	事業目的 中・高校生による人権交流学習を発展させ、校種間の切れぬ人権教育の実践力向上を図る体制づくりを図ります。また、その中で様々な人権問題を解決する実践力を身に付けた次世代のリーダークラスの育成を図ります。	「中・高校生による人権交流集英会」には450名の参加者があり、講演後の分科会では、「共生社会を実現するために～多様な『性』のあり方から考える～」[インターネットによる人権侵害]「災害時における人権問題」の3テーマで各ブロックの活動の発表や意見交換が行われた。交流集英会の午前中はシンガガーソングライター堀内佳氏による人権コンサートを開催し、分科会後には各ブロックの報告会も実施した。	【令和元年度の成果】人権交流集英会当日は、中学生・高校生・高校生・特別支援学校の生徒・教職員・保護者等が多く参加し、各ブロックや全体会で活発に交流ができた。 【課題】人権交流集英会における校種別の参加者内訳は、高校生282名、中学生111名であり、さらに交流を深めるために中学生の参加数を増やすことが課題となる。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 中・高校生による人権交流学習を発展させ、校種間の切れぬ人権教育の実践力向上を図る体制づくりを図ります。また、その中で様々な人権問題を解決する実践力を身に付けた次世代のリーダークラスの育成を図ります。	「中・高校生による人権交流集英会」には450名の参加者があり、講演後の分科会では、「共生社会を実現するために～多様な『性』のあり方から考える～」[インターネットによる人権侵害]「災害時における人権問題」の3テーマで各ブロックの活動の発表や意見交換が行われた。交流集英会の午前中はシンガガーソングライター堀内佳氏による人権コンサートを開催し、分科会後には各ブロックの報告会も実施した。															
			<table border="1"> <caption>(単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75</td> <td>92</td> <td>86</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>114.7%</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	75	92	86				114.7%	75				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																
75	92	86				114.7%	75																

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針																								
65	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 人権教育の推進・充実</p> <p>■ 地域ぐるみのいじめや差別のない社会の構築</p> <p>□ 人権教育総合推進地域の指定地域教育</p> 	<p>学校・家庭・地域が一体となり、人権教育の総合的な取組を通じて、地域ぐるみでいじめや差別のない社会を築くための人権教育を進めるとともに、その成果を県のホームページ等で公表することにより、学校における指導方法の工夫・改善につなげていきます。</p> <p>1 総合推進地域の指定 文部科学省指定として、勝浦町と阿南市の2地域を指定して研究を実施した。</p> <p>2 連絡協議会の開催 研究の進め方や成果の検証・改善等を協議した。(第1回 7月9日 第2回 3月2日書面開催)</p> <p>3 研究成果の普及 ホームページで総合推進地域の取組について情報を発信した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位：地域)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】総合推進地域においては、教育委員会が学校と連携しながら地域全体で充実した取組を展開することができた。連絡協議会では、学校教育と社会教育の取組を一緒に協議し、校種間の接続や連携・協働の視点を人権教育の総合的な推進について考えられた。</p> <p>【課題】講演会等への地域住民の参加を増やすための工夫や、社会教育と学校教育の連携した効果的な教育・啓発の在り方についての課題に対して、更なる総合推進地域への支援の工夫改善を行っていく必要がある。</p> <p>人権教育研究推進事業連絡協議会を実施し、学校・家庭・地域が一体となった人権教育が推進できるよる、総合推進地域における課題や相談に対し支援していく。また、それぞれの市町村や学校での取組を共有することによりその成果を活用し課題解決に取り組んでいく。社会教育人権研究会やホームページでの公開など様々な機会を捉えてその研究成果を広く、普及を図っていく。</p>	(単位：地域)				基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)	2	2	2	100.0%	<p>事業目的</p> <p>社会教育における人権教育指導者研修会において、地域の先頭に立って人権教育を推進していくことのできる指導者の養成と、その資質向上を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>98</td> <td>98</td> <td>108.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>社会教育における人権教育を推進するため、市町村から推薦のあった推進担当者57名を対象として2日間の継続研修を実施した。「徳島県人権教育推進方針」に基づいて人権教育や人権の視点でのまちづくりの講演、市町村における取組についての情報交換を行うとともに、体験的参加型による研修を行い、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。</p> <p>【令和元年度の成果】6月と1月に「社会教育における人権教育指導者研修会」を計2回開催し、外部有識者の意見をいただき、各市町村の諸事業推進に役立ちつことができた。また、体験的参加型による研修を実施し、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。社会教育における人権教育に携わる各市町村の推進者が、日頃の悩みや課題を共有する貴重な機会となっており、情報交換をすることで各市町村での取組・改善に向けた有効な場となっている。</p> <p>【課題】研修会参加者の経験年数にばらつきがあり、研修内容の工夫改善が必要である。また、地域の課題の改善につながった自治体の取組例を積極的に紹介していくことが求められている。各市町村の諸事業にどのようなように反映したかを把握するために、情報を更に共有できる研修会を実施していく。</p>	(単位：%)				基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)	90	98	98	108.9%	<p>今後の取組方針</p> <p>各市町村教育委員会に本研修についての周知を図り、参加者の出席について働きかけるとともに、事前に情報共有したい内容を調査するなどし受講者のニーズに合わせた研修の内容の充実及び効果的な人権教育・啓発について情報交換を行い、社会教育における人権教育推進者の資質の向上と計画的な推進者の確保につなげる。</p>
(単位：地域)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)																												
2	2	2	100.0%																												
(単位：%)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)																												
90	98	98	108.9%																												
36	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 施策・□成果指標</p> <p>■ 人権教育の推進・充実</p> <p>■ 地域の先頭に立って人権教育を推進していくことのできる指導者の育成</p> <p>□ 社会教育における人権教育指導者研修会受講者の満足度</p> 	<p>事業目的</p> <p>社会教育における人権教育指導者研修会において、地域の先頭に立って人権教育を推進していくことのできる指導者の養成と、その資質向上を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>98</td> <td>98</td> <td>108.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>社会教育における人権教育を推進するため、市町村から推薦のあった推進担当者57名を対象として2日間の継続研修を実施した。「徳島県人権教育推進方針」に基づいて人権教育や人権の視点でのまちづくりの講演、市町村における取組についての情報交換を行うとともに、体験的参加型による研修を行い、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。</p> <p>【令和元年度の成果】6月と1月に「社会教育における人権教育指導者研修会」を計2回開催し、外部有識者の意見をいただき、各市町村の諸事業推進に役立ちつことができた。また、体験的参加型による研修を実施し、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。社会教育における人権教育に携わる各市町村の推進者が、日頃の悩みや課題を共有する貴重な機会となっており、情報交換をすることで各市町村での取組・改善に向けた有効な場となっている。</p> <p>【課題】研修会参加者の経験年数にばらつきがあり、研修内容の工夫改善が必要である。また、地域の課題の改善につながった自治体の取組例を積極的に紹介していくことが求められている。各市町村の諸事業にどのようなように反映したかを把握するために、情報を更に共有できる研修会を実施していく。</p>	(単位：%)				基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)	90	98	98	108.9%	<p>今後の取組方針</p> <p>各市町村教育委員会に本研修についての周知を図り、参加者の出席について働きかけるとともに、事前に情報共有したい内容を調査するなどし受講者のニーズに合わせた研修の内容の充実及び効果的な人権教育・啓発について情報交換を行い、社会教育における人権教育推進者の資質の向上と計画的な推進者の確保につなげる。</p>														
(単位：%)																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	達成率(R1)																												
90	98	98	108.9%																												

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度)	評価	今後の取組方針
67	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	事業目的 命に関する作品の募集やその活用・展示を通して、幼児児童生徒をはじめ県民の人権意識の高揚を図ります。	取組状況 (R1年度) 1 作品募集 県内の幼稚園児から大人の方まで7,554点の作品応募があった。 2 優秀作品の表彰式 令和元年12月24日の表彰式において、優秀作品 (33作品) を表彰するとともに作品の展示を行った。 3 優秀作品の活用 優秀作品を啓発用パネルにし、人権教育資料への掲載等で活用できるようにした。	評価 【課題】本事業は、毎年、児童生徒に広く普及しつづつある。今後は、一般の部の充実に向けて、学校を通じて保護者への参加呼びかけや各市町村教育委員会、県立施設等へリーフレットを配付し、広報に努めていく。また、「人とのつながり」や言葉の力のすばらしさをテーマにした作品であるため、学校や地域社会での人権フェスティバルや文化祭等において人権意識の高揚を図るために、効果的な活用を推進していく。	今後の取組方針 作品募集について更に広報に努める。また、様々な機会を捉えて作品パネルの展示や貸出しを行うとともに、優秀作品を人権教育資料へ掲載したり、心のサポート動画での紹介したりし、効果的な作品の活用を図る。
			事業目的 本県教員のキャリアアステージに応じて求められる資質・能力を明示した「とくしくま教員育成指標」を踏まえた研修計画を定め、総合教育センターを中心に多種多様な研修を実施し、学び続ける教員を支援する環境を整備します。	取組状況 (R1年度) 総合教育センターで実施しているすべての研修講座において、終了時に受講者全員に対してアンケートを実施し、その質問事項の満足度の集計を実績値とした。実施したアンケート結果から、各研修講座の担当者が分析を行い、見出した課題についての改善を図った。	評価 【課題】各研修講座において、様々な教育的課題や目的等に応じた研修内容を実施する必要がある。キャリアアステージが上がることにアンケートの満足度が下がる傾向にあるので、実施した研修についての検証を行い、受講者のニーズも鑑み、よりよい研修の実施に向けて改善を図っていく必要がある。	今後の取組方針 全ての教職員が主体的に学び、自己を高め、学校教育目標を達成できるよう、キャリアアステージに応じた体系的な研修の充実を図る。人材の育成を課題ととらえ、地域や校内のリーダーを養成する主幹教諭・指導教諭研修、リーダーシップ養成研修やミドルリーダー研修Ⅰの充実に取り組む。
68	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	事業目的 命に関する作品の募集やその活用・展示を通して、幼児児童生徒をはじめ県民の人権意識の高揚を図ります。	取組状況 (R1年度) 1 作品募集 県内の幼稚園児から大人の方まで7,554点の作品応募があった。 2 優秀作品の表彰式 令和元年12月24日の表彰式において、優秀作品 (33作品) を表彰するとともに作品の展示を行った。 3 優秀作品の活用 優秀作品を啓発用パネルにし、人権教育資料への掲載等で活用できるようにした。	評価 【課題】本事業は、毎年、児童生徒に広く普及しつづつある。今後は、一般の部の充実に向けて、学校を通じて保護者への参加呼びかけや各市町村教育委員会、県立施設等へリーフレットを配付し、広報に努めていく。また、「人とのつながり」や言葉の力のすばらしさをテーマにした作品であるため、学校や地域社会での人権フェスティバルや文化祭等において人権意識の高揚を図るために、効果的な活用を推進していく。	今後の取組方針 作品募集について更に広報に努める。また、様々な機会を捉えて作品パネルの展示や貸出しを行うとともに、優秀作品を人権教育資料へ掲載したり、心のサポート動画での紹介したりし、効果的な作品の活用を図る。



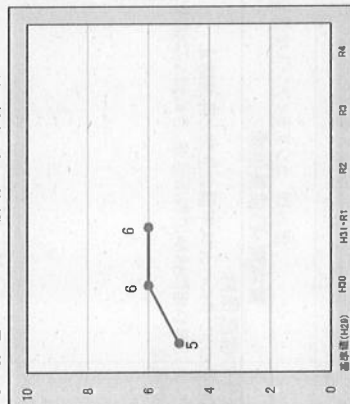
番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針														
69	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 教職員の資質能力向上</p> <p>■ 優秀な教員を確保するための、県内外の大学における教員採用に係る説明会の開催</p> <p>□ 県内外大学における教員採用に係る説明会の開催数</p> <table border="1"> <caption>説明会開催数 (単位:回)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数値</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>24</td> <td></td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	数値	19	20	24	24		21	<p>県内外の大学で教員採用説明会を開催する等の積極的な広報を展開し、優秀な人材の確保に努めます。</p> <p>中四国、近畿の大学を中心に、計24回の教員採用に係る説明会を実施した。</p> <p>【令和元年度の成果】平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきました。その結果、志願者数は、平成29年度実施の採用審査では5年ぶりに増加するなど、着実に成果が表れつつある。</p> <p>【課題】説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。</p> <p>引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるように大学への働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やす。実施時期にも検討を加え、より効果的なものとなるよう改善を図る。</p>
年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4												
数値	19	20	24	24		21												
70	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 校内のリーダーを養成するためのリーダーシップ養成研修の実施</p> <p>□ リーダーシップ養成研修受講者数(累計)</p> <table border="1"> <caption>リーダーシップ養成研修受講者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数値</td> <td>143</td> <td>259</td> <td>259</td> <td>259</td> <td></td> <td>220</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	数値	143	259	259	259		220	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教職員をまとめるリーダードでできる管理職の育成を目指すとともに、校内のリーダーを養成するためにリーダーシップ養成研修を実施します。</p> <p>地域や学校でリーダーとしての役割を担うことが期待される教員を、市町村立小・中学校は各市町村教育長の推薦、県立学校は校長の推薦により選出した。全国的な教育の動向、法令リスク管理、リーダー教育に必要とされるコミュニケーション能力育成等幅広い分野から知見を得ることにより、県内の教育活動の質の向上を図った。</p> <p>【令和元年度の成果】地域や学校を広い視野で捉えた組織的な教育活動を展開し、人材育成に積極的に取り組む教員の育成のための研修となり、受講者の22.4%が、教頭、主幹教諭、指導教諭等に昇任した。</p> <p>【課題】受講者は、校内において多忙な教員が多いことから、受講機会の確保について配慮する必要がある。また、実施に当たり、内容や講師の選定について教職員課と連携を密にする。</p> <p>研修後の状況やアンケート結果を踏まえ、地域や学校の中心となつて活躍する人材の育成のため、演習や協議を設け、学校リーダーとしての意識や力量を体験的に学ぶことができよう、研修の改善を進める。</p>
年度	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4												
数値	143	259	259	259		220												

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
71	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教職員の資質能力向上 ■ 教職員のICT活用指導力の向上 □ ICTを活用した授業実践の研修受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>400</td> <td>444</td> <td>497</td> <td>410</td> <td>410</td> <td>410</td> <td>121.2%</td> <td>410</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】プログラミング教育やタブレット活用等に関する研修講座の内容を充実させることにより、授業におけるICT活用について理解とスキルを深めることができた。</p> <p>【課題】GIGAスクール構想に伴う、一人一台タブレット端末整備に向け、授業におけるICT活用指導力が今よりもさらに求められることが予想される。</p> <p>児童生徒の情報活用能力（プログラミング教育、情報モラル教育を含む）の育成に関する研修内容を充実させるとともに、授業のどの場面でもどのようにICT機器を利用し、それによってどのような効果を上げるか等、具体的な研修内容の改善に取り組む。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	400	444	497	410	410	410	121.2%	410
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
400	444	497	410	410	410	121.2%	410												
72	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教職員の資質能力向上 ■ 小学校英語教科化に伴う専門性向上のための研修の充実 □ 英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td>946</td> <td>830</td> <td>830</td> <td>830</td> <td>114.0%</td> <td>830</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】学習指導要領全面実施に向けた移行期間の最終年度ということで、多くの学校から「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」の要請があった。指導主事の模擬授業や演習を通して、授業改善について具体的なイメージをつかみ、体験的に理解を深めることができ、英語指導力向上につながった。</p> <p>【課題】学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された外国語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負担軽減も考えながら実施することが必要である。</p> <p>県内全ての教員が学習指導要領のねらいを踏まえた授業を実施できるように、教科書を活用した授業改善についての研修を実施する。また、地理的時間的にセンター開催の研修に参加しづらい教員のために、引き続き「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」で英語教育のさらなる充実のためにサポートを行う。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	436	679	946	830	830	830	114.0%	830
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
436	679	946	830	830	830	114.0%	830												

番号	推進項目	実施の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																																																
73	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教職員の資質能力向上</p> <p>■ 各所属におけるコンプライアンス研修の実施回数</p> <p>□ コンプライアンス研修(要講)の実施回数</p> <table border="1"> <caption>コンプライアンス研修(要講)の実施回数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	実施回数	39	45	56	56	56	56	56	<p>事業目的</p> <p>不祥事根絶対策タスクフォースからの提言を踏まえ、全教職員のコンプライアンス研修を継続するとともに、研修内容を改善することにより、教職員のコンプライアンス意識の向上を図ります。また、教職員の高い規範意識を維持するためのeラーニングによるコンプライアンス研修を継続するとともに、絶えず研修内容を改善することにより、教職員の知識と意識の更新を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 推進員会議、各校長会等の各種会議において、事業内容と講師派遣の広報に努めた。 2 「徳島県教職員ハラスメント防止に関する要綱と指針」の作成に伴い、「コンプライアンスハンドブック」を改訂した。 3 県立学校(21)、市町村教育委員会主催の研修会(5)、小中学校(25)市立高等学校(1)、事務局・教育機関(4)へ講師を派遣し、研修を実施した。 <p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】広報活動の成果として、目標値を大幅に上回ることができた。多くの学校等で実施することにより、直接、教職員の声も聞くことができた。アンケートの結果から、肯定的な評価として「研修内容」についてが99.6%、「今後の業務に役立ったか」についてが99.4%であった。</p> <p>【課題】要請において未実施の学校も多い。そのため、継続的な研修実施に加えて、研修実施校の拡充や市町村教育委員会が主催する研修会実施の拡充が必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>研修実施校を増やすために、研修内容の質を高めると共に、要請研修の広がりにも努める。また、昨年度、作成した研修ソールの啓発も含め、市町村教育委員会に働きかけ、県教育委員会と連携した研修を実施する。さらに、平成26年度に開設した「コンプライアンス研修のページ」をより充実させるとともに、学校等の実態に応じた研修内容を工夫し、その充実を図る。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教職員が安心して教育活動に専念し、その能力を十分に発揮できるよう、メンタルヘルスについての知識やストレスへの対処行動を身に付ける実践的な研修の充実を努めます。また、ストレス状態の気づきを促すストレスチェックの円滑な実施や、各種相談制度の周知方法の改善に努め、利用促進を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次予防 「メンタルヘルスマネジメント研修」は、新任教頭等を対象に2回実施し、151人が受講。 「メンタルヘルス出席前講座」は、23校で実施、492人が受講。 「ストレスチェック」は、2、737名が受講し、受検率は93.7%。 2 二次予防 「教職員相談事業」は、専門相談員12名で、78件の相談に対応。 3 三次予防 「教職員職場復帰支援事業」 臨床心理士を所属校に派遣し、面接による助言指導を実施。3名の復帰者が利用。 <table border="1"> <caption>メンタルヘルスマネジメント研修の取組状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎値</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】一次予防から三次予防までの体系化したメンタルヘルス対策を実施。一次予防として実施しているストレスチェックは、受検率が年々伸びており、個々のメンタル不調の気づきを促すことができた。教職員職場復帰支援事業利用者3名については、円滑な職場復帰を果たした。</p> <p>【課題】ストレスチェックを負担に感じる教職員がいることから、周知や受検勧奨方法に配慮しながら受検促進を図り、その活用を職場で進めていく必要がある。また、メンタル不調者の再発防止のためには、休職から復帰した職員やその管理職に対するきめ細やかな対応を継続して行うことが重要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>ストレスチェックの結果(集団分析も含む)を参考に関係機関と連携をはかり、職場の環境改善につなげる等、メンタルヘルス対策を推進する。同時に、「教職員職場復帰支援事業」等の周知を徹底し、利用を促していく。</p>	年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	基礎値	39	45	56	56	56	56	56	達成率			140.0%					目標値			40																				
年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4																																																														
実施回数	39	45	56	56	56	56	56																																																														
年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4																																																														
基礎値	39	45	56	56	56	56	56																																																														
達成率			140.0%																																																																		
目標値			40																																																																		
74	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>教職員の健康保持</p> <p>■ 教職員のメンタルヘルス不調の予防と再発防止</p> <p>□ 研修の充実や相談体制の利用促進、きめ細かな復帰支援の実施</p>	<p>事業目的</p> <p>教職員が安心して教育活動に専念し、その能力を十分に発揮できるよう、メンタルヘルスについての知識やストレスへの対処行動を身に付ける実践的な研修の充実を努めます。また、ストレス状態の気づきを促すストレスチェックの円滑な実施や、各種相談制度の周知方法の改善に努め、利用促進を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次予防 「メンタルヘルスマネジメント研修」は、新任教頭等を対象に2回実施し、151人が受講。 「メンタルヘルス出席前講座」は、23校で実施、492人が受講。 「ストレスチェック」は、2、737名が受講し、受検率は93.7%。 2 二次予防 「教職員相談事業」は、専門相談員12名で、78件の相談に対応。 3 三次予防 「教職員職場復帰支援事業」 臨床心理士を所属校に派遣し、面接による助言指導を実施。3名の復帰者が利用。 <table border="1"> <caption>メンタルヘルスマネジメント研修の取組状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎値</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】一次予防から三次予防までの体系化したメンタルヘルス対策を実施。一次予防として実施しているストレスチェックは、受検率が年々伸びており、個々のメンタル不調の気づきを促すことができた。教職員職場復帰支援事業利用者3名については、円滑な職場復帰を果たした。</p> <p>【課題】ストレスチェックを負担に感じる教職員がいることから、周知や受検勧奨方法に配慮しながら受検促進を図り、その活用を職場で進めていく必要がある。また、メンタル不調者の再発防止のためには、休職から復帰した職員やその管理職に対するきめ細やかな対応を継続して行うことが重要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>ストレスチェックの結果(集団分析も含む)を参考に関係機関と連携をはかり、職場の環境改善につなげる等、メンタルヘルス対策を推進する。同時に、「教職員職場復帰支援事業」等の周知を徹底し、利用を促していく。</p>	年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	基礎値	39	45	56	56	56	56	56	達成率			140.0%					目標値			40					<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教職員が安心して教育活動に専念し、その能力を十分に発揮できるよう、メンタルヘルスについての知識やストレスへの対処行動を身に付ける実践的な研修の充実を努めます。また、ストレス状態の気づきを促すストレスチェックの円滑な実施や、各種相談制度の周知方法の改善に努め、利用促進を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次予防 「メンタルヘルスマネジメント研修」は、新任教頭等を対象に2回実施し、151人が受講。 「メンタルヘルス出席前講座」は、23校で実施、492人が受講。 「ストレスチェック」は、2、737名が受講し、受検率は93.7%。 2 二次予防 「教職員相談事業」は、専門相談員12名で、78件の相談に対応。 3 三次予防 「教職員職場復帰支援事業」 臨床心理士を所属校に派遣し、面接による助言指導を実施。3名の復帰者が利用。 <table border="1"> <caption>メンタルヘルスマネジメント研修の取組状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎値</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】一次予防から三次予防までの体系化したメンタルヘルス対策を実施。一次予防として実施しているストレスチェックは、受検率が年々伸びており、個々のメンタル不調の気づきを促すことができた。教職員職場復帰支援事業利用者3名については、円滑な職場復帰を果たした。</p> <p>【課題】ストレスチェックを負担に感じる教職員がいることから、周知や受検勧奨方法に配慮しながら受検促進を図り、その活用を職場で進めていく必要がある。また、メンタル不調者の再発防止のためには、休職から復帰した職員やその管理職に対するきめ細やかな対応を継続して行うことが重要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>ストレスチェックの結果(集団分析も含む)を参考に関係機関と連携をはかり、職場の環境改善につなげる等、メンタルヘルス対策を推進する。同時に、「教職員職場復帰支援事業」等の周知を徹底し、利用を促していく。</p>	年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	基礎値	39	45	56	56	56	56	56	達成率			140.0%					目標値			40				
年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4																																																														
基礎値	39	45	56	56	56	56	56																																																														
達成率			140.0%																																																																		
目標値			40																																																																		
年度	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4																																																														
基礎値	39	45	56	56	56	56	56																																																														
達成率			140.0%																																																																		
目標値			40																																																																		

担当課 福利厚生課

番号	75	推進項目 豊かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	実施の方向性 未来を拓く教職員の育成	<p>事業目的</p> <p>教職員健康管理を支援するため、生活習慣病の予防・悪化防止のための出前講座の積極的な実施や、公立学校共済組合等との協働により、様々な機会をとらえ、特定保健指導の受診勧奨に努めます。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教職員の健康管理を支援するため、生活習慣病の予防・悪化防止のための出前講座の積極的な実施や、公立学校共済組合等との協働により、様々な機会をとらえ、特定保健指導の受診勧奨に努めます。</p> <p>○ 健康づくり及び生活習慣病予防を目的とした出前講座を、4校で実施し、97名が受講した。</p> <p>○ ライフプランセミナー（講座の一部として実施）では、2回、合計 354名が受講した。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教職員の健康管理を支援するため、生活習慣病の予防・悪化防止のための出前講座の積極的な実施や、公立学校共済組合等との協働により、様々な機会をとらえ、特定保健指導の受診勧奨に努めます。</p> <p>○ 健康づくり及び生活習慣病予防を目的とした出前講座を、4校で実施し、97名が受講した。</p> <p>○ ライフプランセミナー（講座の一部として実施）では、2回、合計 354名が受講した。</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>生活習慣病予防や悪化防止は、短期間で結果が出るものではないため、今後も共済組合等関係機関と連携し、個人の健診結果に即した情報提供や特定保健指導等の個別指導や出前講座など、継続的な事業実施が必要である。</p>
番号	76	推進項目 豊かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	実施の方向性 未来を拓く教職員の育成	<p>事業目的</p> <p>教職員のワーク・ライフ・バランスを実現するため、超過勤務時間の縮減や休暇の取得促進など、「とくしまの学校における働き方改革プラン」の推進により、教職員が心身ともに健康を維持し、子どもたちへの指導に専念できる持続可能な学校づくりを推進します。</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>教職員のワーク・ライフ・バランスを実現するため、超過勤務時間の縮減や休暇の取得促進など、「とくしまの学校における働き方改革プラン」の推進により、教職員が心身ともに健康を維持し、子どもたちへの指導に専念できる持続可能な学校づくりを推進します。</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>教職員のワーク・ライフ・バランスを実現するため、超過勤務時間の縮減や休暇の取得促進など、「とくしまの学校における働き方改革プラン」の推進により、教職員が心身ともに健康を維持し、子どもたちへの指導に専念できる持続可能な学校づくりを推進します。</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>教職員のワーク・ライフ・バランスを実現するため、超過勤務時間の縮減や休暇の取得促進など、「とくしまの学校における働き方改革プラン」の推進により、教職員が心身ともに健康を維持し、子どもたちへの指導に専念できる持続可能な学校づくりを推進します。</p>



達成率						
基準値(H29)	H30	H31	R1	R2	R3	R4
5	6	6	6	6	6	7
達成率(R1) 85.7%						

【令和元年度の成果】定期健康診断等の受診率は高率であり、各教職員が自分自身の健康状態を把握することにつながっている。また、出前講座やライフプランセミナーの実施により、生活習慣改善を促すきっかけづくりとなった。第7回目の出前講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校臨時休業により【課題】各教職員自身が生活習慣病予防・悪化防止のために生活習慣改善を行うためには、個別支援が不可欠であり、共済組合との協働により個別の健康情報提供を行うとともに、積極的な受診勧奨により特定保健指導の実施率を向上させ、有所見率の低下につなげることが重要である。

達成率						
基準値(H30)	H30	H31	R1	R2	R3	R4
推進	—	—	推進	推進	推進	推進
達成率(R2) 推進						

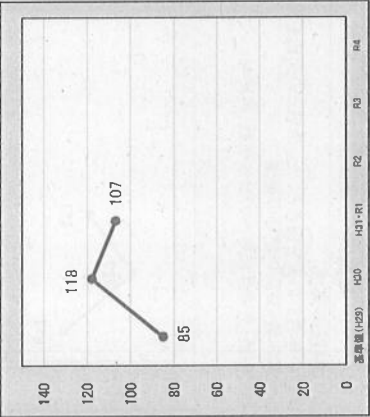
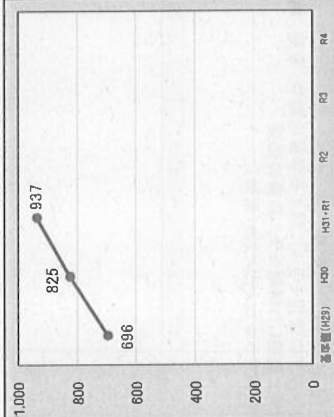
番号	推進項目	推進の方向性	事業目的	取組状況(R1年度分)	評価	今後の取組方針																
77	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	地域総ぐるみの子育ての実現 地域総ぐるみの子育ての実現	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後の子供の安全・安心な居場所を確保し、経験豊富な高齢者をははじめてとする地域の人の参画を得て、多様な学びや体験活動を推進するため、放課後子供教室を実施します。 子供たちが、学年を越えて学習活動やスポーツ・文化活動に取り組むとともに、令和元年度には介護施設訪問による活動成果発表の実施など、各教室の工夫により新たな展開も図られた。 指導者・保護者に対しては、「地域・学校・家庭の連携・協働」に向けた講演会実施のほか、研修会やワークショップに参加いただき、子供がボジティブになれる言葉かけや望ましい行動を増やす手立て等について理解促進を図った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80</td> <td>91</td> <td>93</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.3%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	80	91	93				103.3%	90	【令和元年度の成果】地域での放課後等における多様な学びの場づくりが推進され、活動を通して参加児童の自己有用感や協調性が育ち、放課後子供教室が子供の豊かな学びの場となっている。 【課題】地域人材の発掘やネットワーク化が必要である。また、「新しい生活様式」の下、子供たちが安全安心に活動できる教室づくりを推進する必要がある。	各事業間の連携を図るとともに、地域の人材や団体が交流し、新たな連携が期待できるような仕組みづくりを目指す。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
80	91	93				103.3%	90															
78	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	地域総ぐるみの子育ての実現 地域総ぐるみの子育ての実現	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 登下校の早守りや読み聞かせ等の教育支援活動などを行う団体を「学校サポーターズクラブ」として認証し、学校支援の体制づくりを推進します。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89</td> <td>93</td> <td>98</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>98</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：団体)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	89	93	98				100.0%	98	【令和元年度の成果】累計で全24市町村で98のクラブを認証し、地域による学校支援活動の継続につながった。 【課題】制度を周知し、学校を支援する団体同士のネットワークづくりを役立ててもらうことが重要である。	「小学校区又は中学校区」で学校支援に取り組む婦人会、青年団、自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の地域団体の連合組織を「学校サポーターズクラブ」として、令和元年度は新たに5クラブを認証し、認定証とフラッグを授与した。このことにより、累計で24市町村98クラブとなった。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
89	93	98				100.0%	98															

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針															
79	<p>学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進</p> <p>■施策・□成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携 ■地域での読み聞かせを体験できる機会の充実 □講習会等への高校生の参加者数</p>	<p>地域総ぐるみの子育ての実現</p>	<p>事業目的</p> <p>学校・図書館・読書団体が連携・協働し、児童・生徒の主体的な読書活動を推進すると共に、子供から大人まで全ての人が読書に親しむ機会を提供し、読書振興のさらなる機運の醸成を図ります。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85</td> <td>94</td> <td>99</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>105.3%</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	85	94	99				105.3%	94	<p>【令和元年度の成果】実践会の開催場所を前年度から3会場増やすことで、参加者の目標値を達成することができた。また、子ども食堂や大型商業施設での実践により、子供と保護者に加え、これまで読書への関心が高くなかった層への啓発にもつながった。</p> <p>【課題】高校生が読み聞かせを行うことにより、お互いの読書への興味関心を高め、世代を超えた読書活動の繋がりの構築に成果はあったが、読書活動の習慣化・読書活動を通しての言語能力の充実に繋げるためには、講習内容の充実と、読書への関心が高くない層へのさらなる参加を呼びかけることが必要である。</p> <p>高校生のための読み聞かせ講習会の充実を図る。また、実践会場についても、昨年度から実施している子ども食堂や大型商業施設のほか、新たな場所でも開催し、さらなる読書の意義の啓発に取り組み。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
85	94	99				105.3%	94														
80	<p>学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進</p> <p>■施策・□成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携 ■学校安全ボランティア活動の支援による、児童生徒の安全確保 □学校安全ボランティア(スクールガード)数</p>	<p>地域総ぐるみの子育ての実現</p>	<p>事業目的</p> <p>子どもたちが安全・安心して教育が受けられるよう、学校や通学路の子どもの安全確保を図るため、家庭や地域の関係機関・団体と連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,000</td> <td>13,904</td> <td>13,857</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>115.5%</td> <td>12,000人以上</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	12,000	13,904	13,857				115.5%	12,000人以上	<p>【令和元年度の成果】児童数減少が続く状況にあっても、登録数を確保し、全ての小学校区において登下校時の見守り活動を実施することで、本県での重大事案、事故は発生していない。</p> <p>【課題】依然として全国では、登下校時における事故や不審者による事件等が発生し、児童生徒等の安全の確保が最重要課題である。小学校の統合及び休校により、校区(通学路)が広くなり、学校安全ボランティアの現状数の維持と情報共有を図る必要がある。</p> <p>スクールガードリーダー連絡協議会を実施し、登下校時の事故防止等について情報交換を行い、学校安全ボランティア(スクールガード)の共通理解を図りながら、学校・家庭・地域・関係機関等が連携・協働して見守り活動を行い、児童生徒等の安全確保を図る。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
12,000	13,904	13,857				115.5%	12,000人以上														

番号	81	推進項目	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	推進の方向性	地域越ぐるみの子育ての実現	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携 ■ 学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の導入による、地域とともにある学校づくり □ 学校運営協議会制度を導入した学校数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16</td> <td>18</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>122.2%</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	16	18	22				122.2%	18	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、県内外における効果的な取組事例を市町村教育委員会や学校等に広く周知し、県内における学校運営協議会制度の円滑な導入や効果的な取組の充実を図ります。</p> <p>海陽町立海陽幼稚園・海南小学校・海部小学校・海陽中学校にコミュニティ・スクールが導入され、県下の22校において、地域とともにある学校づくりの推進が展開されている。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																
16	18	22				122.2%	18																
事業目的	取組状況(R1年度分)	評価	今後の取組方針	<p>【令和元年度の成果】 学校教育課、生涯学習課等の関係各課からなるコミュニティ・スクール推進プロジェクト会議を組織した。また、さらなる普及・推進に向け、校長会や教育委員会訪問において、その意義や具体的な導入の手順について丁寧に説明を行った。</p> <p>【課題】 学校運営協議会を継続的に推進するための支援メンバーの不足、協議の形骸化、地域連携コーディネーターとなるべき人材の育成、導入に向けての管理職や担当教職員の業務の負担増が課題である。</p> <p>左市町村教育委員会に対し、意義や具体的な導入の手順等について、引き続き丁寧に説明を行う。また、小中一貫教育推進地域においても、コミュニティ・スクール導入に向けた協議・研究を事業計画の1つとして位置づけ、地域とともにある学校づくりの推進に向けた取組を充実させていく。</p>																			
番号	82	推進項目	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	推進の方向性	すべての子どもに均等な教育機会の提供	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>定時制・通信制課程での修学促進 ■ 生徒の教科書等購入に係る費用の補助 □ 定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>定時制・通信制課程に在籍する有職生徒等に対して、教科書等の購入に係る費用を補助することにより、経済的負担を軽減し、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会提供として、定時制過程及び通信制課程での修学を促進します。</p> <p>本年度は、定時制通信制を合わせて、189名の生徒が定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を活用した。</p>																
事業目的	取組状況(R1年度分)	評価	今後の取組方針	<p>【令和元年度の成果】 活用する生徒が増加しつつあり、定時制過程及び通信制課程での修学に役立っている。</p> <p>【課題】 定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を必要とする生徒の増加が見込まれる中で、支援体制を継続する必要がある。</p> <p>定時制・通信制の教頭会・副校長会等の機会を捉え、就学困難な生徒の実態状況を情報収集し把握するとともに、この事業の必要性を検証しつつ、支援体制の点検を実施する。</p>																			

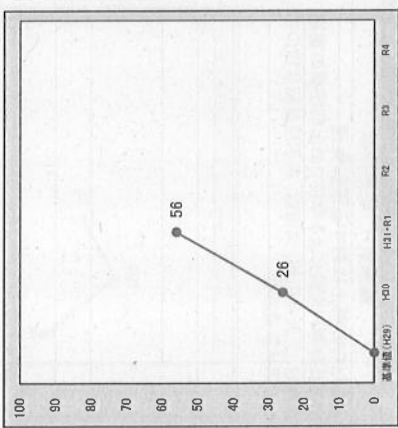
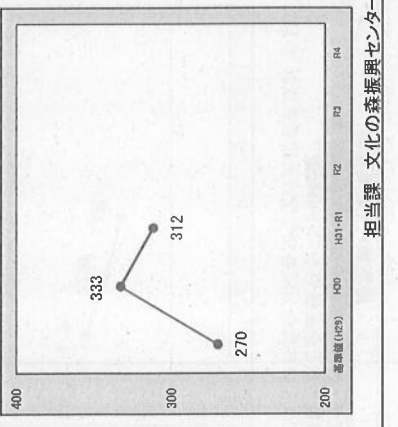
番号	推進項目	実施の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																													
83	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	すべての子どもに均等な教育機会の提供	■多様な教育サービスの実現 ■私立学校の健全運営と魅力ある学校づくりの支援 □私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保(再掲)	<p>私立学校では、コミュニケーションを重視した幼児期からの英語教育や難関大学への進学に重点を置いたトップレベルの学力養成のためのキャリア教育、優れた指導者の採用と有望な県外生徒の獲得によるポテンシャルの向上等、多様なニーズに対応するための特色ある教育に引き継ぎとともに、多様な教育サービスの実現を促進するため、私立学校の魅力ある学校づくりを支援するとともに、本県私立学校の認知度を高めるための教育内容の紹介など、各学校のホームページ等による情報発信の取組についても、私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会均等を確保するため、高等学校等就学支援金の給付金の支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">達成率(R1)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支援</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】高等学校等就学支援金を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「種く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。</p> <p>【課題】今後も事務の円滑な遂行により、公私間格差是正等を図る取組が必要である。</p>	達成率(R1)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	支援	支援	支援	支援				支援								
達成率(R1)																																	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																										
支援	支援	支援	支援				支援																										
84	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	豊かな心の育成	■道徳教育の推進 ■家庭や地域と連携した道徳教育の推進 □道徳の時間の授業参観を実施している学校の割合	<p>引き続き、私立学校の振興と教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減、経営の健全性の向上を支援する。私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、預かり保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援する。また、各校の情報発信の取組の支援も行う。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>小・中学校における「特別の教科 道徳」の実施を踏まえ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を見習う生徒の内面にしつかり育むため、自分ならどうするかという視点に立って課題と向き合い、自分と異なる意見をもつ他者と議論する「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ります。</p> <p>校長会、道徳教育推進教師研修会、教育課程研究会等の各種研修会において、道徳ノートの工夫や授業参観の実施等、家庭との連携の推進・工夫について、具体例を交えながら説明を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">達成率(R1)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95</td> <td>97</td> <td>96</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>96.0%</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>81</td> <td>89</td> <td>81</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>89.0%</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p> <p>【令和元年度の成果】研修会等において、道徳科の授業や地域との連携について研修を行った。道徳の教科化に伴い、学校や地域等で行われる研修会が増加した。地域や保護者の関心も高まっている。</p> <p>【課題】「考える道徳」「議論する道徳」等に向けた授業改善が進んでいるものの、学校での取り組みに差が見られる。教師の力量を高めるとともに、学校全体としての取組を充実させる必要がある。</p> <p>道徳授業の充実を図ることはもちろん、各教科等との関連を図るなど、学校教育全体で道徳教育の推進を図る。また、家庭・地域社会との連携をよりいっそう推進するための、研修体制や推進体制のさらなる充実を図る。そのために、各学校における道徳教育の充実のため、研修等を通して、道徳教育推進教師を育成する。</p>	達成率(R1)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	95	97	96				96.0%	100	81	89	81				89.0%	91
達成率(R1)																																	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																										
95	97	96				96.0%	100																										
81	89	81				89.0%	91																										

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
85	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	豊かな心の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>情報モラル教育の充実 ■ 学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育の充実 □ 情報モラルコンテンツ数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>35</td> <td>43</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>122.9%</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:コンテンツ)</p> <p>情報技術が急速に進化していく情報社会において、適正に活動するための基本となる考え方や態度を児童生徒が身に付けられるよう、学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育のより一層の充実に取り組みます。</p> <p>○ 情報モラル教育指導者研修会の実施 ○ 県内公立全中学校の情報モラル年間指導計画の作成・提出 ○ 情報モラルコンテンツを8つ追加し、総合教育センター情報モラルサポートサイトより配信 ○ P.T.A対象に情報モラル啓発リーフレットを作成・配付</p> <p>【令和元年度の成果】情報モラル指導者研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修を行った。1日研修としたためワークショップにおける情報共有の時間が十分に確保できたため、参加者の満足度が高かった。</p> <p>【課題】情報モラルに関する新たな問題が次々と生まれてきているので、児童生徒の状況や保護者の意識調査の分析に基づき、新たな問題について学習できる教材を準備する必要がある。</p> <p>全校種を対象にして徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修を行う。また、授業に活用できるように、更にコンテンツを追加し内容の充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	27	35	43				122.9%	35
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
27	35	43				122.9%	35												
86	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	豊かな心の育成	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>豊かな情操の育成 ■ 年較少年自然の家を拠点とした、地域との交流を深める自然体験・交流体験等の推進 □ 自然体験・交流体験等への参加者数(再掲46)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>813</td> <td>929</td> <td>857</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>95.2%</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p> <p>県立年較少年自然の家を子供たちの体験活動の拠点として、地域の自然や文化活動を生かした自然体験・交流体験・環境学習等を実施し、達成感や成功体験を得ることにより、達成感や自己肯定感を育む取組を推進します。</p> <p>「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会、婦人会、高校生などの協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ</p> <p>【令和元年度の成果】地域の方々と交流の輪が広がり、協力を得るとともに、職員豊富なアイデアを生かして、体験活動の種類や回数を増やすことで、各体験活動において例年を上回る参加者の増加につなげることができた。年度末には主催事業を2つ中止としたため、目標値まで到達しなかった。</p> <p>【課題】体験活動の日程や内容等の見直しを常に行い、地域の住民や自治体の意見をくみ取り、連携して改善を図っていくことが重要である。また、学習指導要領の改訂や新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊体験学習の実施校の減少や活動時間の短縮が危惧される。</p> <p>参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実した、効果的な事業を実施するとともに、活動内容に教科の授業時数としてカウントできる内容を取り入れていく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	813	929	857				95.2%	900
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
813	929	857				95.2%	900												

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
87	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>家庭教育支援の充実</p> <p>■ 「とくしま親なびげーたー」の養成とワークショップ等への派遣</p> <p>□ 「とくしま親なびげーたー」の派遣者数</p>  <p>担当課 生涯学習課</p>	<p>事業目的 家庭教育に関する地域の研修会等で進行役（ファシリテーター）となる「とくしま親なびげーたー」を、県内の各園・学校等で開催するワークショップに派遣するとともに、「とくしま親なびげーたー」の成果を発表する機会を創出します。</p> <p>取組状況（R1年度分） 県内の幼稚園・学校等23か所においてワークショップを実施し、「とくしま親なびげーたー」107名を派遣した。また、新たに中学生や高校生などを対象とした家庭教育に関する教材を作成した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">（単位：人）</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85</td> <td>118</td> <td>107</td> <td></td> <td></td> <td>100</td> </tr> <tr> <td colspan="6">達成率(R1) 107.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】「とくしま親なびげーたー」を派遣して県内23か所で開催されたワークショップでは、1,064名の保護者や教育関係者などが参加し、保護者間の関係づくりや家庭教育についての意見交換・相互研修を行うことができた。</p> <p>【課題】今後も継続して「とくしま親なびげーたー」の派遣に努め、家庭教育力の向上に貢献する。</p> <p>評価 県内の各幼稚園・学校・公民館等へ「とくしま親なびげーたー」派遣の周知を継続的に行う。また、中学生や高校生などを対象とした家庭教育に関する教材を用いたワークショップを実施することで、次代の家庭教育を担う若者の育成を図る。</p> <p>今後の取組方針 社会教育主事をはじめとする社会教育関係者・団体を対象に、社会教育研修大会を開催し、学びや交流の機会を通じて、連携・ネットワーク化を推進する。</p>	（単位：人）						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	85	118	107			100	達成率(R1) 107.0%					
（単位：人）																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
85	118	107			100																						
達成率(R1) 107.0%																											
88	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>社会教育関係者・団体の連携・ネットワーク化</p> <p>■ 学びや交流の機会を通じた連携・ネットワーク化の推進</p> <p>□ 研修会への参加者数</p>  <p>担当課 生涯学習課</p>	<p>事業目的 社会教育主事をはじめとする社会教育関係者・団体を対象に、社会教育研修大会を開催し、学びや交流の機会を通じて、連携・ネットワーク化を推進する。</p> <p>取組状況（R1年度分） 県内の活動実践事例の報告及び報告をもとにしたワークショップにより、社会教育推進の機運を高め、ネットワークづくりにつなげた。また、社会教育ファシリテーターを養成するとともに、学びの循環として養成講座修了生が各研修大会にファシリテーターやボランティアスタッフとして参加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">（単位：人）</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>696</td> <td>825</td> <td>937</td> <td></td> <td></td> <td>700人以上</td> </tr> <tr> <td colspan="6">達成率(R1) 133.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】公民館をはじめとした社会教育関係者や社会教育関係団体、NPO法人等の参加があり、多様な活動について、意見・情報の交換を進めたことで、参加者の意識向上が図られた。また、社会教育担当職員の実質向上と情報の共有化が図られた。</p> <p>【課題】市町村の社会教育関係職員及び社会教育関係者のネットワークをさらに強化し、地域での取組推進や新たな連携につなげていくことが重要である。また、学生を含む若年層の参画を推進する効果的な方策を打ち出す必要がある。</p> <p>評価 県内の社会教育委員、社会教育関係団体の関係者等を対象とした研修会への参加者の拡大と、学生を含む様々な分野・年齢層の団体・個人を対象とした社会教育に関する人材の育成に努める。</p> <p>今後の取組方針 県内の社会教育委員、社会教育関係団体の関係者等を対象とした研修会への参加者の拡大と、学生を含む様々な分野・年齢層の団体・個人を対象とした社会教育に関する人材の育成に努める。</p>	（単位：人）						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	696	825	937			700人以上	達成率(R1) 133.9%					
（単位：人）																											
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
696	825	937			700人以上																						
達成率(R1) 133.9%																											

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
89	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>多様な学習機会の提供 ■ 生涯学習情報システムの情報の充実 □ 生涯学習情報システムへのアクセス件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99,000</td> <td>121,143</td> <td>221,571</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>221.6%</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>【令和元年度の成果】利便性の高いものとするためにシステムを再構築した結果、アクセス件数を大幅に伸ばすことができた。</p> <p>【課題】各機関に照会を行い、生涯学習情報を随時更新・提供し続ける必要がある。</p> <p>事業目的 生涯学習に関する情報をインターネットで提供しており、主な情報は「講座検索」、「まなびーあ人材バンク」、「マナビイセンター図書」、「視聴覚教材」、「団体・サークル」、「施設」である。これらの情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分) 年齢的・身体的条件にかかわらず情報を取得できる「ウェブアクセスナビ」に配慮しながら、より時代のニーズに即したWebサイトを構築した。</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針 Webサイトの充実を図るとともに、講座のチラシや一覧表の配布などを行い、広く県民への周知、広報に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	99,000	121,143	221,571				221.6%	100,000
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
99,000	121,143	221,571				221.6%	100,000												
90	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>多様な学習機会の提供 ■ 生涯学習情報システムの情報の充実 □ 人材・指導者、団体サークルの登録件数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>990</td> <td>1,004</td> <td>1,014</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.4%</td> <td>1,010</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：件)</p> <p>事業目的 生涯学習に関する情報をインターネットで提供しており、主な情報は「講座検索」、「まなびーあ人材バンク」、「マナビイセンター図書」、「視聴覚教材」、「団体・サークル」、「施設」である。これらの情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分) 専門的な知識や技術を有する方に登録の依頼を行った。また、講座の講師の方に登録の依頼を行った。Webサイト「まなびーあ徳島」の「まなびーあ人材バンク」や「団体・サークル」のページにおいて募集を行った。</p> <p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>生涯学習に関する情報をインターネットで提供しており、主な情報は「講座検索」、「まなびーあ人材バンク」、「マナビイセンター図書」、「視聴覚教材」、「団体・サークル」、「施設」である。これらの情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分) 【令和元年度の成果】登録の依頼を積極的に行うことにより、登録件数を増加させることができた。「まなびーあ人材バンク」や「団体・サークル」情報をインターネットで検索していただいた県民の方からお問い合わせをいただくこともあり、生涯学習情報システムの活用につながることができた。</p> <p>【課題】「まなびーあ人材バンク」や「団体・サークル」に登録されている情報の照会を実施するに当たり、諸事情により登録辞退をされる方がいるため、広報に努め新規登録を促す取組を行う必要がある。</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針 総合教育センター生涯学習支援講座で主催する講座のうち、継続実施する講座については、各講座の修了者が指導者として活躍できる支援を行い、人材バンクへの登録を積極的に呼びかけて、地域貢献や生涯学習の促進・発展につながるよう努める。新規サークルの登録も積極的に呼びかける。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	990	1,004	1,014				100.4%	1,010
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
990	1,004	1,014				100.4%	1,010												

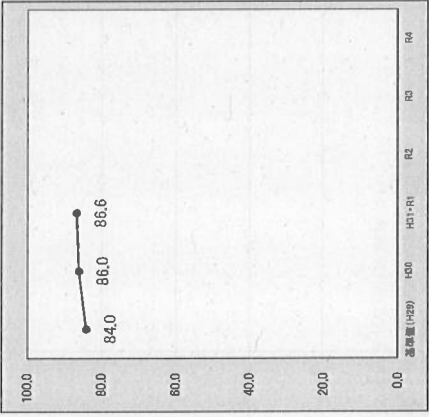
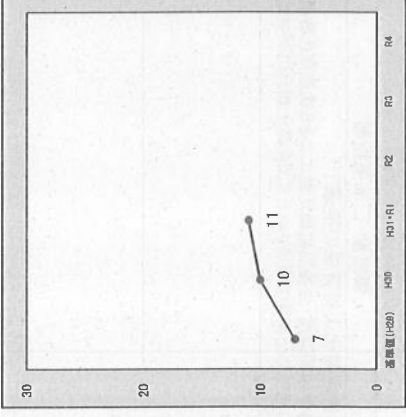
番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
91	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>多様な学習機会の提供 ■ マナビイセンターを拠点とした学習支援体制の強化 □ マナビイセンターの利用者数及び受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52,000</td> <td>55,146</td> <td>53,879</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.4%</td> <td>52,600</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	52,000	55,146	53,879				102.4%	52,600	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>主なびい徳島（県立総合高等学校）やマナビイセンター主催講座をはじめとする徳島ならではの学習機会の提供を図るとともに、図書・視聴覚教材等の充実、県民の生涯学習の拠点となるよう学習支援体制の強化を図ります。</p> <p>マナビイセンター主催講座をはじめとする各種講座の充実、広報に努めるとともに、図書・視聴覚教材等の拡充を図り、利用者の利便性向上にも努めた。</p> <p>【令和元年度の成果】 マナビイセンター主催講座の実施数を増やすことで学習機会の提供の充実を図るとともに、広報活動にも注力したことで受講者数の目標値を達成することができた。</p> <p>【課題】 まなびいルームの稼働率が高い状態となっており、主催講座を増加することが難しい。また、総合教育センターへの来所が地理的に困難な方のために、出前講座、サテライト会場での講座をより一層増やすことで学習機会の提供に努める必要がある。</p> <p>新着図書や新規購入視聴覚教材の広報等の充実を図り、利用者の便宜を図る。また、実施講座について</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
52,000	55,146	53,879				102.4%	52,600													
92	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>実践的な活動の場の提供 ■ 地域が抱える課題や地方創生につなげる人材の養成と活動の場の提供 □ 地域の活性化に取り組むリーダーを養成する講座の受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>600</td> <td>743</td> <td>751</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101.5%</td> <td>740</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	600	743	751				101.5%	740	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>地域の活性化に取り組むリーダーを養成し、とくしま学博士などが実践的に活動できる場の提供を行い、地域が抱える課題の解決や地方創生につなげます。</p> <p>○ 女性のためのスキルアップ講座 5月25日、6月15日、30日 実施 ○ わくわく家庭教育づくりプログラム事業「『父親力』ルネサンス推進講座」 7月13日、21日、8月3日、4日 実施（7/21は荒天のため中止） ○ わくわく家庭教育づくりプログラム事業「孫育て楽しみみ隊講座」 12月7日、21日、1月12日、25日 実施 ○ とくしま“ひと・まち”づくり実践講座 2月1日、8日、15日、29日 実施（2/29は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）</p> <p>【令和元年度の成果】 ワークショップや実習を取り入れることで、より実践的な学びの場をつくることが出た。受講者が地域活動に自発的・継続的に取り組めるように、地域で活動している団体・個人を講師に招き、講師と受講者とがつながる機会となるように工夫した。</p> <p>【課題】 講座に「徳島ならではの」学びを取り入れることで、幅広い世代の受講者に地域の魅力を知ってもらう機会となるよう、講座内容や講師の選定に今後も工夫が必要である。</p> <p>時代の潮流に乗った、地域活動に活かせる実践的な内容を取り入れるとともに、すでに地域で活動している団体・個人を講師に招くことにより、受講者の「学びと活動」を循環できるように計画していく。受講生が指導者となる支援・取組を充実させる。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
600	743	751				101.5%	740													

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針															
93	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	■ 施策・□ 成果指標 学びの場への県民の参画 ■ 県内全域における同じレベルの学習機会の創出 □ サテライトオフィスを活用した講座の受講者数 	県内外大学のサテライトオフィスや高等教育機関が有する先端機器等を活用することにより、県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。	<table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>26</td> <td>56</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td>40</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	—	26	56				140.0%	40	<p>「新未来とくくしま講座」(7/14・9/28・11/9・1/11)の全4回を、県立総合教育センター(メイン会場)の他に、県立図書館3階集会室をサテライト会場とし、メイン会場の講座の様子を同時中継することで学びの場の提供を行った。</p> <p>【課題】サテライト会場を設けることで学びの場を増やすことができるが、現スタッフの人数・勤務状況などの理由から、メイン・サテライトの両会場での運営が難しいのが現状である。そのため、ボランティアスタッフを積極的に募る等の工夫が必要である。また、サテライト会場の受講者からは、映像が見にくい、音が聞こえにくい等、機器の面での改善が必要である。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
—	26	56				140.0%	40															
94	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	■ 施策・□ 成果指標 優れた芸術作品に触れ合う機会の創出 ■ 書及行事の実施による「あわ文化」の担い手の育成 □ 文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数 	文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。	<table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>270</td> <td>333</td> <td>312</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>115.6%</td> <td>270回以上</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	270	333	312				115.6%	270回以上	<p>各館で様々な普及行事を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 54回 ・ 文書館 ・ 110回 ・ 近代美術館 ・ 39回 ・ 鳥居龍藏記念博物館 ・ 15回 ・ 図書館 <p>【令和元年度の成果】学芸員の調査研究の成果を活かし、「水生昆虫のかんざつ」や「こどもも観賞クラブ」、「古文書講座」など、楽しみながら学び、考え、知的探究を満了することのできる場を提供した。</p> <p>【課題】幅広い世代を対象に、多様な学習機会を提供する必要があるとともに、感染症拡大防止対策を講じ、安心して利用できる環境を整備することが求められる。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
270	333	312				115.6%	270回以上															

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針												
95	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・口成果指標 文化・芸術の感動や体験の場の提供 ■魅力ある企画展やイベントの開催 □文化の森総合公園各文化施設入館者数総計(累計)</p> <table border="1"> <tr><th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31・R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr><td>2,125</td><td>2,250</td><td>2,338</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(単位:万人)</p> <p>達成率(R1) 102.3% 目標値(R1) 2,285</p> <p>【令和元年度の成果】文化の森総合公園開園30周年プレ事業の実施など、魅力的な企画展やイベントを開催した結果、入館者数は所期の目標を達成することができた。</p> <p>【課題】来館する度に新たな発見ができるような、多様な文化を発信するため、収蔵資料のさらなる活用と、より魅力ある手法の開発が必要であるとともに、感染症拡大防止対策を講じ、安心して利用できる環境を整備することが求められている。</p> <p>感染症拡大防止対策を講じ、魅力あるイベントを開催するとともに、新未来型展示の県立博物館ブランドオープンに向けた取組を推進することにより、文化・芸術の感動や体験の場を提供し、あわ文化発信拠点として、芸術文化活動の促進に寄与する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	2,125	2,250	2,338			
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
2,125	2,250	2,338													
96	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・口成果指標 子どもたちの郷土に対する理解促進 ■学芸員等専門職員による学校での出前授業の実施 □博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍藏記念館の学校への講師派遣回数</p> <table border="1"> <tr><th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31・R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr><td>70</td><td>104</td><td>89</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(単位:回)</p> <p>達成率(R1) 127.1% 目標値(R1) 70回以上</p> <p>【令和元年度の成果】各館所蔵の貴重資料への閲覧機会が増大するとともに、子どもたちの郷土の自然や歴史・文化に対する理解を深めることができた。</p> <p>【課題】各館の保有する資料を活用し、次世代を担う子どもたちに対する郷土の学習を推進することが求められている。</p> <p>引き続き、文化の森各館が所蔵する資料をデジタルコンテンツとしても活用するとともに、学芸員等の講師派遣をより一層推進することにより、学校教育との連携を強化する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	70	104	89			
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
70	104	89													

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
97	時代の潮流を見据えた学びの推進	将来を担う若者への主権者教育の充実	■ 施策・□ 成果指標 主権者教育の推進 ■ 体験的・実践的な学びを重視した主権者教育の推進 □ 公立小・中・高校及び特別支援学校における、主権者意識を高める教育の充実のための出前講座の実施教数	<table border="1"> <tr><th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31+R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>達成率(R1)</th><th>目標値(R1)</th></tr> <tr><td>42</td><td>44</td><td>43</td><td>46</td><td></td><td></td><td>93.5%</td><td>46</td></tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31+R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	42	44	43	46			93.5%	46	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことに伴い、小・中・高校のそれぞれの段階において、政治や選挙制度に対する理解と参加意識を高めるとともに、模擬投票などの体験型活動を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実に取り組みます。 1 公立高等学校、特別支援学校、私立高等学校の主権者教育担当教員研修会の実施 2 主権者意識を高める教育の充実のための出前講座の実施 3 統一地方選挙や参議院議員通常選挙に向けて、県教育委員会LINE『Go! Tomorrow』事業による投票呼びかけ 4 県教育委員会発行広報紙「ふれあいひろば」による啓発など
基準値(H29)	H30	H31+R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
42	44	43	46			93.5%	46														
97			取組状況 (R1年度) (単位: 校)	評価 【令和元年度の成果】市町村選挙管理委員会や大学と連携した出前講座(社会参画の意義や選挙制度について講義、模擬選挙や模擬投票)を小学校、中学校において13校、高等学校特別支援学校において30校実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学校1校、高等学校1校での実施が中止となった。 評価 【課題】出前講座を実施した各学校においては、児童生徒の主権者としての意識の高まりを感じられる感想が多々見られる。高等学校や特別支援学校における出前授業は、講義形式だけではなく様々な形で実施されている。小学校、中学校における主権者教育についても具体的、計画的に実施する必要がある。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育館などでの全校一斉での取組は難しくなっている。 今後の取組方針 主権者教育の出前講座を進めるにあたり、講義型の講座だけではなく、ワークショップや模擬投票等、児童生徒が主体的に参加し、相互に意見を出し合い、主権者意識を高めることができるとの意識を高めていきたい。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインや少数での出前授業の開催など、各学校と相談しながら進めたい。																	
98	時代の潮流を見据えた学びの推進	全国モデルの消費者教育の推進	■ 施策・□ 成果指標 全国モデルの消費者教育の推進 ■ 地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育の推進 □ 消費者教育研究指定校数(累計)	<table border="1"> <tr><th>基準値(H29)</th><th>H30</th><th>H31+R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>達成率(R1)</th><th>目標値(R1)</th></tr> <tr><td>34</td><td>39</td><td>45</td><td>44</td><td></td><td></td><td>102.3%</td><td>44</td></tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31+R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	34	39	45	44			102.3%	44	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 幼児期からの発達段階に応じた金銭・金融教育や環境教育等、体系的・体系的な消費者教育に引き続き、取り組むとともに、地域の特色を生かし、地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。 1 「TOKUSHIMA消費者教育」ステップアップ事業研究校の指定(幼1、小1、中1、高2) 2 指導者養成講座(中学校教員対象)の実施(受講者数72名) 3 「講演・出前授業」の実施(小・中・高55校) 4 消費生活啓発ポスターの募集(入賞作品14点、啓発カレンダーとして活用)
基準値(H29)	H30	H31+R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
34	39	45	44			102.3%	44														
98			取組状況 (R1年度) (単位: 校)	評価 【令和元年度の成果】研究校においては、地域とのつながりを意識した教科横断的な消費者教育を展開できた。指導者養成講座や講演・出前授業については、多様な主体と連携し、深化させることができた。ポスター募集では、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、啓発資料としての活用を図ることができた。 評価 【課題】幼・小・中・高の接続を意識し、より系統的・体系的な消費者教育を推進していく必要がある。また、講演・出前授業や校内研修等への講師派遣において、多様な主体との連携を一層推進していく必要がある。引き続き、幼児期からの発達段階に応じた消費者教育の充実・強化に消費者庁や県内大学等と連携し取り組んでいくとともに、各学校のニーズを踏まえた講師派遣ができるよう、とくしま「消費者教育人材バンク」の一層の活用を図る。																	

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
99	時代の潮流を見据えた学びの推進	施策の方向性 全国モデルの消費者教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>全国モデルの消費者教育の推進 ■ 県内すべての公立高校における、エシカルクラブの設置率 □ 公立高校におけるエシカルクラブの設置率</p> <table border="1"> <caption>エシカルクラブの設置率 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33</td> <td>66</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	33	66	100				100.0%	100	<p>事業目的</p> <p>県内すべての公立高校にエシカルクラブの取組を実施するとともに、各校を牽引するリーダーディングスクーを指定します。さらに、その取組成果を実践報告集としてまとめ、県内外へ発信します。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>○ 公立高等学校1校を「エシカル消費」リーダーディングスクールとして指定した。主な取組として、総合的な学習(探究)の時間を活用したエシカル消費の研究や、外部人材・企業等との連携、取組発表等とおしな普及・啓発等が行われた。</p> <p>○ 公立高等学校40校に、「エシカル消費」に関する取組を行う「エシカルクラブ」を設置した。主な取組として、「エシカル消費」に関する講演会、地産地消に関する料理講習会、環境保全活動、文化祭での普及・啓発などが行われた。</p> <p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】公立高等学校40校にエシカルクラブが設置されたことにより、高校生に消費者市民としての意識が醸成されるとともに、「エシカル消費」の周知を進めることができた。</p> <p>【課題】引き続き高校生による持続可能な社会の形成に向けた「エシカル消費」の普及推進を図る必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>学校が、「エシカルクラブ」の取組を通して、多様な主体と連携し「エシカル消費」に関する研究・実践を推進することにより、生徒の消費力の育成を図る。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
33	66	100				100.0%	100													
100	時代の潮流を見据えた学びの推進	施策の方向性 全国モデルの消費者教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>全国モデルの消費者教育の推進 ■ エシカル商品や製品の家庭や地域への提供 □ エシカル活動・作品を地域に提供した特別支援学校数</p> <table border="1"> <caption>エシカル商品や製品の提供 (単位: 校)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	7	8				100.0%	8	<p>事業目的</p> <p>特別支援学校をエコステーションとして拠点化し、児童生徒がエコボランティアとして、開発したエシカル商品や製品を家庭や地域に提供することにより、エシカル消費に対する意識の向上を図ります。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>各特別支援学校に設置したりサイクル資材の回収ボックスを運用し、リサイクル資材の回収を実施することができた。また、リサイクル資材から作った作品を四国霊場礼所でお通路さんへ配布した。さらには、地元事業所等と連携し、児童生徒のアイデアや地元の特産を生かした新たな商品や製品の開発を行うとともに、啓発リーフレットを作成し、配布した。</p> <p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】板野支援学校、国府支援学校、鳴島支援学校、阿南支援学校ひむさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校がお接待活動等に取り組み、児童生徒の作品等を提供することができた。また、阿南支援学校は、竹パウダーを、みなと高等学園ではおはぎを、池田支援学校ではそば粉のクッキーを地域の企業等と連携して作ることができた。</p> <p>【課題】全ての学校において回収したりサイクル資材等を活用した作品づくりは進めているが、地域への作品提供までには至っていない学校がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>各学校の取組を共有し、既に実施している学校との共同実施を行うなど、学校間の連携を進めることで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供できるようしていく。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
5	7	8				100.0%	8													

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																					
101	時代の潮流を見据えた学びの推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>未来へつなぐ環境教育の推進 ■郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成 □「新 学校版環境ISO」認証を取得した学校の割合</p>  <p>未来へつなぐ環境教育の推進</p> <p>担当課 学校教育課</p>	取組状況 (R1年度分)	<p>生命や自然を大切に、地域の環境を守るために行動できる、郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成を目指した公立小・中・高等学校及び特別支援学校の「新 学校版環境ISO」の取組を推進します。</p> <p>1 エコリーダー養成講座の開催 (令和1.10.17) 対象：各市町村教育委員会、各公立学校の環境教育担当者 講演「SDGsと学校教育」 講師：鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 田村 和之 氏</p> <p>2 「新 学校版環境ISO」新規申請2校と継続申請79校の取組状況をホームページで発信</p> <p>3 県環境・エネルギー教育発表会の開催 (令和2.2.14) 実戦発表1校・新規申請2校と継続申請79校の認証 講演「YOUプロジェクト〜持続可能なまちづくりと新 学校版環境ISO〜」 講師：NPO法人エコロジカル・ファーストエイド 理事長 佐藤 貴志 氏</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>84.0</td> <td>86.0</td> <td>86.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.1%</td> <td>86.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】新規申請2校、継続申請79校の認証をし、令和元年度末での「新 学校版環境ISO」認証割合が、小・中学校、高等学校、特別支援学校の86.6%となった。</p> <p>【課題】取組例や各学校の実践事例を周知することで、認定校の取組の活性化を図るとともに、新規認定校の増加を図る必要がある。</p> <p>令和元年度末で認証期間が終了した52校の継続申請の推進を図る。 ・市町村教育委員会と連携して、小学校・中学校の新規申請を推進する。 ・エコリーダー養成講座を通じて、認証が100%である公立高校・特別支援学校の取組の充実を図る。</p>	(単位：%)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	84.0	86.0	86.6				100.1%	86.5
(単位：%)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																		
84.0	86.0	86.6				100.1%	86.5																		
102	時代の潮流を見据えた学びの推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>6次産業化人材育成の推進 ■学校間連携・生徒間協働による6次産業化教育の推進 □6次産業化商品のプロデュース数(累計)</p>  <p>新たな成長産業を生み出す教育の推進</p> <p>担当課 教育創造課</p>	取組状況 (R1年度分)	<p>「6次産業化をプロデュースする人材」を育成するため、農学科、工業科、商業科設置高校等が連携し、それぞれの専門性を活かすことにより、6次産業化に対応した実践的な取組を行います。こうした取組の実証成果をもとに、全県下に普及を図ることで、専門高校の充実や6次産業化に対応した新たな教育を推進します。</p> <p>県下3地域において、県央部では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校の3校、県南部では「ゆこり」をテーマに、小松島西高校勝浦校、阿南光高校、高岡東高校の3校、県西部では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校の3校が学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化商品の開発を通して、生産・商品開発・加工・販売について取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>84.6%</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】県下3地域において、昨年までの連携活動及び商品の試作等を踏まえ、6次産業化商品(県央部：藍の洋菓子、県南部：ゆこりドーナツ、県西部：アロマブレンド)について、地域の企業等の連携による商品化、県内外での販売実習、市場調査などを行うことで、実践的な6次産業化教育が展開できた。</p> <p>【課題】学校間連携による商品化では、生産量が限られていることから継続した販売は難しく、学校施設における製造の営業許可が限られていることから、新たな商品化を展開する上での制限がある。今後は、さらに地域や産業界と連携を強化し、地域に貢献できる地域ブランドとなり、継続的に販売できる商品となるための工夫が必要である。</p> <p>新たな地域資源をテーマとする商品開発の拡充、プロデュース商品の魅力化、生産方法・工程での改善、販路開拓等による事業の拡大・発展を図るため、学校間連携・生徒間協働活動の充実をはちろんのごとく、より実践的・体験的な取組となるよう、地域や産業界等と連携を積極的に展開する。</p>	(単位：件)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	7	10	11				84.6%	13
(単位：件)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																		
7	10	11				84.6%	13																		

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
102	時代の潮流を見据えた学びの推進	新たな成長産業を生み出す教育の推進	6次産業化人材育成の推進 ■ 学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化教育 □ 地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数 (累計)	<p align="center">項目102の修正成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>農工商教育の活性化を図るため、令和2年3月策定の「徳島県農工商教育活性化・魅力化方針」を踏まえ、高校における農工商教育の活性化に取り組みとともに、農工商が連携し、徳島ならではの地域資源を十分に生かした6次産業化教育を推進します。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">(単位：商品)</td> </tr> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>目標値(R2)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>達成率(R2)</td> <td>達成率(R4)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>9</td> </tr> </table>	(単位：商品)		基準値(H29)	目標値(R2)	H30	R4	H31・R1	R3	—	3	達成率(R2)	達成率(R4)	—	9		
(単位：商品)																				
基準値(H29)	目標値(R2)																			
H30	R4																			
H31・R1	R3																			
—	3																			
達成率(R2)	達成率(R4)																			
—	9																			
103	時代の潮流を見据えた学びの推進	新たな成長産業を生み出す教育の推進	担当課 教育創生課 ■ 施策・□ 成果指標 地方創生の原動力となる人材の育成 ■ 農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校の開校 □ 阿南光高校の開校(再掲:11)	<p align="center">事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 平成30年4月に、農工商が一体化した特色ある教育を推進する阿南光高校を開校し、時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に引き続き取り組みます。</p> <p>取組状況(R1年度分) 新野キャンパスのLED植物工場ラボを活用した「LED照明による水耕栽培システム」や「高大連携による中学生のための植物バイオ教室」、校外活動である「植物バイオ技術によるイシマササユリ保護活動」や「徳島大学石井農場施設見学・実習」、宝田キャンパスでの「ドローン操作及び活用講座」等、徳島大学との連携活動を実施した。そして、徳島大学との連携拠点施設「とくしまイノベーションセンター」において、徳島大学生物資源産学部の常駐が決定するとともに、さらなる施設の実質的な連携が図られた。また、地域における農業の活性化等を図るため、阿南農業協同組合及び東とくしま農業協同組合との地域活性化連携協定を締結し、地域資源を活用した6次産業化商品開発等にも取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">(単位：—)</td> </tr> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>開校</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td>推進</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>達成率(R1)</td> <td>達成率(R4)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>【令和元年度の成果】徳島大学との高大連携教育及び地元農業協同組合との連携による6次産業化教育の展開が進められ、2キャンパスを効率的に活用し、特色のある教育を展開するための施設、人材等が整った。</p> <p>【課題】徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座の構築、及び、地域、産業界との連携内容・方法を踏まえ、地域の拠点として、新野キャンパスの活用を推進する必要がある。</p>	(単位：—)		基準値(H29)	目標値(R1)	H30	開校	H31・R1	推進	R2	R3	R4	R4	達成率(R1)	達成率(R4)	—	—
(単位：—)																				
基準値(H29)	目標値(R1)																			
H30	開校																			
H31・R1	推進																			
R2	R3																			
R4	R4																			
達成率(R1)	達成率(R4)																			
—	—																			
			担当課 教育創生課 今後の取組方針 徳島大学との連携活動、新野キャンパスにおける徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座、産業界や地域との連携による外部人材を活用した、実践的・体験的教養活動等を展開する。																	

番号	推薦項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
104	時代の潮流を見据えた学びの推進	新たな成長産業を生み出す教育の推進	地方創生の原動力となる人材の育成 ■ 阿南光高校新キャンパスにおける徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発や商品開発 □ 大学・地域等との協働連携事業件数(再掲:12)	令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象) 専門的な知識や技術を身に付け、地域や産業界に求められる人材を育成するため、阿南光高校新キャンパスにおいて、徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発、商品開発等に取り組みます。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R2)</th> <th>目標値(R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> (単位:人)	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	—	—	—	3	4	5		3
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)													
—	—	—	3	4	5		3													
105	時代の潮流を見据えた学びの推進	新たな成長産業を生み出す教育の推進	担当課 教育創生課 ■ 施策・□ 成果指標 新たな成長産業を生み出す教育の推進 ■ 地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開 □ 県立高校卒業生のうち、林業関連従事者数(累計)(再掲:13)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に取り組めます。さらに地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開に向けて取り組めます。 ○ 林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。 ○ 林業に関係する高校(学科)においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取り組む、林業関連産業への就職推進に努めた。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>26</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>140.0%</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> (単位:人) 【令和元年度の成果】 継続的な取組によって、9名が林業関連従事者となった。 【課題】 継続的に林業関連産業への従事者が確保できよう様々な機関との連携を深め、効果的な取組を構築していく必要がある。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、課題の再発見に努める。 今後の取組方針 継続的に林業関連産業への従事者が確保できよう様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会の確保に努める。林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。また、既に従事している卒業生の状況把握を行い、従事者の定着についても検証していく必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	10	26	35				140.0%	25
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
10	26	35				140.0%	25													

番号	106	推進項目	時代の潮流を見据えた学びの推進	推進の方向性	新たな成長産業を生み出す教育の推進															
				<p>■施策・□成果指標</p> <p>新たな成長産業を生み出す教育の推進</p> <p>■職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生による □高校生産業教育普及における来場者数(再掲:26)</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>															
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,850</td> <td>1,910</td> <td>1,952</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.1%</td> <td>1,950</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	1,850	1,910	1,952				100.1%	1,950	<p>職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各大学科や学校独自の特色ある教育活動について、日々の学習の成果と、今後の徳島県の産業界を支える人材育成を目指した、学校独自の特色ある教育活動と産業教育の魅力を広げ県民にアピールします。</p> <p>多くの集客数が期待でき、昨年度に引き続き、大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。</p> <p>また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,952名となった。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
1,850	1,910	1,952				100.1%	1,950													
					<p>【令和元年度の成果】会場を大型ショッピングモールとし、TV、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し広報に努めた結果入場者数は1,952名と増加した。また、小学生、中学生の参加者も昨年度より多く感じられた。</p> <p>【課題】高校生の学習活動のアピールするという観点から、特に小中学生に進路指導の視点で多く参加してもらえようPR活動の工夫を図る。また、時代に即した開催内容(リモートによる参加やSNSでのライブ配信など)も検討する。</p>															
					<p>高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。 場所の配置や開催時間の工夫など、高校生が参加しやすい環境の設定に努める。</p>															
					<p>今後の取組方針</p>															
					<p>担当課 学校教育課</p>															

重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・〇成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針
107	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■「あわ文化」の担い手の育成</p> <p>■「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる人材の育成</p> <p>〇「あわ文化検定」の受検者数</p> <p>基標準値(H29) 931 H30 987 H31・R1 784 R2 R3 R4</p> <p>達成率(R1) 80.4% 目標値(R1) 975</p>	「あわ文化」に関する教育を充実するとともに、「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信するため、「あわ文化大使」など、次代のあわ文化の担い手を育成します。	<p>徳島の伝統文化と文化財を学校で学ぶための教材として作成した「あわ文化テキストブック」を活用するための、教師用指導教材解説集並びにワークシート集を全ての公立中学校の1年生、2年生に配布した。「あわ文化」教育の目標や教育課程への位置づけについて、県下各中学校のあわ文化教育リーダーの先生方と意見交換や情報共有を行った。また、各校であわ文化検定等の「あわ文化に関する教育」を実施した。</p> <p>受検実施校38校、受検申込み人数817名、あわ文化大使希望者数50名、あわ文化大使認定者数34名</p>
			<p>担当課 グローバル・文化教育課</p> <p>■施策・〇成果指標</p> <p>伝統文化や文化財の継承・保存</p> <p>■伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む、次代の担い手の育成</p> <p>〇人形浄瑠璃伝承教室の参加者数(累計)</p> <p>基標準値(H29) 1,658 H30 1,689 H31・R1 1,733 R2 R3 R4</p> <p>達成率(R1) 99.7% 目標値(R1) 1,738</p>	「ふるさと徳島」への誇りをもち、郷土を愛する心を醸成するため、学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。	<p>【令和元年度の成果】令和元年度の受検申込数は817名、受検者数は784名（インフルエンザ等による欠席）であった。あわ文化リーダー研修では、テキストの活用方法や実践事例の共有を行い、今後の授業改善について考える機会となった。</p> <p>【課題】各校のあわ文化教育リーダーの先生方が校内で共通理解を図ることや、年間のカリキュラムの中に位置づけ、時間を確保して取り組むことへの課題を感じている面があり、学校によってテキストを活用した取組の差が見られる。</p> <p>年度当初に実施する「あわ文化教育リーダー研修」において、実践報告や演習等を取り入れ情報共有を行い、新学習指導要領に対応した評価の観点や、テキストブックを活用するためのリーフレットを提示することとで、各校で取り組むやすいモデルを思いだし、地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」を展開できるようにするにとともに、各市町村教育委員会や各中学校への更なる周知を図る。</p>
108	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>担当課 文化資源活用課</p> <p>■施策・〇成果指標</p> <p>伝統文化や文化財の継承・保存</p> <p>■伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む、次代の担い手の育成</p> <p>〇人形浄瑠璃伝承教室の参加者数(累計)</p> <p>基標準値(H29) 1,658 H30 1,689 H31・R1 1,733 R2 R3 R4</p> <p>達成率(R1) 99.7% 目標値(R1) 1,738</p>	登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうり伝承教室を開催し、44名の小中学生が受講した。	<p>【令和元年度の成果】「徳島県立城北高等学校人形会館」を会場に使用し、子どもたちに本格的な芝居小屋での発表体験を提供することができました。参加者からは、令和元年11月10日に開催された県主催第4回ジュニア浄瑠璃フェスティバルへの出演者も生まれており、次世代後継者の育成に繋がった。</p> <p>【課題】参加者アンケートでは「伝統文化を身近に感じることができたか」との設問に対し「特に感じた・感じた」と回答する割合は高かった。引き続き、伝統文化への興味関心を醸成していくため、新型コロナウィルスの感染症対策に配慮しながら、効果的な取組を検討していく必要がある。</p> <p>令和2年度は、感染リスク回避のため、毎年夏期休業中に開催している教室を中止。（学校再開後は、夏期休業中に参加可能な児童生徒が限られることと、教室では手取り足取りの「密接」な指導が基本であるため）。代替措置として、関係団体と連携しながら、児童生徒の伝統文化に対する意欲関心度を高めるため、自宅や学校で利用可能なWebでの情報コンテンツを提供するとともに、今後は「新しい生活様式」に合わせたより良い講座形態を検討する。</p>

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
109	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>伝統文化や文化財への理解促進 ■郷土の伝統文化や文化財への理解を深めるための、「ふるさと文化人材バンク」の活用 □「ふるさと文化人材バンク」を活用し、あわ文化学習に関する講師を派遣した学校数</p> <table border="1"> <caption>(単位：校)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60</td> <td>78</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>123.1%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】「ふるさと文化人材バンク」を活用し、外部人材を講師として迎えた学校が増加したことにより、各校での「あわ文化学習」への取組の更なる充実とともに、児童生徒の豊かな感性や情操の育成が図られている。</p> <p>【課題】「ふるさと文化人材バンク」への登録者数の拡充と事業の周知を行うとともに、各学校における幅広い人材活用を提示し、外部人材の積極的な活用を図る必要がある。</p> <p>地域や異年齢者とのつながりを強くし、地域への理解と愛情を深め、ふるさと徳島の魅力を積極的に発信できる人材の育成を図る。「ふるさと文化人材バンク」が学校現場でより一層活用されるよう、各学校の活用を把握するとともに県内人材等と学校のニーズを把握しながら、新規人材の人材開拓に努める。また文化庁の芸術家派遣事業への活用など幅広く活用を促進する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	60	78	80				123.1%	65
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
60	78	80				123.1%	65												
110	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>文化財の魅力、すばらしさの発信 ■地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、すばらしさの発信 □埋蔵文化財総合センター利用者数</p> <table border="1"> <caption>(単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,200</td> <td>14,325</td> <td>12,323</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>132.5%</td> <td>9,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】埋蔵文化財速報展や講演会・講座、各種体験活動を実施することで、子どもたちの、本県の埋蔵文化財に対する保護意識の向上と、歴史や文化に対する興味関心の醸成が図られた。</p> <p>【課題】新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、埋蔵文化財の保護と活用に向けた効果的な取組を検討していく必要がある。</p> <p>県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。</p> <p>○埋蔵文化財速報展「榮福とくしま」(R1.6.11～7.14)の開催 ○講演会や成果報告会の実施 ・四国通路・鳴門の渦潮 R1.8.10 ・若杉山遺跡 R1.9.7 ・矢野遺跡重文 R1.10.19～20 ○古代体験祭り、勾玉づくり等体験学習の実施</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	9,200	14,325	12,323				132.5%	9,300
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
9,200	14,325	12,323				132.5%	9,300												
担当課	文化資源活用課																		

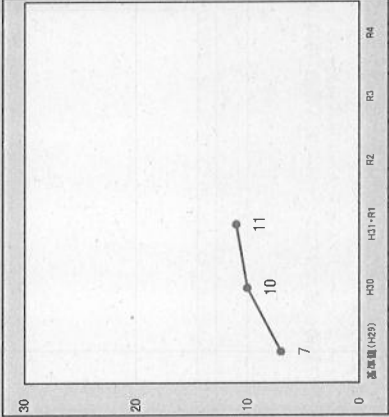
番号	推進項目	施策の特性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																																																						
111	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	文化財の保護意識の醸成 ■ 史跡・埋蔵文化財についての講演会やウォーク □ 史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加者数 	事業目的 県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。 ・「四国通路と渦潮展」や「通路道」ウォーク、矢野遺跡重文展等を実施した。 ・土成中学校で学校文化財展を開催した。 ・阿南市での若杉山遺跡の講演会を実施した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>350</td> <td>494</td> <td>495</td> <td></td> <td>105.3%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>470</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【令和元年度の成果】 通路道や埋蔵文化財を活用する事で、子どもたちの、地域の歴史や文化に対する興味や関心を醸成することができた。 【課題】 新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、埋蔵文化財の保護と活用に向けた効果的な取組を検討していく必要がある。 今後の取組方針 小規模なイベントや講座については、感染症対策を徹底しながら実施するが、中止するものについては、代替措置として、より多くの県内外の方に周知できるよう、Webによる関連資料の情報提供やパンフレットを作成し、効果的に情報を発信していく。	(単位：人)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)	350	494	495		105.3%					目標値(R1)					470																																													
(単位：人)																																																																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)																																																																						
350	494	495		105.3%																																																																						
				目標値(R1)																																																																						
				470																																																																						
112	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	文化財の保存と活用 ■ 県内に所在する文化財の保存と活用 □ 国・県指定文化財数 	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。 国指定 ① 国史跡「若杉山辰砂採掘遺跡」 ② 重要文化財(建造物)「徳善家住宅」 ③ 重要文化財(考古資料)「徳島県矢野遺跡出土品」の3件増 県指定 ① 「徳善家住宅」(国指定へ) ② 「矢野遺跡出土品」(国指定へ)の2件減 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99</td> <td>101</td> <td>104</td> <td></td> <td>103.0%</td> </tr> <tr> <td>335</td> <td>335</td> <td>333</td> <td></td> <td>98.8%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>337</td> </tr> </tbody> </table> 事業目的 県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。 取組状況 (R1年度分) 国指定 ① 国史跡「若杉山辰砂採掘遺跡」 ② 重要文化財(建造物)「徳善家住宅」 ③ 重要文化財(考古資料)「徳島県矢野遺跡出土品」の3件増 県指定 ① 「徳善家住宅」(国指定へ) ② 「矢野遺跡出土品」(国指定へ)の2件減 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99</td> <td>101</td> <td>104</td> <td></td> <td>103.0%</td> </tr> <tr> <td>335</td> <td>335</td> <td>333</td> <td></td> <td>98.8%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>337</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【令和元年度の成果】 令和元年度は新たに国指定3件が指定され、文化財の一層の保護が図られた。 【課題】 指定に至るには、国や文化財所有者との連絡調整、調査、研究等に多くの時間が必要である。指定候補となる物件の情報収集とともに、市町村指定、未指定の文化財も含め、国、県指定に向けて、計画的に調査等を進めていく必要がある。	(単位：件)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)	99	101	104		103.0%	335	335	333		98.8%					目標値(R1)					101					337	(単位：件)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)	99	101	104		103.0%	335	335	333		98.8%					目標値(R1)					101					337
(単位：件)																																																																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)																																																																						
99	101	104		103.0%																																																																						
335	335	333		98.8%																																																																						
				目標値(R1)																																																																						
				101																																																																						
				337																																																																						
(単位：件)																																																																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R4	達成率(R1)																																																																						
99	101	104		103.0%																																																																						
335	335	333		98.8%																																																																						
				目標値(R1)																																																																						
				101																																																																						
				337																																																																						
			今後の取組方針 引き続き、国指定・県指定とともに、文化財指定に向けた調査を計画的に実施し、指定文化財数の増加を図る。	今後の取組方針 引き続き、国指定・県指定とともに、文化財指定に向けた調査を計画的に実施し、指定文化財数の増加を図る。																																																																						

番号	推進項目	推進の方向性	施策・成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
113	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>子どもたちの郷土に対する理解促進</p> <p>■ 学芸員等専門職員による学校での出前授業の実施</p> <p>□ 博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍藏記念館の学校への講師派遣回数(再掲:95)</p> <p>(単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70</td> <td>104</td> <td>89</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>127.1%</td> <td>70回以上</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	70	104	89				127.1%	70回以上	<p>事業目的</p> <p>文化の森総合公園では、子どもから大人まで生涯にわたって郷土の自然や歴史・文化に対して理解を深めることができるよう、学校での授業・課外活動での利用を促進するとともに、博物館、近代美術館、文書館の所蔵する資料の展示・貸出や職員の講師派遣をより一層進めます。</p> <p>取組状況(R1年度分)</p> <p>学校からの依頼に応じて、講師を派遣するとともに、各館所蔵資料をデジタル化し、「徳島県文化の森総合公園」とくしまデジタルアーカイブ」として公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館 27回 ・文書館 4回 ・近代美術館 58回 <p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】各館所蔵の貴重資料への閲覧機会が増大するとともに、子どもたちの郷土の自然や歴史・文化に対する理解を深めることができた。</p> <p>【課題】各館の保有する資料を活用し、次世代を担う子どもたちに対する郷土の学習を推進することが求められている。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>引き続き、文化の森各館が所蔵する資料をデジタルコンテンツとしても活用するとともに、学芸員等の講師派遣をより一層推進することにより、学校教育との連携を強化する。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
70	104	89				127.1%	70回以上													
114	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>地方創生の原動力となる人材の育成</p> <p>■ 農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校の開設</p> <p>□ 阿南光高校の開設(再掲:11・103)</p>	<p>事業目的</p> <p>平成30年4月に、農工商が一体化した特色ある教育を推進する阿南光高校を開設し、時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に引き続き取り組みます。</p> <p>取組状況(R1年度分)</p> <p>新野キャンパスのLED植物工場ラボを活用した「LED照明による水耕栽培システム」や「高大連携による中学生のための植物バイオ教室」、校外活動である「植物バイオ技術によるイシヤマサササクリ保護活動」や「徳島大学石井農場施設見学・実習」、宝田キャンパスでの「ドローン操作及び活用講座」等、徳島大学との連携活動を実施した。そして、徳島大学との連携拠点施設「とくしまイノベーションセンター」において、徳島大学生物資源産学連携常設の常駐が決定するとともに、さらなる施設の実現が図られた。また、地域における農業の活性化等を図るため、阿南農業協同組合及び東とくしま農業協同組合との地域活性化連携協定を締結し、地域資源を活用した6次産業化商品開発等にも取り組んだ。</p> <p>評価</p> <p>【令和元年度の成果】徳島大学との高大連携教育及び地元農業協同組合との連携による6次産業化教育の展開が進められ、2キャンパスを効率的に活用し、特色のある教育を展開するための施設、人材等が整った。</p> <p>【課題】徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座の構築、及び、地域、産業界との連携内容・方法を踏まえ、地域の拠点として、新野キャンパスの活用を推進する必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>徳島大学との連携活動、新野キャンパスにおける徳島大学生物資源産学部の教員による高大連携講座、産業界や地域との連携による外部人材を活用した、実践的・体験的教育活動等を展開する。</p>																

番号	115	推進項目 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	施策の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>地方創生の原動力となる人材の育成</p> <p>■ 阿南光高校新キャンパスにおける徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発や商工大学・地域等との協働連携事業件数(再掲:12-104)</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p style="text-align: center;">令和2年度より取り組む新規成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>専門的な知識や技術を身に付け、地域や産業界に求められる人材を育成するため、阿南光高校新キャンパスにおいて、徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発、商品開発等</p>																
				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R2)</td> <td>目標値(R2)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> <td>3</td> </tr> </table> <p>(単位:件)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	—	—	—	3	4	5		3	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)														
—	—	—	3	4	5		3														
番号	116	推進項目 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	施策の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>担当課 教育創生課</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>高校と大学の教育内容の接続</p> <p>■ 高大連携の更なる強化</p> <p>□ 高校と大学の情報交換会やフォーラムの開催</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>																
				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>100.0%</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>(単位:回)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	2	2	2	2	2	2	100.0%	2	<p>事業目的 高大連携のもと、地域の課題解決や活性化を図るため、SNSを活用して大学生から高校生への情報提供、高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学(徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター)」出張講義一覧」の作成、高大接続改革フォーラムの開催等、内容の充実を図り、高校と大学の更なる連携強化を推進します。</p> <p>取組状況(R1年度分) 徳島県教育委員会LINE「Go! Tomorrow」を活用し、大学生から高校生への情報提供等、大学入学者選抜改革セミナーや高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学(徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター)」出張講義一覧」を総合教育センターのHPPで掲載するなどを行った。</p> <p>評価 【令和元年度の成果】高校と大学の教育内容を円滑に接続するため、情報提供・周知等を行い、高大連携の強化につながった。また、情報交換会では、分科会において具体的な内容の協議を行い、各校の取組への参考となった。</p> <p>【課題】徳島県教育委員会LINE「Go! Tomorrow」について、発信の内容が同じ内容の繰り返しにならないよう工夫し活性化を図る必要がある。</p> <p>今後の取組方針 より円滑な接続ができるように、ICTの活用を含めた内容の見直しやSNSの発信の仕方など情報提供等について工夫する。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
2	2	2	2	2	2	100.0%	2														

番号	117	推薦項目 徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	推薦の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。 鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味をもち、将来の科学技術者としての人材の発掘・養成を行った。 <table border="1" data-bbox="502 481 566 1220"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> 【令和元年度の成果】徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」に参加した児童・生徒たちが、科学作品展やその他の取組に積極的に参加し、それぞれの場面で優秀な成績を修めた。 【課題】県内の児童・生徒の理数・技術（情報）領域の資質・能力の育成とともに、取組の成果の普及をすすめる必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	推進	推進	推進					推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
推進	推進	推進					推進													
番号	118	推薦項目 徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	推薦の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 京都大学と県内の連携指定校との間で行われている出前授業や、オープン授業等の取組をさらに充実させるとともに、京都大学のELCASや大阪大学のSEEDSプロگرام、兵庫県4大学（神戸大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学）によるROOTプロگرامの取組に県内の高校生がより多くチャレンジするように促します。 連携指定校のうち、4校が出前授業を活用することができた。 <table border="1" data-bbox="1061 481 1125 1220"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>80.0%</td> <td>5</td> </tr> </table> 【令和元年度の成果】京都大学のELCASや大阪大学のSEEDSへの参加など、連携に前向きな学校が増加している。 【課題】を連携指定校において、学校行事等が計画されており、連携事業を組み込む日程等の調整が難しい。連携の仕方について、ICTの活用を含めた新しい方向性を探る必要性がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	1	1	4				80.0%	5
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
1	1	4				80.0%	5													

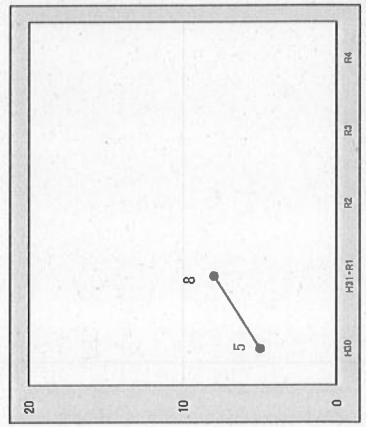
番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・口成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
119	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>学部の場への県民の参画 ■ 県内全域における同じレベルの学習機会の創出 □ サテライトオフィスを活用した講座の受講者数(再掲:93)</p> <p>担当課 総合教育センター</p>	<p>事業目的</p> <p>県内外大学のサテライトオフィスや高等教育機関が有する先端機器等を活用することにより、県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。</p>	<p>【新未来とくしま講座】(7/14・9/28・11/9・1/11)の全4回、県立総合教育センター(メイン会場)の他に、県立図書館3階集談室をサテライト会場とし、メイン会場の講座の様子を同時中継することで学びの場の提供を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位:人)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>26</td> <td>56</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】平成30年度は計2回実施したサテライト講座を、本年度は計4回実施したことで、目標値の40人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声が聞かれた。</p> <p>【課題】サテライト会場を設けることで学びの場を増やすことができるが、理スタツプの人数・勤務状況などの理由から、メイン・サテライトの両会場での運営が難しいのが現状である。そのため、ポランテイアスタッフを積極的に募る等の工夫が必要である。また、サテライト会場の受講者からは、映像が見にくい、音が聞こえにくい等の声も多く聞かれ、機器の面での改善が必要である。</p>	(単位:人)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	—	26	56			40
(単位:人)																							
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																		
—	26	56			40																		
120	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	若者による未来志向のアイデアの創出	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>地方創生に貢献する人材の育成 ■ 地域が抱える課題に対する高校生ならではの解決を図る活動の充実 □ スーパーオンラインワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数(再掲:6)</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>事業目的</p> <p>新商品の開発や地域の活性化など、高校生による課題解決を図る活動を重視し、地域社会に向けた成果の普及・発信の充実に取り組めます。</p>	<p>【課題】サテライト会場においてサテライト会場を活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。</p> <p>本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライト会場を活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。</p>																		
			<p>事業目的</p> <p>4月に事業説明会を実施し、目的や内容をいねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえようという環境の設定に努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。</p> <p>・全国高校生クリエイティブコンテスト(優秀)・エンカル甲子園2019消費者庁長官特別賞 ・日本防火・防災協会賞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位:事例)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】合計11校の応募があり、実施校はその取組内容や継続性、プレゼンテーション技術の向上がみられた。また、応募校も専門高校7校のほか、普通科高校2校、特別支援学校2校の応募があつた。</p> <p>【課題】毎年10校程度の応募校で推移している。学科や校種を問わず、県下の多くの学校が応募できるように学校のニーズや社会の情勢に対応していく必要がある。</p>	(単位:事例)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	3	4	3			3	<p>事業目的</p> <p>応募ステージや実施分野の定期的な見直しを通して、学科や校種を問わず広く応募してもらえようという実施要項とする。また、全国規模の大会やコンクールでの入賞数を数値目標に設定することで、継続性やプレゼンテーション技術の向上、さらには学校のニーズや社会の情勢に対応した魅力的な実施内容へと繋げる。</p>	
(単位:事例)																							
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																		
3	4	3			3																		

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況・評価、今後の取組方針																															
121	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 地方創生に貢献する人材の育成</p> <p>■ 学校間連携・生徒間協働による6次産業化教育の推進</p> <p>□ 6次産業化商品のプロデュース数(累計)(再掲:102)</p> 	<p>「6次産業化をプロデュースする人材」を育成するため、農業科、工業科、商業科設置高校等が連携し、それぞれの専門性を活かすことにより、6次産業化に対応した実践的な取組を行います。こうした取組の実証成果をもとに、全県下に普及を図ることで、専門高校の充実や6次産業化に対応した新たな教育を推進します。</p> <p>県下3地域において、県央部では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校の3校、県南部では「ゆこう」をテーマに、小松島西高校勝浦校、阿南光高校、富岡東高校の3校、県西部では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校の3校が学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化商品の開発を通して、生産・商品開発・加工・販売について取り組んだ。</p> <table border="1" data-bbox="459 481 523 1220"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">H31・R1</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> <th colspan="2">R4</th> <th colspan="2">達成率(R1)</th> <th colspan="2">目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>10</td> <td></td> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>84.6%</td> <td>13</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】県下3地域において、昨年までの連携活動及び商品の試作等を踏まえ、6次産業化商品(県央部：藍の洋菓子、県南部：ゆこうドラ焼き、県西部：アロマスプレー)について、地域の企業等との連携による商品化、県内外での販売実習、市場調査などを行うことで、実践的な6次産業化教育が展開できた。</p> <p>【課題】学校間連携による商品化では、生産量が限られていることから継続した販売は難しく、学校施設における製造の営業許可が限られていることから、新たな商品化を展開する上での制限がある。今後は、さらに地域や産業界と連携を強化し、地域に貢献できる地域ブランドとなり、継続的に販売できる商品となるための工夫が必要である。</p> <p>新たな地域資源をテーマとする商品開発の拡充、プロデュース商品の魅力化、生産方法・工程での改善、取組開拓等による事業の拡大・発展を図るため、学校間連携・生徒間協働活動の充実はもちろんのこと、より実践的・体験的な取組となるよう、地域や産業界等と連携を積極的に展開する。</p>	基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(R1)		目標値(R1)		7		10		11								84.6%	13	
基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(R1)		目標値(R1)																					
7		10		11								84.6%	13																						
121	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰帰」の促進	若者に よる未来	<p>■ 地方創生の原動力となる人材の育成</p> <p>■ 阿南光高校新キャンパスにおける徳島大学や企業との協働連携による地域資源を活用した研究開発や商 □ 地域の企業等で販売される6次産業化商品(再掲:102)</p>	<p>事業目的と令和2年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>項目121の修正成果指標 (令和3年度点検・評価対象)</p> <p>農工商教育の活性化を図るため、令和2年3月策定の「徳島県農工商教育活性化・魅力化方針」を踏まえ、高校における農工商教育の活性化に取り組みとともに、農工商が連携し、徳島ならではの地域資源を十分に生かした6次産業化教育を推進します。</p> <table border="1" data-bbox="1077 481 1141 1220"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">H31・R1</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> <th colspan="2">R4</th> <th colspan="2">達成率(R2)</th> <th colspan="2">目標値(R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td>6</td> <td></td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(R2)		目標値(R2)		—		—		—		3		6		9			3	
基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(R2)		目標値(R2)																					
—		—		—		3		6		9			3																						

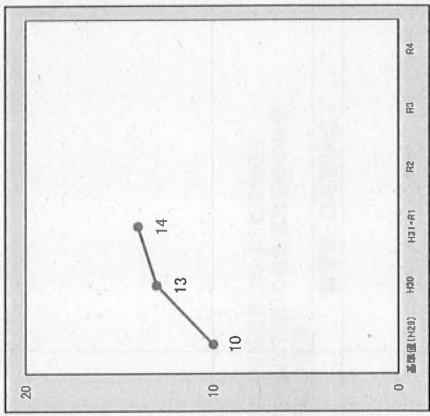
番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
122	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>本県産業を担う人材の育成 ■ 県内企業の魅力や技術の理解促進 □ 高校におけるインターンシップの実施率(全日制・定時制)(再掲:25)</p> <p>とくしま回帰の促進</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップの実施をはじめ、組織的・体系的なキャリア教育を推進し、学校での教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成に取り組めます。</p> <p>「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」(県内企業の会社代表による講演、研究発表等)を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">(単位:%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.6</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。</p> <p>【課題】普通科高校におけるインターンシップの拡大とともに、キャリア・パスポートの積極的な活用により、教育活動全体において組織的・体系的にキャリア教育を一層推進していく必要がある。</p> <p>各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実やキャリア・パスポート活用の推進を図る。</p>	(単位:%)		基準値(H29)	目標値(R1)	97.6	100	H30	100	H31・R1	100	R2	100.0%	R3	100	R4	100
(単位:%)																				
基準値(H29)	目標値(R1)																			
97.6	100																			
H30	100																			
H31・R1	100																			
R2	100.0%																			
R3	100																			
R4	100																			
123	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進 ■ 優秀な教員を確保するための、県内外の大学における教員採用に係る説明会の開催 □ 県内外大学における教員採用に係る説明会の開催数(再掲:69)</p> <p>とくしま回帰の促進</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>教員採用審査において、他県の現職教員を対象とした特別選考を実施するとともに、県外の大学と連携した採用審査に係る説明会の開催等、積極的な広報を展開することにより、本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進を図ります。</p> <p>中四国、近畿の大学を中心に、計24回の教員採用に係る説明会を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">(単位:回)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>114.3%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきた。その結果、志願者は平成29年度実施の採用審査では受審者が5年ぶりに増加するなど、着実に成果が表れた。</p> <p>【課題】説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4年生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1~3年生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならぬ。</p> <p>引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるような大学への働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やす。実施時期にも検討を加え、より効果的なものとなるよう改善を図る。</p>	(単位:回)		基準値(H29)	目標値(R1)	19	21	H30	20	H31・R1	24	R2	114.3%	R3	21	R4	21
(単位:回)																				
基準値(H29)	目標値(R1)																			
19	21																			
H30	20																			
H31・R1	24																			
R2	114.3%																			
R3	21																			
R4	21																			

番号	124	推進 項目 推薦の 方向性 復興を要する心の育成と「とくしま回帰」の促進	世界遺産登録への挑戦	■施策・□成果指標 四国八十八箇所霊場と遍路道 ■国史跡の追加指定等の計画的な推進 □札所寺院の国史跡追加指定に向けた意見具申	事業目的 世界遺産登録に向けた課題である資産保護のため、国史跡の追加指定等を計画的に進めるとともに、「顕著な普遍的価値」の証明に向けた取組を加速します。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針															
事業目的	取組状況(R1年度分)	〇札所寺院の総合調査：2カ寺 切幡寺（阿波市） 藤井寺（吉野川市） 〇遍路道調査：2カ所 藤井寺道 統山寺道（吉野川市） 〇「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会徳島県連絡協議会の開催	(単位：一) <table border="1" data-bbox="590 479 654 672"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>意見具申</td> <td>意見具申</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	意見具申	意見具申	推進	推進				推進	【令和元年度の成果】第4番札所大日寺境内、第5番普地蔵寺境内について、国史跡に追加指定された。 【課題】国史跡の追加指定のため「札所寺院」や「遍路道」の保護に係る取組を進めていく必要がある。 引き続き、札所寺院、遍路道の調査を進め、条件が整った案件から追加指定に向けて意見具申していくとともに、世界遺産登録に向けた研究と議論を深めていく。	評価 今後の取組方針
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
意見具申	意見具申	推進	推進				推進														
番号	124	推進 項目 推薦の 方向性 復興を要する心の育成と「とくしま回帰」の促進	世界遺産登録への挑戦	■施策・□成果指標 四国八十八箇所霊場と遍路道 ■国史跡の追加指定等の計画的な推進 □札所寺院の国史跡追加指定に向けた文化財調査箇所数(累計)	事業目的 世界遺産登録に向けた課題である資産保護のため、国史跡の追加指定等を計画的に進めるとともに、「顕著な普遍的価値」の証明に向けた取組を加速します。	事業目的と令和2年度の取組状況、評価、今後の取組方針															
事業目的	取組状況(R2)	〇「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会徳島県連絡協議会の開催	(単位：箇所) <table border="1" data-bbox="1085 479 1149 672"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R2)</td> <td>目標値(R2)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>32</td> <td>36</td> <td>40</td> <td></td> <td>32</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)	—	—	—	32	36	40		32	【令和2年度の取組状況】第4番札所大日寺境内、第5番普地蔵寺境内について、国史跡に追加指定された。 【課題】国史跡の追加指定のため「札所寺院」や「遍路道」の保護に係る取組を進めていく必要がある。 引き続き、札所寺院、遍路道の調査を進め、条件が整った案件から追加指定に向けて意見具申していくとともに、世界遺産登録に向けた研究と議論を深めていく。	評価 今後の取組方針
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R2)	目標値(R2)														
—	—	—	32	36	40		32														

番号	推進項目	実施の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針
125	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	徳島のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。	■「鳴門の渦潮」の世界遺産登録の推進 □世界遺産登録に向けた取組の推進	事業目的 徳島のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。	取組状況 「鳴門の渦潮」の文化的側面について、「顕著な普遍的価値」を証明するための学術調査を引き続き実施するとともに、新たに淡路島における文化的調査を開始した。また、これまでの調査結果をもとに「鳴門の渦潮」の「文化的価値のとりまとめ文書」を作成した。	評価 【令和元年度の成果】これまでの調査結果をもとにした「文化的価値のとりまとめ文書」の作成により、世界遺産登録に向けて「鳴門の渦潮」の価値を示すことができた。 【課題】「自然遺産」と「文化遺産」の今後の方向性について、引き続き兵庫県等関係機関と協議していく必要がある。	今後の取組方針 「世界遺産暫定一覧表」の記載に向け、令和元年度に本県及び兵庫県が作成した「文化的価値」・「自然的価値」のとりまとめ文書に対する国の見解等を踏まえ、「自然遺産」と「文化遺産」の今後の方向性について検討を開始する。
			■「鳴門の渦潮」講座の開催 □小・中学生向け講座の実施回数(累計)	事業目的 「鳴門の渦潮」について、自然的・文化的側面からの学術調査を進め、「鳴門の渦潮」が世界に誇る「顕著な普遍的価値」を証明するとともに、学術調査によって得られる様々な知見を、「鳴門の渦潮学」として児童生徒が学ぶ機会を設けることにより、地域の歴史や文化を理解し、徳島を愛する心の育成を図ります。	取組状況 「令和元年度の成果」 【令和元年度の成果】「鳴門の渦潮」について児童生徒が学ぶ機会を設けることで、地域の歴史や文化に対する理解を深め、徳島を愛する心の育成が図られた。	評価 【課題】新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、引き続き、児童生徒が学ぶ機会を県が主体的に作っていく必要がある。	今後の取組方針 「鳴門の渦潮」の歴史的・文化的価値を次世代に継承していくため、感染症対策を徹底しながら、地元・鳴門市の児童生徒はもとより、県内の児童生徒に対する普及啓発活動を実施していく。
126	徳島を愛する心の育成と「とくしま帰郷」の促進	徳島のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。	■「鳴門の渦潮」の世界遺産登録の推進 □世界遺産登録に向けた取組の推進	事業目的 徳島のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。	取組状況 「鳴門の渦潮」の文化的側面について、「顕著な普遍的価値」を証明するための学術調査を引き続き実施するとともに、新たに淡路島における文化的調査を開始した。また、これまでの調査結果をもとに「鳴門の渦潮」の「文化的価値のとりまとめ文書」を作成した。	評価 【令和元年度の成果】これまでの調査結果をもとにした「文化的価値のとりまとめ文書」の作成により、世界遺産登録に向けて「鳴門の渦潮」の価値を示すことができた。 【課題】「自然遺産」と「文化遺産」の今後の方向性について、引き続き兵庫県等関係機関と協議していく必要がある。	今後の取組方針 「世界遺産暫定一覧表」の記載に向け、令和元年度に本県及び兵庫県が作成した「文化的価値」・「自然的価値」のとりまとめ文書に対する国の見解等を踏まえ、「自然遺産」と「文化遺産」の今後の方向性について検討を開始する。
			■「鳴門の渦潮」講座の開催 □小・中学生向け講座の実施回数(累計)	事業目的 「鳴門の渦潮」について、自然的・文化的側面からの学術調査を進め、「鳴門の渦潮」が世界に誇る「顕著な普遍的価値」を証明するとともに、学術調査によって得られる様々な知見を、「鳴門の渦潮学」として児童生徒が学ぶ機会を設けることにより、地域の歴史や文化を理解し、徳島を愛する心の育成を図ります。	取組状況 「令和元年度の成果」 【令和元年度の成果】「鳴門の渦潮」について児童生徒が学ぶ機会を設けることで、地域の歴史や文化に対する理解を深め、徳島を愛する心の育成が図られた。	評価 【課題】新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、引き続き、児童生徒が学ぶ機会を県が主体的に作っていく必要がある。	今後の取組方針 「鳴門の渦潮」の歴史的・文化的価値を次世代に継承していくため、感染症対策を徹底しながら、地元・鳴門市の児童生徒はもとより、県内の児童生徒に対する普及啓発活動を実施していく。



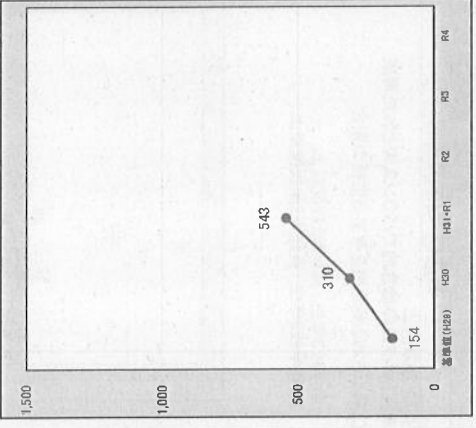
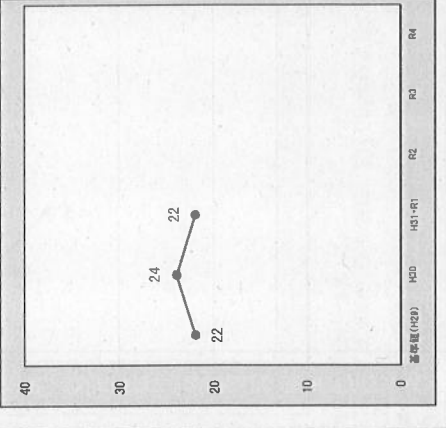
番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・口成果指標	事業目的	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針
127	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	世界遺産登録への挑戦	■ 施策・口成果指標 坂東俘虜収容所関係資料 ■「坂東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録に向けた取組の推進 □「世界の記憶」登録に向けた取組の推進	事業目的 「坂東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録を推進するため、シンポジウムを開催するなど、機運醸成の取組を継続します。また、高等学校等での出前授業の開催やVRデジタルコンテンツ等を活用して、我が国が世界に誇るべき坂東俘虜収容所の歴史が持つ魅力を、国内はもとより世界に向けて発信します。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 「坂東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録を推進するため、シンポジウムを開催するなど、機運醸成の取組を継続します。また、高等学校等での出前授業の開催やVRデジタルコンテンツ等を活用して、我が国が世界に誇るべき坂東俘虜収容所の歴史が持つ魅力を、国内はもとより世界に向けて発信します。
				取組状況 (R1年度分)	○「坂東俘虜収容所」の世界展の実施（会場：県立博物館）令和元年12月12日（木）～令和2年1月19日（日） 来場者数 2,503名 ○ICOM（国際博物館会議）京都大会2019におけるブース展示の実施（会場：国立京都国際会館アネックスホール） 令和元年9月2日（月）～4日（水） 来場者数 582名 ○PRパンフレットの作成・出張授業の実施 年2回（令和元年6月5日、7月17日）
				評価	【課題】新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、引き続き、情報発信に努め、ユネスコへの登録申請準備を進めていく必要がある。 【令和元年度の成果】特別展示には多くの来場者があったほか、多言語化した広報資料については、ドイツ国内6都市を巡回する巡回展で活用いただくなど、広く県内外に「坂東俘虜収容所関係資料」の情報を発信すること、で、「世界の記憶」登録に向けた気運の醸成が図られた。
				今後の取組方針	【課題】新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、引き続き、情報発信に努め、ユネスコへの登録申請準備を進めていく必要がある。 令和2年度は、感染症対策を徹底しながら、展示会は県内で実施し、より多くの方に周知啓発でき、自宅や学校で利用可能な、Webによる関連資料の情報提供や、教材開発やマニュアルの作成による周知・広報を継続していく。登録申請については、ユネスコの動向を勘案しながら準備を進める。
128	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体験できる環境づくり	■ 施策・口成果指標 英語力の向上 ■新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るための、小学校英語専科教員の配置促進 □小学校英語専科教員の配置人数	事業目的 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の充実を図り、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成を推進するため、小学校における英語専科教員の配置を促進します。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の充実を図り、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成を推進するため、小学校における英語専科教員の配置を促進します。
				取組状況 (R1年度分)	○小学校において英語専科教員を14名配置し、37校で指導を行った。 ○英語教育に関する校内研修の中核としての役割を担うとともに、複数校で兼務することで、より多くの児童への質の高い学びの機会を提供することができた。
				評価	【令和元年度の成果】英語免許取得者を配置することで、質の高い学びの機会を提供することができた。また、学力面での、中一ギャップの解消の一助となった。
				今後の取組方針	【課題】小学校教諭の中に、英語免許等、英語専科教員に求められる所定の資格保有者が少ないことや、小規模校の多い本県では単独校への配置が少なく、英語専科教員の多くが複数校を兼務しており、負担が大きいため、小学校教諭を目標とする者が、英語専科教員に求められる所定の資格を取得するよう、大学等の関係機関に働きかける。また、小学校英語教育の充実を図るため、小学校教員採用審査受審者の資格保有者の増加を目指すとともに、中学校英語教員の小中学校間の人事交流を継続して進め、計画的な英語専科教員の配置を推進する。



基準値(H29)	H30	H31-R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)
10	13	14				100.0%	14

(単位：人)

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
129	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体験できる環境づくり	<p>事業目的 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の充実を図り、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成を推進するため、小学校教員の専門性向上のための研修を充実します。</p> <p>事業目的 「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」を継続し、小学校外国語教育を発展・充実させる上での課題や小学校外国語教育に携わる教員の不安要素についてサポートを行った。小学校教員の英語力及び指導力向上に特化した「やっやっやっ！発音トレーニング＆授業改善」を実施し、各基本研修においては模擬授業や演習等を実施するなど、小学校教員の英語力及び指導力の向上と授業改善を図った。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td>946</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>114.0%</td> <td>830</td> </tr> </table> <p>(単位：人)</p> <p>【令和元年度の成果】学習指導要領全面実施に向けた移行期間の最終年度ということで、多くの学校から「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」の要請があった。指導主事の模擬授業や演習を通して、授業改善について具体的なイメージをつかみ、体験的に理解を深めることができ、英語指導力向上につながった。</p> <p>【課題】学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された外国語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負擔軽減も考えながら実施することが必要である。</p> <p>今後の取組方針 県内全ての教員が学習指導要領のねらいを踏まえた授業を実施できるように、教科書を活用した授業改善についての研修を実施する。また、地理的時間的にセンター開催の研修に参加しづらい教員のために、引き続き「駆けつけます！出前！小英ヘルプデスク」で英語教育のさらなる充実のためにサポートを行う。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	436	679	946				114.0%	830								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
436	679	946				114.0%	830																				
130	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体験できる環境づくり	<p>事業目的 小・中・高等学校において英語教育の指導改善を図るため、各学校における学習到達目標を「CAN-Dオリスト」形式で具体化し、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組む、児童生徒の英語力向上を図ります。</p> <p>事業目的 「CAN-Dオリスト」形式の学習到達目標について、小学校に関して、令和2年度からの新学習指導要領全面実施の前に、県教育委員会の作成例や校区の中学校のCAN-Dオリストを参考に、初めて全校で設定した。中・高等学校では全校で設定済みであり、各校による公表や達成状況の把握を進めている。中学校では、「世界スタンダード英語4技能育成事業」において授業改善を促し、また高校では指導力向上の研修実施に加えディベートの研修・大会実施の支援を行うことで、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>47</td> <td>52</td> <td>49</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>89.1%</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>41</td> <td>45</td> <td>47</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>85.5%</td> <td>55</td> </tr> </table> <p>(単位：%)</p> <p>【令和元年度の成果】「CAN-Dオリスト」形式の学習到達目標を小学校において初めて設定し、小中高で一貫した目標のもと指導のPDCAサイクルの構築を図る基盤ができた。中・高においては「CAN-Dオリスト」形式の学習到達目標活用促進や、言語活動とパフォーマンススターストのさらなる充実を、教員の指導力向上を図る事業を継続的に実施した。</p> <p>【課題】中学校においては、英語4技能のバランスのとれた育成に向けて更なる授業改善に取り組むことに課題が残った。また、校種間の連携を深め、連続性・発展性のある「CAN-Dオリスト」形式の学習到達目標を設定することが必要である。</p> <p>【CAN-Dオリスト】については、中学校では、校区の小学校の形式の学習到達目標を参考に、小中連携を図りながら、新学習指導要領に対応した学習到達目標を改めて設定する。高等学校においても、令和2年度から移行する新学習指導要領に沿った改訂に向けて準備を進め、指導と評価の更なる一体化を目指す。また、4技能指導のPDCAサイクル促進のため、「世界スタンダード英語4技能育成事業」の取組みやその成果を研修会やホームページ等で広く普及し、授業改善につなげる。</p> <p>今後の取組方針</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	47	52	49				89.1%	55	41	45	47				85.5%	55
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																				
47	52	49				89.1%	55																				
41	45	47				85.5%	55																				

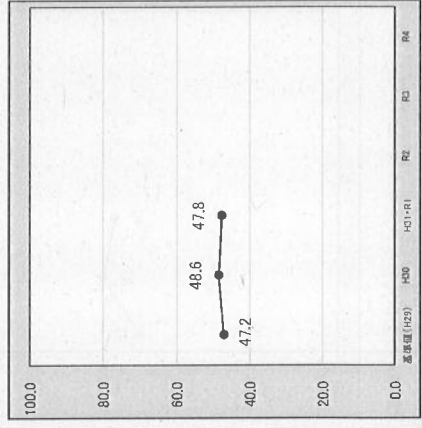
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度分)	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針
131	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>生きた英語に触れる機会の創出 ■ 発達段階に応じた生きた英語に触れる機会の創出 □ 児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数(累計)</p>  <p>基礎値(H29) 154 H30 310 H31・R1 543 R2 R3 R4 達成率(R1) 105.6% 目標値(R1) 514</p> <p>(単位:人)</p>	<p>【令和元年度の成果】小学校外国語教育の早期化を受け、新たに小学校3・4年生と保護者を対象にした英語体験活動を実施し、小学校3年生から高校生の児童生徒に、外国人と交流してきた英語を使う機会を提供した。中学生対象の事業については、悪天候を受けないよう予備日を設けるため年間3回から1回に減じ1回の募集定員を増やし、プログラムを業者委託した。高校生対象の事業は通学型と宿泊型の2つを実施し、参加者のニーズに合わせて選択できるようにした。全ての学習段階において、児童生徒が徳島県の魅力を再発見し、その感動を外国人と共有することを促すような、特色のある内容のプログラムを実施することができた。</p> <p>【課題】中学生対象の「世界に飛び出せ！イングリッシュ・キャンプ事業」において、令和元年度から実施回数を3回から1回に減じたが、応募者が募集定員に満たなかった。今後、募集方法や実施日程等について見直しと改良を図り、より参加者のニーズに応えられるようにする必要がある。</p> <p>今年度より本格実施されている小学校3・4年生の外国語活動を見据え、小学校3・4年生向けに新たに英語で外国人と交流し、世界を体感する場を提供するとともに、中学生・高校生向けの内容も改良に向けて検討を進めることを予定している。また、悪天候や異常気象の影響を受けにくい運営を考えると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により海外大学生の招へい等が難しいため、県内ALTなど確保できる人材で対応していく。</p>	
132	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>グローバル・リーダーの育成 ■ 持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・ □ 海外の学校等との交流校延べ数(中学・高校)</p>  <p>基礎値(H29) 22 H30 24 H31・R1 22 R2 R3 R4 達成率(R1) 84.6% 目標値(R1) 26</p> <p>(単位:校)</p>	<p>【令和元年度の成果】継続している姉妹校やパートナーシップ協定締結校との交流に加え、新しくドイツ・ニーダーザクセン州との交流を始められるよう経費支援を行ったことで、交流する学校が増えた。年度末に予定されていた海外の学校への訪問が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、複数件中止となった。</p> <p>【課題】受入れにあたっては授業・学校行事の調整やホストファミリーの見つけ方にくさなど、学校・地域によってそれぞれの課題があり、受入れにかかる予算は今まで以上に効率的に活用していく必要がある。また訪問にあたっては、キャンセル料が発生した場合の対応など前もって学校との共通理解を図る必要がある。</p> <p>交流に関わる費用については、事業の内容についての周知を徹底し積極的に活用してもらおう。新型コロナウイルス感染症対策に伴う各国の出入国制限については、常に最新の情報を提供し、安心・安全な学校間交流を実施していくとともに、オンラインでの交流も視野に入れ、交流の活性化や拡大を目指す。</p>	
			<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>「教育交流に関する協定」を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州や台湾、新竹市など、海外の学校からの教育旅行の受入や学校間のパートナーシップ協定締結等を促進することにより、教育、文化、スポーツ等の幅広い分野において児童生徒の交流の機会を拡充し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚の育成を推進します。</p> <p>海外の学校とのパートナーシップ協定に基づく学校間交流やアジア諸地域等からの教育旅行を受入れた。 海外からの訪問を受け入れた学校数 14校 海外の学校等へ訪問した学校数 8校</p>	<p>事業目的</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	

番号	133	推進項目	<p>世界に羽ばたくグローバル人材の育成</p>	<p>徳島発、世界を体感できる環境づくり</p>	<p>■施策・□成果指標 帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導 ■日本語講師の派遣や指導者研修会の開催による、帰国・外国人児童生徒に対する教育支援 □学校への日本語講師の派遣</p>	<p>事業目的</p>	<p>大学や各種団体等とのネットワークを構築すること、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。また、市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行う体制を早期に築くことで、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適応し、学力を向上させることができるよう支援するとともに、帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことにより、学習活動の工夫・改善に取り組みます。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>大学や各種団体等とのネットワークを構築すること、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。また、市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行う体制を早期に築くことで、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適応し、学力を向上させることができるよう支援するとともに、帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことにより、学習活動の工夫・改善に取り組みます。</p>		
取組状況	(R1年度分)	<p>取組状況</p>	<p>要望があった学校へ日本語講師を派遣し、日本語指導が必要な児童生徒への効果的な日本語教育を行うため、保護者や教員向けのホームページについて「特別な教育課程についてのページを新設し、各種資料を掲載するなど更新・拡充を行った。</p>	<p>日本語講師派遣指導者研修会</p>	<p>支援要請に対する充足率100%</p>	<p>年2回開催</p>	<p>【令和元年度の成果】市町村と連携した日本語講師派遣事業の実施については、年度途中での申請を含め支援要請があった全ての学校に対して講師及び通訳を派遣することができた。また、大学や各種団体と連携すること、教員や日本語講師対象の研修会の質を高めることができた。</p>	<p>評価</p>	<p>【課題】県央部を中心に年々支援要請が増加していることや、入管法改正を受け、今後更に外国人児童生徒の増加も見込まれるため、一層の支援体制の充実が必要である。県西部や県南部の学校からの支援要請に対して派遣できる日本語講師が少なく、講師の安定的な確保に課題がある。</p>	<p>今後の取組方針</p>	<p>増加する日本語指導の支援要請に対応するため、国費事業の活用を含めて予算の拡大を検討し、支援の充実を図る。大学や各種団体等とのネットワークを生かすとともに、地域の国際交流協会等とも連携しながら日本語講師の確保に努める。</p>
番号	134	推進項目	<p>世界に羽ばたくグローバル人材の育成</p>	<p>徳島発、世界を体感できる環境づくり</p>	<p>■施策・□成果指標 帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導 ■日本語講師の派遣や指導者研修会の開催による、帰国・外国人児童生徒に対する教育支援 □学校への日本語講師派遣申請者に対する派遣充足率</p>	<p>事業目的</p>	<p>大学や各種団体等とのネットワークを構築すること、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。また、市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行う体制を早期に築くこと、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適応し、学力を向上させることができるよう支援するとともに、帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことにより、学習活動の工夫・改善に取り組みます。</p>	<p>事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>【令和元年度の成果】市町村と連携した日本語講師派遣事業の実施については、年度途中での申請を含め支援要請があった全ての学校に対して講師及び通訳を派遣することができた。また、大学や各種団体と連携すること、教員や日本語講師対象の研修会の質を高めることができた。</p>	<p>今後の取組方針</p>	<p>増加する日本語指導の支援要請に対応するため、国費事業の活用を含めて予算の拡大を検討し、支援の充実を図る。大学や各種団体等とのネットワークを生かすとともに、地域の国際交流協会等とも連携しながら日本語講師の確保に努める。</p>

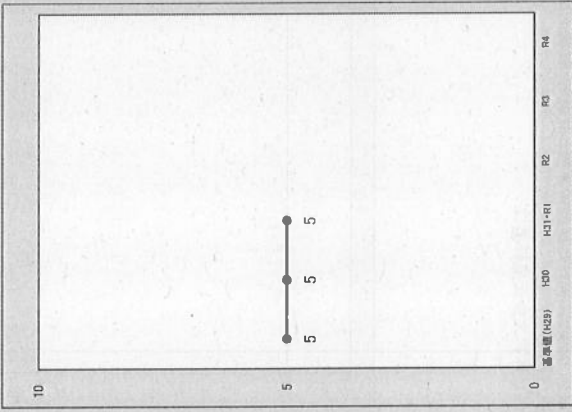
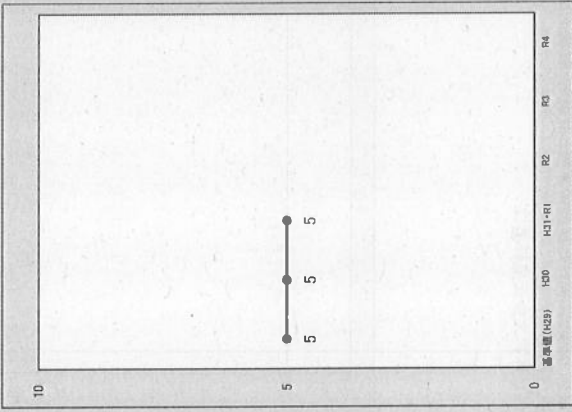
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
134	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	科学の魅力を実感し、世界に挑戦	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>科学技術の未来を切り拓く人材の育成 ■ 理数系の学習を牽引する高校生の育成 <input type="checkbox"/> 国際科学オリンピック講習会の参加者数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>(単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>220</td> <td>222</td> <td>236</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.6%</td> <td>230</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】平成30年度と同様に、ジュニアドクター受講生の小中学生も一部の講座に参加した。参加者には若干の増加が見られた。しかし、地学講習会の参加者がここ3年で連続して減少している。参加者に実施したアンケート結果では前向きな回答がほとんどであるので、広報について工夫する必要があると考える。</p> <p>【課題】講習会によって参加人数に差があり、特に後半に実施している地学と物理の講習会への参加者が少ない。また、実験室の広さ等の関係で、参加人数を増やすことができない講座もある。地学講習会への参加者を増やす手立てが必要である。</p> <p>【今後の取組方針】教員の研修会や生徒が参加する講習会等で、これらの講座が高校生の主体的取組を育成する機会としても有効であることを広く周知する。また、新型コロナウイルス感染症への対策を講じて、この講習会が今後も安全に実施できるような方策について検討する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	220	222	236				102.6%	230
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
220	222	236				102.6%	230												
135	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	科学の魅力を実感し、世界に挑戦	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>科学技術の未来を切り拓く人材の育成 ■ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の取組の研究成果の県内各高校への普及 <input type="checkbox"/> SSH合同発表会への参加校数(再掲:7)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>(単位：校)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】平成30年度は新しい試みとして、城東高校のスーパードクタープログラムハイスクールとしての成果発表を合同で行った。令和元年度はジュニアドクター養成講座で学ぶ小中学生も参加する方向で調整を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休業により発表会は中止となり、これらの新しい試みを成果として残すことはできなかった。</p> <p>【課題】少人数で取り組んでいる科学系の部活動がいくつかがあるが、それらの部活動が継続できるような支援が必要である。また、理数科を設置している学校の課題研究を活性化するために、SSHの研究発表を普及させる必要がある。加えて、感染症対策を実施しながら発表会を開催する方法について検討する必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】新学習指導要領で示されているように、理数系科目における探究活動は重要であり、授業の中で実施していく必要があることを周知するとともに、SSH生徒合同発表会への参加を促していく。また、感染症対策を実施しながら発表会を開催する方法について全国SSH発表会も参考にしながら検討する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	7	中止				-	7
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
5	7	中止				-	7												

番号 136	推薦項目 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	推薦の方向性 科学の魅力を実感し、世界に挑戦	事業目的 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。 取組状況（R1年度分） 鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味を持ち、将来の科学技術者としての人材の発掘・養成を行った。 評価 【課題】県内の児童・生徒の理数・技術（情報）領域の資質・能力の育成とともに、取組の成果の普及を必要とする必要がある。 今後の取組方針 初等中等教育段階から継続的に理数・技術（情報）領域に優れた児童生徒を育成していくため、広報活動を積極的にを行い、事業の内容を説明するなど、児童生徒が参加しやすくなるよう支援を行う。
番号 137	推薦項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	推薦の方向性 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	事業目的 2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、全国大会等で活躍する運動部の育成・強化に努めるとともに、各競技の底辺拡大により選手確保を図ります。 取組状況（R1年度分） 「NEO徳島トップススポーツ強化事業」において、公立高校24校の45部を指定し、指導者の配置や、指定校による有力選手の確保、遠征費等の強化費等の中学生対象の合同練習・講習会等、中学校との連携活動支援を行ったほか、「中学校トップススポーツ競技育成事業」において競技専門部を対象として、中学から高校へ継続して選手を発掘、育成、強化する取り組みを実施した。 評価 【令和元年度の成果】全てのNEO徳島トップススポーツ校指定部において、中学校との連携活動を実施し、中学校から高校へ継続した指導の体制強化が図られた。 【課題】中学生が高校で継続して競技に取り組んだり、高校で新たな競技に挑戦するため、高校の運動部活動の魅力発信の機会が必要である。また、中学生で各競技の優秀選手が20名程度、県外の高校に進学しており、県外流出を防ぐために、NEO徳島トップススポーツ校指定部の中学校との連携活動の更なる工夫が必要である。 今後の取組方針 NEO徳島トップススポーツ校強化事業において、中学校には無しの部活動や、新たな競技を知る機会として、競技団体とトップススポーツ校が連携して中学生対象の講習会や体験会を実施し、競技人口の拡大を図る。

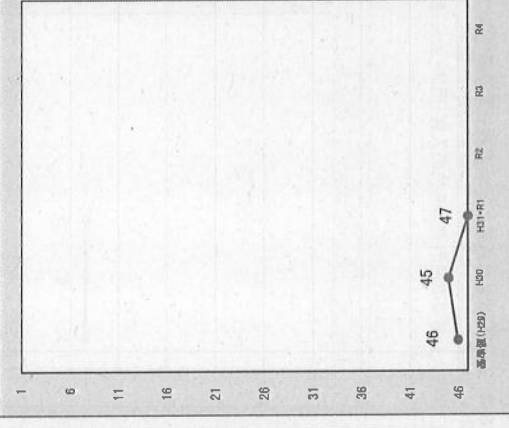
番号 136	推薦項目 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	推薦の方向性 科学の魅力を実感し、世界に挑戦	事業目的 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。 取組状況（R1年度分） 鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味を持ち、将来の科学技術者としての人材の発掘・養成を行った。 評価 【課題】県内の児童・生徒の理数・技術（情報）領域の資質・能力の育成とともに、取組の成果の普及を必要とする必要がある。 今後の取組方針 初等中等教育段階から継続的に理数・技術（情報）領域に優れた児童生徒を育成していくため、広報活動を積極的にを行い、事業の内容を説明するなど、児童生徒が参加しやすくなるよう支援を行う。
番号 137	推薦項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	推薦の方向性 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	事業目的 2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、全国大会等で活躍する運動部の育成・強化に努めるとともに、各競技の底辺拡大により選手確保を図ります。 取組状況（R1年度分） 「NEO徳島トップススポーツ強化事業」において、公立高校24校の45部を指定し、指導者の配置や、指定校による有力選手の確保、遠征費等の強化費等の中学生対象の合同練習・講習会等、中学校との連携活動支援を行ったほか、「中学校トップススポーツ競技育成事業」において競技専門部を対象として、中学から高校へ継続して選手を発掘、育成、強化する取り組みを実施した。 評価 【令和元年度の成果】全てのNEO徳島トップススポーツ校指定部において、中学校との連携活動を実施し、中学校から高校へ継続した指導の体制強化が図られた。 【課題】中学生が高校で継続して競技に取り組んだり、高校で新たな競技に挑戦するため、高校の運動部活動の魅力発信の機会が必要である。また、中学生で各競技の優秀選手が20名程度、県外の高校に進学しており、県外流出を防ぐために、NEO徳島トップススポーツ校指定部の中学校との連携活動の更なる工夫が必要である。 今後の取組方針 NEO徳島トップススポーツ校強化事業において、中学校には無しの部活動や、新たな競技を知る機会として、競技団体とトップススポーツ校が連携して中学生対象の講習会や体験会を実施し、競技人口の拡大を図る。



番号	推進項目	推進の方向性	実施の方向性	事業目的	取組状況 (R1年度)	取組方針															
138	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■施策・□成果指標 競技力の向上 ■各競技の底辺拡大と国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成 □全国高等学校体育大会等の入賞(団体・個人)数 	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 2022年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。 【令和元年度の成果】「全国高等学校総合体育大会」で個人・団体合計14、「国民体育大会」で個人・団体合計21、「全国高等学校射撃競技選手権大会」で個人・団体合計5で40の入賞結果となった。前年度に比べ、以上の4大会での合計入賞数は3増加した。その他の全国選手権大会、選抜大会等では、個人・団体で合計31の入賞があり(前年度24)、ウェイトリフティングやライフル競技等、継続して成果を出せる競技が着実に育成されている。 【課題】全国高校総体や国民体育大会等の全国大会において、入賞できる競技が個人競技を中心に固定化されつつあり、新たな「お家芸競技」の創出や団体競技の強化を図る必要がある。 引き続き「渦潮スポーツアカデミー推進事業」により、鳴門渦潮高校の施設・設備を活用して県内選手の底上げを図るとともに、「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」において中学校との連携活動を推進し、新たな「お家芸競技」の創出や団体競技の強化をめざし、有力な中学生を県内で中長期的に指導育成する仕組みづくりに取り組む。	<table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>47</td> <td>37</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>80.0%</td> <td>50</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	47	37	40				80.0%	50
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
47	37	40				80.0%	50														
139	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■施策・□成果指標 競技力の向上 ■各競技の底辺拡大と国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成 □全国中学校体育大会の入賞(団体・個人)数 	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、早い段階での有力選手の発掘・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で中学校段階での指導体制強化を図ります。 【令和元年度の成果】個人7の入賞の成果があった。ベスト16には、7つの団体・個人が勝ち上っており、入賞まであと一歩の状態に迫っている。 【課題】中学校スポーツ各競技育成事業により、県中体連と連携し、7つの競技専門部(陸上競技、新体操、弓道、柔道、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール)を指定して、強化練習、指導者講習、強化合宿等に係る助成や支援を行った。また「あわさスポーツ・ブルーミング戦略事業」により、中体連加盟20競技において、補助金を配分し、強化練習会、指導者講習会等に係る助成を行った。 (単位:個人・団体) <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>53.8%</td> <td>13</td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	5	7				53.8%	13	【令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針】 引き続き、県中体連競技専門部と連携し、トップスポーツ競技の育成を推進する。(今年度の指定競技:陸上競技、新体操、弓道、柔道、バスケットボール、ソフトボールの7競技)また、あわさスポーツ・ブルーミング戦略事業においても、中体連加盟競技に補助金を配分し支援を行う。中体連と連携し、県市単位で実施している県予選を県下を6ブロック程度に分け実施できるよう再編を進め、合同チーム編成の範囲を広げ、団体競技の競技力向上につながる環境整備を進める。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)														
5	5	7				53.8%	13														

審判 項目 世界の 方向性	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■ 施策・口成果指標 競技力の向上 ■ 専門満潮高校を拠点校とした、高度で質の高いスポーツ教育による、本県スポーツ科学の普及・振興 □ 全国大会等での専門満潮高校の入賞(団体・個人)数(再掲:3) 	事業目的 スポーツ分野のリーディングアスリート科学サポート事業として、最新の呼吸ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県ト レナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士 が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的なサポートを行い、受 講者は241人に達した。 2. 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理 論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。 3. スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケケット、硬式野球、陸上競 技、柔道、女子テニス、男女ウエイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。 4. Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実 施した。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 スポーツ分野のリーディングアスリート科学サポート事業として、最新の呼吸ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県ト レナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士 が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的なサポートを行い、受 講者は241人に達した。 2. 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理 論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。 3. スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケケット、硬式野球、陸上競 技、柔道、女子テニス、男女ウエイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。 4. Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実 施した。 (単位:団体・個人) <table border="1" data-bbox="853 481 909 1220"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 【令和元年度の成果】県大会レベルでは専攻実技8種目のうち5種目が優勝しており、全国では、女子ラグ ビーが団体や女子セブンズ等において活躍したほか、陸上競技は前年度から継続して入賞する競技として育 成、強化が図られた。 【課題】全国大会で入賞した専攻実技の競技は2競技で、残りの入賞3は専攻実技以外の部となっている。全 国大会で安定して上位の成績を残し、今後さらに成果を上げるためには、専攻実技8競技の更なる強化が必要 であり、指導力スキルアップ事業により、技術面やメンタル面での更なる指導力の向上と、ユースアスリー ト科学サポート事業による、個々の選手の競技力の向上が求められる。 指導力スキルアップ事業で、科学的理論に基づいた指導法や体力作りに関する研修会を開催し、指導力の 向上を図る。また、ユースアスリート科学サポート事業により、選手の体力面の課題を明らかにし、個々の 選手に必要な体力トレーニング指導を行うことで、競技力の向上を図る。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	5	5	5			100.0%	5
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
5	5	5	5			100.0%	5													
審判 項目 世界 方向性	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■ 施策・口成果指標 競技力の向上 ■ 専門満潮高校を拠点校とした、高度で質の高いスポーツ教育による、本県スポーツ科学の普及・振興 □ 全国大会等での専門満潮高校の入賞(団体・個人)数(再掲:3) 	事業目的 スポーツ分野のリーディングアスリート科学サポート事業として、最新の呼吸ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県ト レナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士 が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的なサポートを行い、受 講者は241人に達した。 2. 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理 論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。 3. スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケケット、硬式野球、陸上競 技、柔道、女子テニス、男女ウエイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。 4. Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実 施した。	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針 スポーツ分野のリーディングアスリート科学サポート事業として、最新の呼吸ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県ト レナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士 が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的なサポートを行い、受 講者は241人に達した。 2. 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理 論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。 3. スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケケット、硬式野球、陸上競 技、柔道、女子テニス、男女ウエイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。 4. Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実 施した。 (単位:団体・個人) <table border="1" data-bbox="853 481 909 1220"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 【令和元年度の成果】県大会レベルでは専攻実技8種目のうち5種目が優勝しており、全国では、女子ラグ ビーが団体や女子セブンズ等において活躍したほか、陸上競技は前年度から継続して入賞する競技として育 成、強化が図られた。 【課題】全国大会で入賞した専攻実技の競技は2競技で、残りの入賞3は専攻実技以外の部となっている。全 国大会で安定して上位の成績を残し、今後さらに成果を上げるためには、専攻実技8競技の更なる強化が必要 であり、指導力スキルアップ事業により、技術面やメンタル面での更なる指導力の向上と、ユースアスリー ト科学サポート事業による、個々の選手の競技力の向上が求められる。 指導力スキルアップ事業で、科学的理論に基づいた指導法や体力作りに関する研修会を開催し、指導力の 向上を図る。また、ユースアスリート科学サポート事業により、選手の体力面の課題を明らかにし、個々の 選手に必要な体力トレーニング指導を行うことで、競技力の向上を図る。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	5	5	5	5			100.0%	5
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
5	5	5	5			100.0%	5													

担当課 体育学校安全課

番号	推進項目	実施の方向性	<p>■ 施策・口成果指標</p> <p>競技力の向上 ■ 競技力向上に向けた課題の掌握と計画的・継続的な事業展開 □ 国民体育大会天皇杯順位</p>  <p>世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり</p> <p>国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成</p>	事業目的	<p>2019年から2021年にかけて開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマズスターズゲーム2021関西）を一過性のものとせず、競技力向上に向けての課題を掌握し、それぞれに対応した事業の開設・集約を行うなど計画的・継続的な事業展開を図り、団体順位30位台を目指します。</p> <p>「東京オリンピック・パラリンピック徳島未来創造基金」を活用し、団体入賞に向けた強化を図る「オリンピック・国体チャレンジャー事業」、有望選手を指定して育成強化費を助成する「オリンピック・国体選手育成事業」、有力な県内企業及び大学の運動部が行う練習会や遠征等を支援する「企業・大学スポーツ支援事業」、団体順位向上のための備品整備に対し助成する「国体バトックアップ事業」、ジュニア世代からの一貫した強化に対し助成する「徳島育ち競技力向上プロジェクト」、スポーツコーディネーターを競技者、指導者、メンタルトレーナーなどとして活用する「スポーツコーディネーター活用事業」、国体直前強化合宿、メンタルトレーニングなどの医科学サポート、講演会及びトレナー派遣等を行う「競技スポーツ重点強化対策事業」を実施した。</p> <p>また、「いきいき茨城ゆめ国体2019」終了後、各競技団体にに対してヒヤリングを実施し、課題の抽出や分析を行うとともに、強化策の検討を行った。</p>
141				取組状況 (R1年度分)	<p>【令和元年度の成果】「いきいき茨城ゆめ国体2019」では、本県選手団の獲得点は614点で、9年前（H22年）の千葉国体以来、最も高い点数となったが、天皇杯は47位、皇后杯は45位であった。しかしながら、優勝は、ここ10年で最も多い9種目に上ったのをはじめ、2位が5種目、3位が2種目と、12の競技で入賞総数が37種目となり、個人種目を中心に競技力の向上が進んでいる。</p> <p>【課題】高得点が期待できる団体競技の入賞数が4種目と、昨年の8種目から半減したことに加え、接戦での勝負弱さが露呈し、あと一歩で入賞を逃した種目が多かった。</p> <p>R2年度から3年間で抜本的な対策を戦略的かつ重点的に展開するため、以下の事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体競技の強化遠征等に対する支援拡充 ・実績を残している企業・大学や有望選手に対する支援拡充 ・優秀な選手や指導者確保に向けた、県内企業とのマッチング支援やジュニア世代の人材発掘 ・接戦を勝ち抜くサポート体制の構築 ・本大会を想定した競技備品等の整備 <p>さらにトップ指導者から優れた素質を有する競技者を発掘し、一貫指導体制によるトップレベルの競技者育成並びにトップ指導者の養成に努めるとともに、元オリンピック選手等による講習会の開催により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の強化を推進する。</p>
				評価	
				今後の取組方針	

担当課 スポーツ振興課

番号	推進項目	推進の方向性	施策・口成果指標	事業目的	取組状況 (R1年度分)	評価	今後の取組方針															
142	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■ 施策・口成果指標 競技力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 国際スポーツ大会における本県からの選手輩出 <input type="checkbox"/> 東京2020オリンピック・パラリンピック及びびテフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者数(累計)	東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会に向けて、本県からの選手輩出に努めます。 「東京オリンピック・パラリンピック徳島未来創造基金」を活用して、オリンピック等国際大会への県選手の輩出に向けた「オリンピック・国体チャレンジャー事業」、有望選手を指定して育成強化費を助成する「オリンピック・国体選手育成事業」、有力な企業や大学の運動部への強化費を助成する「企業・大学スポーツ支援事業」、練習環境の充実により、質の高い練習を通して競技力を高めることに繋げる「国体バスケアクト事業」等を実施することにより、国内トップ選手育成強化を推進した。県ゆかりのパラアスリートに対して、国際大会出場経費・合宿参加費用等の助成を行った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>14人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> (単位:人)	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R2)	-	-	-	-	14人	-	-	-	【令和元年度の成果】 助成対象選手が、国内外の大会で顕著な成績を収めるとともに、日本代表としての活躍も見られるなど、事業成果が着実に現れている。 【課題】 次世代トップアスリートが県内で活躍できる環境作りとともに、県内パラアスリートの更なる競技力の向上が必要である。 今後、活躍が期待できる選手への支援を効果的に行うとともに、各競技団体と連携し、指導者の育成、競技環境の向上等を計画的に行う。障がい者スポーツに関する人材バンクを創設し、障がい者スポーツ指導者等を派遣する取組みを通じて、障がい者スポーツの裾野の拡大及び競技力の向上に取り組む。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R2)															
-	-	-	-	14人	-	-	-															
143	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	■ 施策・口成果指標 競技力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 女性アスリートの競技力向上と競技生活の延伸と活躍機会の創出 <input type="checkbox"/> 女性アスリート支援セミナーの開催	女性アスリート特有の課題に対して、医科省サポートを中心とした支援プログラムとサポート体制を構築することにより、競技力の向上はもとより、女性アスリートの競技生活の延伸や活躍機会の創出を図りま	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>8</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> (単位:回)	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	-	8	4				100.0%	4	【令和元年度の成果】 女性アスリート特有の課題に対して、共通理解を深めるとともに、女性アスリートの競技力の向上、競技生活の延伸や活躍機会の創出に関する理解を広げることができた。 ドイツ・ニーダーザクセン州の女性トップ指導者を招き、「女性アスリート・指導者向けワークショップ」、「日独女性スポーツリーダーシップ」を開催した。また、トップアスリートや指導者を招いた実技指導「女子U10-15ソフトボールミックス」を開催した。また、「女子U13-14バスケケットボールトップアスリート養成講習会」を開催した。 【課題】 参加した指導者並びに選手においては、女性アスリート特有の課題に対し、一定の理解が得られているが、今後も引き続きセミナー等を開催し、より多くの指導者や選手に正しい知識・情報の提供を行っていく必要がある。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)															
-	8	4				100.0%	4															

番号	推進項目	事業の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
144	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>事業目的 文化芸術分野のリーディングハイスクールである名西高校において、芸術を学ぶ生徒の技術力向上を図ります。また、同校と芸術家等との連携を深めるなど多岐にわたる文化芸術活動の推進に努め、その成果を県内外に発信します。</p> <p>取組状況 (R1年度分) プロの芸術家や芸術系大学教員等による定期的な講習会を延べ31講座実施し、生徒のスキルアップと、教員の指導力を強化するとともに、地域の施設等での作品の展示会を開催し、地域全体の文化芸術に対する気運を高めた。 令和元年度の全国コンクール等での名西高校の入賞 (団体・個人) 実績数: 音楽0 美術7 書道191 (単位: 団体・個人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>115</td> <td>198</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>304.6%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】芸術家による講習会や実技指導の実施回数が増加等、指導の充実により各種大会等への入賞実績数も大きく伸びている。</p> <p>評価 【課題】全国大会への出場や入賞、卒業生の活躍など、名西高校芸術科の更なる魅力を県内の中学校へ周知を図る必要がある。</p> <p>今後の取組方針 平成30年度にスタートした、名西高校の音楽サポーター制度を令和元年度からは美術・書道にも拡充し、芸術サポーター制度として実施している。文化の継承・発展に取り組み、次世代アーティストの更なる育成に努めるとともに、芸術科生徒の日頃の成果や取組について、全市町村教育委員会を通じて各中学校へ広く発信し、周知を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	61	115	198				304.6%	65
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
61	115	198				304.6%	65												
145	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>事業目的 「ふるさと徳島」への誇りをもち、郷土を愛する心を醸成するため、学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。</p> <p>取組状況 (R1年度分) 登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうりゆり伝承教室を開催し、44名の小中学生が受講した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,658</td> <td>1,689</td> <td>1,733</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.1%</td> <td>1,698</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位: 人)</p> <p>【令和元年度の成果】「徳島県立城北高等学校人形会館」を会場に使用し、子どもたちに本格的な芝居小屋での発表体験を提供することができました。参加者からは、令和元年11月10日に開催された県主催第4回ジュニア浄瑠璃フェスティバルへの出演者も生まれ、次世代後継者の育成に繋がった。</p> <p>【課題】参加者アンケートでは「伝統文化を身近に感じることができたか」との設問に対し「特に感じた・感じた」と回答する割合は高かった。引き続き、伝統文化への興味関心を醸成していくため、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、効果的な取組を検討していく必要がある。</p> <p>評価 令和2年度は、感染リスク回避のため、毎年夏期休業中に開催している教室を中止。(学校再開後は、夏期休業中に参加可能な児童生徒に限られることと、教室では手取り足取りの「密接」な指導が基本であるため)代替措置として、関係団体と連携しながら、児童生徒の伝統文化に対する意欲関心態度を高めるため、自宅や学校で利用可能なWebでの情報コンテンツを提供するとともに、今後は「新しい生活様式」に合わせたより良い講座形態を検討する。</p> <p>今後の取組方針 担当課 文化資源活用課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	1,658	1,689	1,733				102.1%	1,698
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)												
1,658	1,689	1,733				102.1%	1,698												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																					
146	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■施策・□成果指標 芸術文化を体験する機会の創出 ■中学・高校生による芸術文化活動の取組成果の発信 □徳島県中学校総合文化祭の充実</p> <p>児童生徒が、美術や音楽など優れた芸術活動に触れたり、体験したりする機会を充実させるため、中学校文化連盟が主催する徳島県中学校総合文化祭を支援するとともに、全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭への生徒派遣などの取組を支援します。</p> <p>平成30年度より、私立中学校2校、道徳部会、総合的学習部会、特別活動部会が中学校文化連盟に加入し組織の拡充を図っている。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：一)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】第5回徳島県中学校総合文化祭中央大会への来場者数は2,024名であった。また、全国高総文祭、近畿高総文祭への参加率は75%を越え、充実期を迎えている。</p> <p>【課題】徳島県中学校文化連盟が設立されて5年が経過し、各学校への中央大会の周知や関連行事や中央大会への参加部門の拡大等、更なる拡充を進めていくことが課題である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、徳島県中学校文化連盟、徳島県高等学校文化連盟と連携し、中高生の文化芸術に親しむ機会や発表の場を充実させ、文化芸術力を高めるとともに、全国に向けての発信を行う。</p>	(単位：一)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	推進	推進	推進					推進
(単位：一)																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																	
推進	推進	推進					推進																	
147	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■施策・□成果指標 芸術文化を体験する機会の創出 ■中学・高校生による芸術文化活動の取組成果の発信 □近畿高等学校総合文化祭の充実</p> <p>児童生徒が、美術や音楽など優れた芸術活動に触れたり、体験したりする機会を充実させるため、中学校文化連盟が主催する徳島県中学校総合文化祭を支援するとともに、全国高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭への生徒派遣などの取組を支援します。</p> <p>全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭へ生徒を派遣し、他府県との文化交流や仲間との切磋琢磨を通して貴重な経験や確かな技術を得られた。</p> <p>第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会 15部門166名を派遣 第39回近畿高等学校総合文化祭京都大会 16部門263名を派遣</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：一)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(R1)</th> <th>目標値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>開催</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和元年度の成果】強豪校が集まる文化のインターハイとも呼ばれる全国大会や近畿高等学校総合文化祭に出場し、日頃の成果を披露するとともに、他府県の高校生との交流が図られた。各部門で優秀な成績を収める生徒もおり、部活動の大きな目標の一つとして取り組んでいる。</p> <p>【課題】各種大会での活躍の成果を小中学校へ積極的に周知し、次代へと文化を継承する必要がある。</p> <p>高等学校や中学校文化連盟と連携し、生徒の活動や成果を広く情報発信することにより、文化活動に取り組む小中学生の裾野拡大を目指すし、次代へ繋がる「文化レガシー」として継承していく。</p>	(単位：一)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	準備	開催	推進					開催
(単位：一)																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)																	
準備	開催	推進					開催																	

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と令和元年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
148	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に類く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 優れた芸術作品に触れ合う機会の創出</p> <p>■ 普及行事の実施による「あわ文化」の担い手の育成</p> <p>□ 文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数 (再掲94)</p> <p>担当課 文化の森振興センター</p>	<p>事業目的 文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>各館で様々な普及行事を実施した。 ・ 博物館 110回 ・ 21世紀館 35回 ・ 近代美術館 54回 ・ 鳥居龍藏記念博物館 39回 ・ 文書館 59回 ・ 図書館 15回 (単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>270</td> <td>333</td> <td>312</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>115.6%</td> <td>270回以上</td> </tr> </table> <p>【令和元年度の成果】学芸員の調査研究の成果を活かし、「水生昆虫のかんさつ」や「こども観賞クラブ」、「古文書講座」など、楽しみながら学び、考え、知的探究を満たすことのできる場を提供した。</p> <p>【課題】幅広い世代を対象に、多様な学習機会を提供する必要があるとともに、感染症拡大防止対策を講じ、安心して利用できる環境を整備することが求められている。</p> <p>資料の収集に努め、利用促進を図るとともに、感染症拡大防止対策を講じ、普及事業を実施する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	270	333	312				115.6%	270回以上
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
270	333	312				115.6%	270回以上													
149	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界に類く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>文化・芸術の感動や体験の場の提供</p> <p>■ 魅力ある企画展やイベントの開催</p> <p>□ 文化の森総合公園各文化施設入館者数総計(累計) (再掲95)</p> <p>担当課 文化の森振興センター</p>	<p>事業目的 文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。</p> <p>取組状況 (R1年度分)</p> <p>「とくくしまの恐竜時代」や「とくくしまタイムトラベル〜過去・現在・未来〜」、「美人画の雪月花一培広庵コレクションを中心に」などを開催するとともに、日本最古磁器化石含有層の本格発掘調査を実施し、発見された化石については一般公開を行った。</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(R1)</td> <td>目標値(R1)</td> </tr> <tr> <td>2,125</td> <td>2,250</td> <td>2,338</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.3%</td> <td>2,285</td> </tr> </table> <p>(単位：万人)</p> <p>【令和元年度の成果】文化の森総合公園開園30周年ブレ事業の実施など、魅力的な企画展やイベントを開催した結果、入館者数は所期の目標を達成することができた。</p> <p>【課題】来館する度に新たな発見ができるような、多様な文化を発信するため、収蔵資料のさらなる活用と、より魅力ある手法の開発が必要であるとともに、感染症拡大防止対策を講じ、安心して利用できる環境を整備することが求められている。</p> <p>感染症拡大防止対策を講じ、魅力あるイベントを開催するとともに、新未来型展示の県立博物館グランドオープンに向けた取組を推進することにより、文化・芸術の感動や体験の場を提供し、あわ文化発信拠点として、芸術文化活動の促進に寄与する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)	2,125	2,250	2,338				102.3%	2,285
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(R1)	目標値(R1)													
2,125	2,250	2,338				102.3%	2,285													